

2024 年度

学生便覧

工学部

建築学部

ライフデザイン学部

東北工業大学

東北工業大学の使命・目的と教育方針

■建学の精神

わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する

■ブランドスローガン

未来のエスキースを描く。

■大学の理念

人間・環境を重視した、豊かな生活のための学問を創造し、それらの統合を目指す教育・研究により、持続可能な社会の発展に寄与する

■教育方針

専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を備えた人材の育成

■本学の学生が身に付けるべき「共通学士力」

創造力	培った知識・技能を用いて、積極的・主体的にチャレンジし、学問・技術・環境・製品・サービス等、社会に役立つ新たな価値を創造することができる。	①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
		②論理的思考力	
統合力	創造したものを応用して、社会や人類のために正しく役立てることができるとともに、異文化、異分野、考えの異なるモノや人、多様な物事を組み合わせる柔軟な発想ができ、他者や地域との連携・協力・共創により、社会に貢献することができる。	③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
		④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
		⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

■AEGGポリシー

※「学位授与方針」は、建学の精神や教育方針を踏まえて策定したものであり、その「学位授与方針」を踏まえて「他の3つのポリシー」を策定していることから、これら4つのポリシーの位置付け・関係性を正確に表すため、以下の並び順で記載しています。
(なお、「AEGG」は、入学からの時系列で見た時の各ポリシーの頭文字をとった呼び方です。)

POLICY G1 【学位授与方針】 (Graduation Policy / Diploma Policy)

本学は、本学が定める教育目的及び教育方針に基づき、各学科所定の卒業要件単位を修得することを通して以下の学士力を身に付けた学生に対し、卒業を認定し「学士」の学位を授与する。

- 「共通学士力」を身に付けている。
- 各専門分野（学部・学科）における「専門学士力」を身に付けている。

POLICY G2 【学生の指導方針】 (Guidance Policy)

本学学生の個性を重んじ、その成長と進路の自己設計のため、また、G1ポリシーに掲げる学士力を身に付けさせるため、以下の方針で学生の指導を行う。

- 学内外の多様な正課外活動の体験を通して、社会の一員としての意識を醸成するための指導を行う。
- キャリア教育並びに専門教育科目、研修等を通して、職業人としての意識を醸成するための指導を行う。

POLICY E 【教育課程表の編成・実施の方針】 (Education Policy / Curriculum Policy)

G1ポリシーに掲げる学士力を身に付けさせるため、以下の方針で教育を行う。

- 幅広い知識と理解力を養うとともに、共通学士力と専門学士力を身に付けさせるため、体系的な教養教育と専門教育のカリキュラムを編成する。
- 学士力の向上を意識して学修させるため、各科目と学士力の対応関係を明示するとともに、科目間の繋がりを明確にしたモデルカリキュラムを示す。
- 学士力の達成度を常に把握し、個々の学生に応じたきめ細かな教育を施すため、初年次から卒業までの継続的な少人数教育並びに個別的学修支援を行う。
- 科目ごとの成績評価と、身に付けるべき学士力との対応関係に基づき、学修成果（学士力到達度）を明示する。

POLICY A 【入学者受入の方針（抜粋版）】 (Admission Policy)

本学の人材育成の目標達成のため、入学後の成長が期待される人材として、高等学校等において身につけておくべき資質・能力を、以下に示します。

【入学までに身につけておくべき資質・能力】

- 本学で学ぶ上での基本となる基礎学力（数学・理科・国語・英語など、高等学校で学ぶ全ての教科・科目）と総合的な判断力
- 専門分野に秀でた能力
- 意欲的で明確な目的意識
- 多様な活動実績や一芸に秀でた能力

各選抜において、上記【入学までに身につけておくべき資質・能力】の1～4のうち、いずれかを評価して入学生を受け入れます。

※詳細はこちら



目 次

東北工業大学の使命・目的と教育方針	表紙裏
学年暦	3
1. セメスター制と学期について	4
2. 単位制と授業時間について	4
3. 授業科目の区分	5
4. 履修できる授業科目	5
5. ポータルサイトについて	7
6. スマートフォンアプリ「てくポ」について	7
7. 履修登録の手続きについて	7
8. CAP 制について	8
9. 授業への出席について	9
10. 試験について	11
11. 災害発生時における休講および試験の延期等について	14
12. 成績について	15
13. 地域志向科目	16

工 学 部

教養教育科目履修ガイダンス	17
英語科目の履修要項	20
スポーツ・健康系科目の履修要項	21
地域志向科目の履修要綱	21
「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について	22
他大学等教養科目群・他大学開講科目群	24
電気電子工学科 専門教育科目履修ガイダンス	26
情報通信工学科 専門教育科目履修ガイダンス	37
都市マネジメント学科 専門教育科目履修ガイダンス	47
環境応用化学科 専門教育科目履修ガイダンス	59
卒業後等の取得資格	69

建 築 学 部

教養教育科目履修ガイダンス	76
英語科目の履修要項	79
スポーツ・健康系科目の履修要項	80
地域志向科目の履修要綱	80
「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について	81
他大学等教養科目群・他大学開講科目群	83
建築学科 専門教育科目履修ガイダンス	85
卒業後等の取得資格	97

ライフデザイン学部

教養教育科目履修ガイダンス	100
英語科目の履修要項	103
スポーツ・健康系科目の履修要項	104
地域志向科目の履修要綱	104
「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について	104
他大学等教養科目群・他大学開講科目群	107
産業デザイン学科 専門教育科目履修ガイダンス	109
生活デザイン学科 専門教育科目履修ガイダンス	119
経営コミュニケーション学科 専門教育科目履修ガイダンス	130
卒業後等の取得資格	140

全学部共通

教育職員課程	143
東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程	144
教職課程の履修要項	154

令和6（2024）年度 東北工業大学 学年暦

 前期授業日
 後期授業日
 休業日
 終日休講日
 授業等予備日
 補講日
 ※赤字記載は代替授業日

※学年暦が変更となる場合は、ポータルサイトにてお知らせします。

2024年												2025年											
4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1月		1水		1土	父母懇談会 (青森・秋田)	1月		1木	夏季休業開始	1日		1火		1金	(AOVA選抜) 終日休講	1日		1水	元日	1土		1土	
2火		2木		2日	父母懇談会 (盛岡・新潟)	2火		2金		2月	前期補習①	2水		2土		2月		2木		2日		2日	
3水		3金	憲法記念日	3月		3水		3土		3火	前期補習②	3木		3日	文化の日	3火		3金		3月		3月	
4木	入学式	4土	みどりの日	4火		4木		4日		4水	前期追再試験①	4金		4月	振替休日	4水		4土		4火	(一般選抜A日程)	4火	
5金	CAMPUS OPEN DAY	5日	こどもの日	5水		5金		5月		5木	前期追再試験②	5土		5火		5木		5日		5水	(一般選抜A日程)	5水	(一般選抜B日程)
6土		6月	振替休日	6木		6土	前期補講日①	6火		6金	前期追再試験③	6日		6水	月曜代替授業	6金		6月		6木		6木	
7日		7火		7金		7日		7水		7土		7月		7木		7土	授業等予備日②	7火	冬季休業終了	7金		7金	卒業生発表
8月	前期オリエンテーション①	8水	月曜代替授業	8土	父母懇談会(仙台)	8月		8木		8日		8火		8金		8日		8水		8土		8土	
9火	前期オリエンテーション②	9木		9日		9火		9金		9月	前期追再試験④	9水		9土	父母懇談会(仙台)	9月		9木	月曜代替授業	9日		9日	
10水	前期オリエンテーション③	10金		10月		10水		10土		10火		10木		10日		10火		10金		10月		10月	
11木	前期オリエンテーション④	11土		11火		11木		11日	山の日	11水		11金	(スポーツ大会) 終日休講	11月		11水	(専門総合・公募選抜) 終日休講	11土		11火	建国記念の日	11火	
12金		12日		12水		12金		12月	振替休日	12木		12土	大学祭 (ミニオープンキャンパス)	12火		12木		12日		12水		12水	
13土		13月		13木		13土	授業等予備日	13火		13金		13日	大学祭 (ミニオープンキャンパス)	13水		13金		13月	成人の日	13木	後期成績発表 追再試験時間割発表	13木	
14日		14火		14金		14日		14水		14土		14月	スポーツの日	14木		14土	後期補講日①	14火		14金	後期補習①	14金	
15月		15水		15土	父母懇談会(山形)	15月	海の日	15木		15日		15火	月曜代替授業	15金		15日		15水		15土		15土	
16火		16木		16日	父母懇談会(福島)	16火		16金		16月	敬老の日	16水		16土	授業等予備日①	16月		16木		16日		16日	
17水		17金		17月		17水		17土		17火	夏季休業終了	17木		17日		17火		17金		17月	後期補習②	17月	
18木		18土		18火		18木		18日		18水	後期オリエンテーション①	18金		18月		18水		18土	(大学入学共通テスト)	18火	後期追再試験①	18火	
19金		19日		19水		19金		19月		19木	後期オリエンテーション②	19土	創立記念日	19火		19木		19日	(大学入学共通テスト)	19水	後期追再試験②	19水	学位授与式
20土		20月		20木		20土	オープンキャンパス	20火	(北海道科学大学定期戦)	20金	後期オリエンテーション③	20日		20水		20金		20月		20木	後期追再試験③	20木	春分の日
21日		21火		21金		21日	オープンキャンパス	21水	(北海道科学大学定期戦)	21土		21月		21木	金曜代替授業	21土		21火		21金	後期追再試験④	21金	進級者発表
22月		22水		22土	オープンキャンパス	22月		22木		22日	秋分の日	22火		22金	(指定校等選抜) 終日休講	22日		22水		22土		22土	
23火		23木		23日		23火		23金		23月	振替休日	23水		23土	勤労感謝の日	23月	冬季休業開始	23木		23日	天皇誕生日	23日	
24水		24金		24月		24水		24土	オープンキャンパス	24火		24木		24日		24火		24金		24月	振替休日	24月	
25木		25土		25火		25木	前期授業終了 前期補講日②	25日		25水		25金		25月		25水		25土	授業等予備日③	25火		25火	
26金		26日		26水		26金	前期定期試験①	26月		26木		26土		26火		26木		26日		26水		26水	
27土		27月		27木		27土		27火		27金		27日		27水		27金		27月	後期授業終了 後期補講日②	27木		27木	
28日		28火		28金		28日		28水		28土		28月		28木		28土		28火	後期定期試験①	28金		28金	
29月	昭和の日	29水		29土		29月	前期定期試験②	29木		29日		29火	避難訓練	29金		29日		29水	後期定期試験②			29土	
30火	月曜代替授業	30木		30日		30火	前期定期試験③	30金	前期成績発表 追再試験時間割発表	30月		30水		30土		30月		30木	後期定期試験③			30日	
		31金				31水	前期定期試験④	31土				31木				31火		31金	後期定期試験④			31月	

1. セメスター制と学期について（学則第11条, 12条参照）

大学の1年間は、4月1日に始まり翌年の3月31日に終わります。

本学では、最初の半年を前期、残りの半年を後期に分け、学期ごとに履修登録から単位認定までを完結させる「セメスター制」を採用しています。

学生の皆さんは、各学期の始めに履修登録を行い、授業を受講し、各学期の終わりに試験を受けて、試験に合格すれば単位が取得できます。不合格であった場合は、次のセメスターか、翌年度以降に再度履修登録を行い、同じ授業を再び受講することができます。（これを「再履修」といいます。）

各学年・学期とセメスターの関係は下表の通りです。

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
第1 セメスター	第2 セメスター	第3 セメスター	第4 セメスター	第5 セメスター	第6 セメスター	第7 セメスター	第8 セメスター

2. 単位制と授業時間について（学則第10条参照）

単位数と
学修時間

本学では、「単位制」を採用しています。

単位制とは、各授業科目ごとに一定の基準による単位数が決められていて、その授業科目を所定の時間履修し、試験に合格するとその授業科目に決められている単位が取得できる、という制度です。修業年限中に卒業に必要な単位数を修得すれば卒業することができます。

1単位の授業科目は、45時間の学修を必要とする内容をもって構成されています。

本学における授業科目の単位数算定基準は、講義や演習、実習など、授業の方法に応じ、授業時間外に必要な学習時間を考慮して、学則第10条に定められています。

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題（予習・復習）」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習を行ってください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位（90時間）	1コマ/週（計30時間）	+	60時間/14週
演習・実習	1単位（45時間）	1コマ/週（計30時間）	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習（予習・復習）時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

授業時間帯

なお、本学における各時限（1コマ=100分）の授業時間帯は、以下の通りです。

講 時	授業時間
1 講時	8：50～10：30
2 講時	10：40～12：20
3 講時	13：10～14：50
4 講時	15：00～16：40
5 講時	16：50～18：30

※ただし、期末試験や集中講義、補講、補習等については、上記と異なる時間帯で実施する場合があります。

3. 授業科目の区分

教養教育科目

授業科目は、その内容によって、「教養教育科目」と「専門教育科目」の二つに分けられます。

「教養教育科目」は、「幅広い知識と豊かな人間性を持つ人材の養成」という教育目標の達成のために設けられた科目です。

専門教育科目

「専門教育科目」は、各学科の専門の学芸を修得するためのものです。それぞれの学科が独自に設ける科目ですが、複数学科にわたり共通の科目もいくつかあります。

教職科目

この他に、教育職員免許状取得のための「教職科目」があります。教員免許の取得を希望する学生は、各専門学科の教育課程に加えて、教職科目の修得が必要です。教職科目の詳細については、本学生便覧144ページ以降を参照してください。「教養教育科目」「専門教育科目」のそれぞれに、必修科目と選択科目があります。

必修科目

「必修科目」は、必ず履修して単位を修得しなければならない科目です。この科目の単位を修得しないと、進級や卒業することができません。

選択科目

「選択科目」は、自分の興味や必要性に応じて選択することが可能な科目です。これを計画的に組み合わせて、進級や卒業に必要な単位数を揃えるようにします。各授業科目は、科目の内容および教育目標に応じて、効果的に学習できる学年・学期に配当されています。それぞれの科目の開講時期は、本学生便覧中の、各学科の教育課程表に記載されています。

進級・卒業条件

必修・選択の指定、卒業に必要な単位数、進級に必要な単位数を考慮し、各学科が示している履修ガイダンスを参考にして、計画的に科目履修を進めてください。各学科の卒業に要する最低修得単位数は、履修ガイダンスに記載されています。2年次から3年次、3年次から4年次にそれぞれ進級するための条件は学部学科毎に定められており、条件を満たしていない学生は進級することができません。この進級条件も本学生便覧中の各学科の履修ガイダンスに掲載されています。

4. 履修できる授業科目

- 履修科目は所属学部・学科の教育課程表から選びます。他学科の同名の科目を履修して所属学部・学科の科目に振替えることは原則としてできません。ただし、再履修の場合、他学科で履修できる科目もあります。

先取り履修
特別進級

専門教育科目中の「他学科開講科目群」は、他学科において開設されている授業科目であっても、所属する学科の専門知識として履修することが望ましいとした科目として、他学部他学科の専門科目を規定の範囲内で単位を修得することができます。ただし、開設している学科の学生を優先するので、受講人数を制限する場合があります。

1年生は、所属学科の自分のクラスで開講されているものから優先的に履修してください。

2. 自分より上級学年の科目を履修することはできません。

ただし、工学部と建築学部の2年次に留年した学生に限り、3年次の開講科目の履修を認めることがあります(これを「先取り履修」といいます)。先取り履修によって修得した3年生の科目の単位は、3年次への進級条件の単位数には加算できません。しかしながら、3年次への進級条件を充足し、かつ先取り履修により4年次への進級条件をも満たした場合には、2年次から4年次へ進級することができます。(これを「特別進級」といいます)なお、先取り履修の履修登録方法については、窓口にて問合せください。

3. 1つの時間帯には1科目だけ履修登録することができ、同時に2科目を履修することはできません。

時間割上で同一時間帯に同一学年の科目が2科目以上ある場合(これを並列開講科目といいます)、そのうち1科目だけを選択して履修します。ただし、選択しなかった方の科目を次年度以降に履修することは可能です。

4. 一度単位を修得した科目を再び履修することはできません。

また、カリキュラムが変更になった場合、旧科目名ですでに修得済みの科目は、新しい科目名で再び履修することはできません。

5. 「物理基礎」「数学基礎」等の専門科目は、その学科ごとに授業内容が異なりますので、所属する学科以外の授業は履修できません。

6. 一度不合格となった科目を再履修する場合は、

(1) 各セメスターで再履修クラスが開講されている場合は、再履修クラスで履修してください。

(2) 受講しようとするセメスターに再履修クラスが開講されていない場合は、正規の時間割で履修することが原則です。

(3) 上記が不可能な場合は、所属学科の他のクラスで履修することもできます。

(4) 教養教育科目の場合は、他学部や他学科で履修することもできます。ただし、同一科目名であっても学部ごとに内容が異なる科目の場合は、所属する学部以外の授業は履修できません。

(5) 英語科目の再履修については、20ページを参照してください。

再履修科目と自分の学年の科目が同じ時間帯に重なる場合は、必修科目が優先です。必修科目同士が重なる場合は、低学年の必修科目が優先となります。ただし、実験など、その学年で修得する必要がある科目については、そちらを優先します。

上記(1)～(4)の方法で再履修が不可能な場合、科目担当教員の個別の指導の下に再履修を許可する場合があります(「特別再履修」という)が、すべての科目でこれを行うわけではないので、教務委員、科目担当教員に相談してください。

窓口：学生サポートオフィス

・八木山キャンパス教務学生課(1号館1階)

・長町キャンパス事務室(4号館1階)

再履修

5. ポータルサイトについて

ポータルサイト

大学からの連絡事項は、ポータルサイトから確認することができますので、毎日確認する習慣をつけてください。見落としたために何らかの不利益が生じたとしても、その責任は自分自身が負わなければなりません。また、ポータルサイトの下部にあるタブから、「教務システム」や「STAC（学修成果可視化システム）」へのアクセス、学則・諸規定やオリエンテーション資料等の確認をすることができます。

6. スマートフォンアプリ「てくポ」について

大学からの連絡事項は、てくポからも確認することができます。また、授業の出席についてもてくポで行いますので、必ずダウンロードしてください。

てくポの主な機能は以下の通りです。

- (1) 授業時間割の変更や休講・補講、教室変更等、大学からの連絡事項の確認
- (2) 授業の出席登録・出席情報の確認
- (3) 履修登録
- (4) 時間割の確認
- (5) 成績の確認

7. 履修登録の手続きについて（学則第13, 14条参照）

履修登録

大学では、同じ学科の学生であっても全員が同じ科目を受けるわけではなく、各自が選択した科目を履修しますので、学生ごとに履修科目が異なります。

学生は、毎セメスターの始めに、履修しようとする授業科目を必ず届け出なければなりません。これを「履修登録」といいます。履修登録をしていない科目については、試験を受けることができず、単位を修得することができません。

本学では、履修科目の登録はWeb上で行います。これを「Web履修登録」といいます。

各学期の履修登録の流れは次表の通りですので、必ず指定された期間内に各自Web上で履修登録を行ってください。（Web履修登録期間およびWeb履修登録訂正期間については、別途ポータルサイトや、てくポ等でお知らせします。）

Web履修登録の方法等の詳細については、ポータルサイトに公開されている「Web履修登録マニュアル」を参照してください。

履修登録の流れ

Web 履修登録期間 ※各学期オリエンテーションの日から約1週間程度。 詳細はポータルサイトで周知します。	「Web 履修登録マニュアル」にしたがい、各自 Web 上で履修登録を行ってください。 ※セメスター毎に履修登録できる単位数の上限が定められていますので、その上限内で登録するよう注意してください。（詳細は8ページを参照）
履修登録結果（1回目） の確認	上記期間中の履修登録結果は、履修登録期間後、直ちに内容を確認してください。 履修登録科目は、Web 履修登録でシステムに登録された科目をもって決定となります。登録されなかった科目の単位は認定されませんので、自分が履修登録した科目に、誤りや履修登録漏れが無いが、十分に確認してください。
Web 履修登録訂正期間 ※履修登録結果・1回目終了後1週間程度。 詳細はポータルサイトで周知します。	自分が履修登録した科目に誤りや履修登録漏れ等があった場合、または新たに追加登録したい科目や削除したい科目がある場合には、この期間中に、各自 Web 上で履修登録の訂正を行ってください。
履修登録結果（2回目） の確認	履修登録訂正期間中の内容を反映した履修登録結果は、履修登録期間終了後に Web 履修登録システムで必ず確認してください。

なお、指定された期間内に履修登録ができない場合には、必ず事前に窓口へ相談してください。

<p>履修科目の変更</p> <p>特別な届出の必要な科目</p>	<p>履修登録訂正期間が終了した後に、やむを得ず履修科目の変更（追加履修登録や履修取り消し）を希望する場合は、授業担当教員の許可を得て、『履修変更願』を窓口へ提出してください。</p> <p>ただし、『履修変更願』を提出できる期間は限られています。詳しくはポータルサイトやてくポ等により周知します。</p> <p>以下のような科目は、通常のWeb履修登録での登録ができませんので、履修登録訂正期間最終日までに、窓口で既定の届出用紙を受領し履修登録をしてください。</p> <p>(1) 他学科開講科目・他学部教養科目</p> <p>他学科開講科目または他学部教養科目の履修を希望する場合は、それぞれ所定用紙（「他学科開講科目群履修届」・「他学部教養科目履修届」）に必要事項を記入し、所属学科教務委員の許可、および科目担当教員の許可を得た上で、窓口へ提出してください。</p> <p>なお、他学科開講科目で修得した単位は、「他学科開講科目群」（専門教育科目）の単位として認定され、他学部教養科目で修得した単位は、「他大学等教養科目群」（教養教育科目）の単位として認定されます。</p> <p>ただし、進級・卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なりますので、所属学科の教育課程表を参照してください。</p> <p>(2) 特別再履修科目</p> <p>科目担当教員の個別の指導の下に特別に再履修を受けること（特別再履修）を希望する場合は、所定用紙（「特別再履修許可願」）に必要事項を記入し、科目担当教員の許可を得た上で、窓口へ提出してください。</p> <p>(3) 他大学開講科目</p> <p>他大学で開講される科目の履修を希望する場合は、本学での審査および受け入れ大学・学部での審査がありますので、他の科目よりも早い時期に申込みをする必要があります。申込方法、申込期限、修得単位の取扱い等の詳細については、24ページを参照してください。</p> <p>(4) その他</p> <p>Web上で登録できない科目については、窓口で登録方法を確認してください。</p>
-----------------------------------	---

8. CAP 制について

<p>CAP制の目的</p> <p>履修登録上限単位数</p> <p>CAP制対象外の科目</p>	<p>履修登録することのできる単位数に上限が定められています（これを「CAP制」といいます）。大学での学修には、講義などの授業時間だけでなく、空き時間や自宅で、1回の授業あたり2時間の予習・復習が求められるため、時間割に余裕を持って履修し理解を十分に深めることを目的としています。</p> <p>履修登録することのできる上限単位数は、以下の通り設定されていますので、その単位数を超えないよう十分注意して計画的に履修登録を行ってください。</p> <p>「1 Semester毎」に履修登録することのできる単位数の上限は、「24単位」です。万が一、上限を超えて履修登録してしまった場合には、強制的に履修削除されることがあります。</p> <p>以下の科目の単位数は、履修登録上限単位数には含めません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職科目（ただし、教員免許取得に必要な科目のうち、進級及び卒業に要する単位に算入される科目は、履修登録上限単位数に含めます。） ・特別課外活動（教養教育科目・専門教育科目） ・高大連携特別講座として単位認定申請した科目
---	--

履修登録単位数 上限の緩和	<p>前セメスターの成績がGPA2.6以上で、かつ15単位以上取得した学生は、web履修登録期間中に所定の書式にて窓口申請の上、認められれば当該セメスターの履修上限単位（24単位）を超えて2単位まで追加履修登録できます。</p> <p>なお、休学していた場合は、休学する直前のセメスターの成績を対象として判定します。</p>
------------------	--

9. 授業への出席について

教室	<p>各自が履修する科目の授業に出席します。</p> <p>授業の行われる教室の教室番号は時間割表に掲載されています。教室や開講時間が変更になる場合はポータルサイトやてくポ等で周知します。集中講義など、通常の時間割表に載らないものについてもポータルサイトやてくポ等で周知します。</p>				
出席登録	<p>授業への出席は、てくポを利用して行います。授業開始前に教室へ入室し、各自の携帯端末から出席登録を行ってください。</p> <p>詳しい出席登録方法についてはポータルサイトにマニュアルを掲載しています。</p> <p>なお、授業科目によっては、授業開始後に出席を取る方法や、てくポを利用せずに出席を取る場合がありますので、各授業担当教員の指示に従ってください。</p>				
補講	<p>授業が予定した学習範囲に達しなかった場合や、休講があった場合は、補講が行われます。学年暦で補講日が設けられていますが、通常の週の空き時間に補講を行う場合もあります。どちらの場合も時間と教室はポータルサイトやてくポ等で周知します。</p>				
欠席の限度	<p>それぞれの科目について、総授業時間数の3分の1以上欠席した場合は、試験を受けることができないので、単位を修得することができません（学則第14条参照）。</p>				
特別指導願	<p>別表の事由により授業を欠席する場合は、特別指導願を提出することができます。特別指導とは、別表の事由により授業を欠席した場合、その授業担当教員から指示された相当学修を完了すれば欠席として扱われないというものです。願出は事前に、あるいは欠席後7日以内に添付書類とともに窓口へ提出してください。なお、7日以内に提出が困難な場合は事前に電話等で連絡してください。認められた場合は、速やかに担当教員へ連絡をし、2週間以内に相当学修の指示を受け実施してください。但し、相当学修を完了しない場合は、欠席として扱われますので注意してください。</p>				
長期欠席届	<p>病気や怪我で1ヶ月～3ヶ月の長期にわたって欠席する場合は、医師の診断書を添えて長期欠席届を提出することができます。なお、長期欠席期間中の授業科目出席状況の取扱いについては、学科教務委員ならびに授業担当教員と別途相談してください。</p>				
休学	<p>病気・怪我またはやむを得ない理由で3ヶ月以上修学できない場合は、休学を願出することができますが、休学期間は在学年数に算入しないので4年間で卒業することはできなくなります。また、休学中は下表の休学在籍料を納入しなければなりません。</p> <p>なお、学期の途中から休学を申請する場合は、当該学期の学費納入が必要です。</p> <p>休学在籍料（月額 10,000 円）</p> <table border="1" data-bbox="427 1850 922 1939"> <tr> <td>通年休学の場合</td> <td>120,000 円</td> </tr> <tr> <td>半期休学の場合</td> <td>60,000 円</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>窓口：学生サポートオフィス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階） ・長町キャンパス事務室（4号館1階） </div>	通年休学の場合	120,000 円	半期休学の場合	60,000 円
通年休学の場合	120,000 円				
半期休学の場合	60,000 円				

○別表【特別指導願を使用することができる主な授業欠席の事由】

感染症	種類	出席停止の基準	
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、ポリオ、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ (H5N1)、新型コロナウイルス ※上記の他、新型インフルエンザ等感染症<指定感染症及び新感染症>	治癒したと医師が認めるまで	
	第二種	インフルエンザ ※新型含む (鳥インフルエンザ除く)、新型コロナウイルス	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで
	百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで	
	麻疹 (はしか)	解熱後3日を経過するまで	
	水痘 (みずぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで	
	風疹	発疹が消失するまで	
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで	
	咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで	
	結核	病状により学校医その他医師において感染のおそれがないと認めるまで	
	髄膜炎菌性髄膜炎	病状により学校医その他医師において感染のおそれがないと認めるまで	
第三種	コレラ、腸チフス・パラチフス、腸管出血性大腸菌感染症、細菌性赤痢、流行性結膜炎、急性出血性結膜炎その他感染症	病状により学校医その他医師において感染のおそれがないと認めるまで	
	(条件により出席停止の措置が考えられる疾患) 溶連菌感染症、ウイルス性肝炎、手足口病、伝染性紅斑 (リンゴ病)、ヘルパンギーナ、感染性胃腸炎、マイコプラズマ感染症	全身症状が悪いなど、医師の判断で出席停止を要する場合など	
	【添付書類】 病名の特定できる薬の処方箋または医師の診断書等、但し一週間以上の欠席は出席停止期間を明記した医師の診断書を要する		
忌 引	3親等内の葬儀への参列 (日数は、1親等の場合は7日以内、2親等及び3親等の場合は3日以内とする)		
公共交通機関の運行停止	使用する公共交通機関の運休および遅延によるもの		
教育実習	4年次「教育実習」によるもの (一日体験実習、「教職実践演習」に伴う学校現場見学は除く)		
課外活動	■承認条件 (①及び②-1もしくは②-2を満たすこと) ①学友会所属クラブ・サークルの活動に伴う大会等への参加であること ②-1 全国及び都道府県規模以上の連盟や協会が主催する大会・行事であること ②-2 上記以外の大会・行事の場合は、東北地方大会以上の参加規模であること ※また大会・行事参加前にクラブ・サークル毎に「学外活動届」(大会要項、参加者名簿添付)を提出していることを条件とする。参加者名簿に記載のない者の届出は認めない。 ■学生自主企画助成金に採択された活動		
就職活動	採用選考に係る企業説明会、就職試験、内定式等によるもので、事前に企業と交渉し日程変更ができなかったものに限る。 企業からの案内状等を持参のうえ学科長または就職委員から証明を受けること。		
インターンシップ	実施期間が3日以上インターンシップ等に3日以上参加した場合、もしくは採用選考に係るインターンシップ等に限る。インターンシップ等実施内容を確認できる書類を持参のうえ、学科長または就職委員から事前証明を受けること。 また、インターンシップ等終了後一週間以内に証明を受けた教員に対し、インターンシップ実習報告書を提出し、受理証明を受けること。 ※インターンシップ等とは、「学生のキャリア形成支援に係る産学協働の取組み」で示されたタイプ1～4を指す。 ※教務学生課または長町校舎事務室への提出は、事前証明および実習報告書受理証明後とする。		
国際交流	国際交流委員会で承認した活動		
学会発表	自身の学会発表によるもの		

※不明な点は、窓口まで問合せください。

10. 試験について（学則第14条参照）

試験に関する要綱

（趣旨）

1. 東北工業大学の試験に関する必要な事項については、学則第14条の規定に基づくほか、別に定める「受験者心得」及びこの要綱の定めるところによります。

（試験区分）

2. 試験には、各学期末（授業期間中）に行う試験の他に、定期試験、追試験、再試験及びその他試験があります。

(1) 定期試験とは、前期及び後期の授業期間終了後の定められた期間に行う試験です。なお、各学期末の授業中に行う試験及び定期試験を期末試験と称します。

(2) 追試験とは、病気その他やむを得ない事由により期末試験を欠席した者に対し、本人の願い出により行う試験です。

(3) 再試験とは、期末試験を受験して不合格だった者に対し行う試験です。再試験を実施するか否かは授業科目担当教員によるので、必ず実施されるものではありません。

(4) その他試験とは、学期の途中等授業科目担当教員が必要と認めたときに行う試験です。

（試験方法）

3. 試験はすべて筆記試験が原則ですが、作品、レポート、報告書、論文等の審査の結果をもって筆記試験に代えることがある他、学修支援システムを用いて実施されることがあります。

（成績）

4. 各授業科目の成績は、優（80点以上）、良（65点以上）、可（60点以上）、不可（59点以下）をもって表され、可以上を合格とします。なお、成績評価基準に関しては、当該授業科目のシラバスで確認してください。

（再試験の成績）

5. 再試験における各授業科目の成績は、満点を60点とします。

（受験不適者）

6. 次のいずれかに該当する者は、期末試験を受けることはできません。従って、その科目の単位を修得することができません。

(1) 当該授業科目の履修登録をしていない者

(2) 出席日数不足等のため授業科目担当教員から受験不適とされた者

(3) 当該学期の学費納入金未納の者（ただし、延納許可願いを提出し許可された者を除く。）

（試験の重複）

7. 期末試験において、同一試験時間に2科目以上の試験が重複した場合は、原則として低学年開講の授業科目を期末試験で受験し、他の科目は「試験重複による追試験願」を提出の上、追試験の受験許可を得てください。

（授業との重複）

8. 期末試験において、同一時間に授業が開講されている場合は、原則として期末試験の受験を優先してください。やむを得ず授業を優先する場合は、「授業との重複による追試験願」を提出の上、追試験の受験許可を得てください。

（不正行為）

9. 受験に際しては公正にしなければなりません。試験中（期末試験、追試験、再試験、その他試験）、または作品、レポート、報告書、論文等において不正行為を行った者は、学則第53条に従って懲戒されるとともに、下記の事項が適用されます。

なお、不正発覚後、審理委員会において審議された懲戒処分が教授会で決定するまでの期間は、学科長・教務委員の指導の下、履修登録・受講を認めることがあり

	<p>ます。</p> <p>(1) <u>不正行為におよんだ当該学期（セメスター）の全科目が無効（成績は「不適」）となります。</u></p> <p>(2) 教授会による懲戒処分が決定した翌日から2週間、懲戒内容を学内で公開（掲示）します。</p> <p>(3) 懲戒処分を受けた当該年度において、無効となった科目の特別再履修は認められません。</p> <p>(試験の欠席)</p> <p>10. 期末試験をやむを得ない事由により欠席した者が追試験を願い出る場合は、当該試験の欠席日を含んで7日以内に「試験欠席届」を提出し、追試験の受験許可を得なければなりません。</p> <p>なお、「試験欠席届」を提出する際は、欠席理由を詳細に記載し、以下に例示する証明書等を必ず添付する必要があります。</p> <p>【証明書の例示】</p> <p>(1) 病気、怪我等により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医師の診断書または証明書 ・病院の領収書 <p>(2) 就職試験等により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験票または試験通知書 ・八木山キャンパスキャリアサポート課または長町キャンパス事務室の証明書 <p>(3) 公共交通機関の遅延により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遅延証明書 ・鉄道やバス会社HPの該当ページ写し <p>(4) バイク等の事故または故障により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故証明書 ・修理した店の領収書 <p>(5) 3親等内の葬儀により欠席した場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会葬礼状または死亡診断書(写)(忌引きの日数は、1親等の場合は7日以内、2親等及び3親等の場合は3日以内とする。) <p>(成績発表)</p> <p>11. 成績は、前期及び後期の成績発表日に発表されるので、必ず本人が確認してください。受験した科目が不合格だった場合、科目によっては、所定の手続きの上、再試験を受験できることもあります。</p> <p>(追試験・再試験)</p> <p>12. 追試験及び再試験を受験する場合は、当該試験日の2日前までに受験申し込みを行い、受験票の交付を受けてください。なお、再試験の場合は受験手数料を添えて申し込みをする必要があります。</p> <p>(追試験、再試験の欠席)</p> <p>13. 追試験及び再試験を欠席した場合は、原則として再度の追試験は行われません。</p>
<p>受験者心得</p>	<p>(入室)</p> <p>1. 受験者は、試験開始5分前までに所定の試験室に入室してください。</p> <p>(着席)</p> <p>2. 受験者は、試験室において指定の座席に着席してください。ただし、座席が指定されていない場合は、試験監督者の指示に従ってください。</p> <p>(入室限度)</p> <p>3. 試験開始から25分以内に限り遅刻者の入室を認めますが、試験時間の延長は認め</p>

られません。

(退室)

4. 受験者の退室は、試験終了後、答案用紙の回収及び部数確認作業、または解答状況の確認作業が終了するまで、認められません。

(学生証・受験票)

5. 試験を受ける際は、必ず机の上に学生証を提示してください。なお、追試験の際は追試験受験票、再試験の際は再試験受験票もあわせて提示してください。

(特別受験票)

6. 学生証の不携行者は、特別受験証明を監督者に願い出て特別受験票の発行を受け、机の上に提示しなければなりません。(追試験の際の追試験受験票、再試験の際の再試験受験票の不携行についても同様とする。)

(特別受験票発行後の手続き)

7. 学生証不携行で受験した場合は、受験した日の翌日から数えて4日以内に特別受験票(学生用)に学生証を添えて窓口に提出し、検印を受けなければなりません。(追試験受験票、再試験受験票を不携行で受験した場合についても同様に特別受験票に当該受験票を添えて提出すること。)なお、この手続きを怠った場合は、当該試験の受験が無効となる場合があります。

(持込許可)

8. 机に出すことが許可される物品は、学生証、受験票、筆記用具(筆箱は除く)及び時計(スマートウォッチ(タッチスクリーンとCPUを搭載した多機能型腕時計)は除く)に限ります。ただし、当該試験科目担当教員が必要と認めたものはこの限りではありません。

(持込不可)

9. 8.以外の物品は、カバンに入れて自席の椅子の下又は試験監督者の指示する場所に整理して置いてください。机の中には一切物品を入れることは禁止します。

10. 携帯電話等の通信機器は電源を切ってカバンに入れてください。机に出すことはできません。

ただし、当該試験科目担当教員が必要と認めた場合はこの限りではありません。

(試験中)

11. 試験中は、厳正な態度で臨み、以下の事項に注意して受験してください。

(1) 試験中、受験者間の交渉は一切認められません。

(2) 試験中は試験室内外ともに静粛にするよう心掛けなければなりません。

(3) 試験室内で配布された解答用紙は、持ち帰ってははいけません。

(4) 試験中、試験監督者に用件のある場合は、黙って挙手をしてください。

(5) 答案用紙に所属学科、学年、学生番号及び氏名の記入がないものは無効となる場合があります。

(不正行為)

12. 受験者は不正行為および不正と疑われるような行為をしてはなりません。不正行為は、試験室で指摘された場合に限らず、採点の際発見された場合も不正行為として取扱いを受けます。

なお、次のいずれかに該当した場合は、解答用紙への書き込みの有無にかかわらず、不正行為と認定されます。

【不正行為と認定される事例】

(1) 代人に受験させた場合、又は代人として受験した場合

(2) 他人のために答案やメモなどを見せた場合、又は他人に答案やメモなどを書いてもらった場合(通信機器を使って送受信した場合も同様)

(3) 他人の答案を見た場合、又は他人に自分の答案を見せた場合

- (4) 答案用紙を予め用意した用紙あるいは他人の用紙とすり替えた場合
- (5) 机に出すことが許可された物品以外のものを見た場合、又は出した場合
- (6) 机に出すことが許可された物品（ノート等を除く）や机などに不正な書き込みをした場合
- (7) 机に出すことが許可された物品を監督者の許可を得ずに貸借した場合
- (8) 言語や動作をもって試験の内容について互いに連絡した場合
- (9) 答案用紙を持ち帰った場合
- (10) 監督者の指示に直ちに従わない場合

11. 災害発生時における休講および試験の延期等について

休講および試験の延期等について

大規模災害等（大規模地震・台風・大雪・洪水等）が発生した場合、あるいは予想される場合は、以下の措置を行います。

仙台市全域において学生および教職員の通学、通勤が困難な場合は、両キャンパス（全学部）において、下記により休講および試験の延期措置を行います。（目安：JR 在来線が不通）

休講および試験の延期等を行う際の情報の提供について

休講および試験の延期等の措置を行う際は、以下の方法により周知します。

1) 大規模地震発生等の場合

授業の休講や試験の延期等に係る情報提供は、原則として本学Webサイト、ポータルサイト、てくぽならびに報道機関を通じ、できる限り速やかに周知いたします。

2) 台風・大雪等の場合又はこれらが予想される場合

台風、大雪等の場合又はこれらが予想される場合は、原則として本学Webサイト、ポータルサイト、てくぽならびに可能な場合は報道機関を通じ、前日午後7時までには周知いたします。

休講および試験の延期となった科目は原則、授業等予備日に行います。対応が決定次第、本学Webサイトやポータルサイト、てくぽ等でお知らせします。

授業や試験を受けられない又は遅刻した場合の取扱い

公共交通機関の運休時、その影響による遅延や交通事情による障害のため、授業や試験を受けられなかった場合は、次の通り取り扱います。

所定の届け出用紙（当該公共交通機関発行の遅延証明書等必須）により定められた期日まで手続きした場合の取り扱いは以下の通りです。詳細はお問い合わせください。

- 1) 授業については「特別指導」を受けることができる。
- 2) 試験については追試験対象者とする。

窓口：学生サポートオフィス
 ・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）
 ・長町キャンパス事務室（4号館1階）

12. 成績について

GPA

各学期末の成績発表日にSTAC（学修成果可視化システム）またはてくポ等で確認できます。必ず本人が確認し、必要に応じて履修指導を受けてください。

STACには、履修した全科目の成績が記載されます。また進級や卒業条件となる科目区分ごとの修得単位数や、『合格した科目の平均点』および『GPA』が記載されます。

『GPA（Grade Point Average）』とは、履修登録した各授業科目の成績を、それぞれ5段階で評価した値の平均値であり、学力を客観的に計る方法として、主に欧米の大学などで一般的に用いられ、日本の大学でも導入が進められている成績評価指標の一つです。

GPAは、以下の計算式により、算出されます。

【成績5段階評価の区分】

成績	Grade	Grade Point
90～100点	A	4.00
80～89点	B	3.00
70～79点	C	2.00
60～69点	D	1.00
不可・不適	F	0.00

【GPAの計算式】（小数第3位を四捨五入して第2位まで表示します）

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Aの修得単位数}) + (3 \times \text{Bの修得単位数}) + (2 \times \text{Cの修得単位数}) + (1 \times \text{Dの修得単位数})}{\text{履修登録科目の単位数 (F (不可・不適) の科目の単位数を含む) の合計}}$$

GPAには、不合格（不可・不適）の科目も算入されるので、不合格科目があるとGPA評価を下げることになります。（「不可」は期末試験などの成績評価で不合格となった科目、「不適」は出席日数不足や試験を受けない等により履修放棄となった科目です。）

【GPAを用いた学修指導】

GPAが基準値未満の者は、進路変更指導を含む学修指導を受けることとなります。

下記の表のとおり基準値は学科ごと異なります。

工学部	GPA 値
電気電子工学科	GPA1.00 未満の者
情報通信工学科	2セメスター連続でセメスター毎 GPA が 1.00 未満の者
都市マネジメント学科	GPA1.00 未満の者
環境応用化学科	2セメスター連続でセメスター毎 GPA が 1.00 未満の者

建築学部	GPA 値
建築学科	GPA1.00 未満の者

ライフデザイン学部	GPA 値
産業デザイン学科	各学期終了時点の専門科目 GPA が 1.00 未満の者
生活デザイン学科	セメスター毎 GPA が通算2回（2セメスター）1.00 未満の者
経営コミュニケーション学科	2セメスター連続でセメスター毎 GPA が 1.00 未満の者

GPA：第1セメスターから直近セメスターまでの教職科目を除いた通算の GPA
セメスター毎 GPA：セメスター毎の教職科目を除いた GPA

大学院への推薦基準など成績の総合評価にGPAを用います。

13. 地域志向科目

地域志向科目

本学では、平成26年度に、文部科学省が実施する「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、「オールせんだいライフデザイン実践教育共創事業」をテーマに、教育、研究、社会貢献の活動を通じて、地域の産業や文化の発展に貢献できる人材の育成を目的に実施してきました。

各学科では、地域志向科目が開講されており、学生の皆さんは、これらの科目を履修することで、地域社会で即戦力として活躍できる人材になるための能力を身に付けることが可能になっています。

（各学科の履修ガイダンス「7. 地域志向科目」参照）

具体的な「地域志向教育」を担う「地域志向科目」の設定および授業内容は、下記のとおりです。

(1) 「地域志向科目」とは、ハード（技術）とソフト（デザイン）の両面およびそれを融合させた内容で構成し、目標とする人材を養成するために設定された科目。

(2) 「地域志向科目」の授業内容

- 1) 自治体（地域）が有する課題の認識や地域づくり（地域振興・イノベーション創出）の事例
 - ① 地域づくり（人・モノ・場・情報）の事例
 - ② 地域・産業・技術のイノベーション展開事例
 - ③ 地下鉄東西線沿線の課題解決に向けた取り組み
 - ④ 地域における防災・減災
- 2) 地域産業における製品や技術・情報の高付加価値化の手法
 - ① 固有技術の高度化
 - ② 次世代に対応した先進技術
 - ③ デザイン・マーケティング・プロモーション
- 3) 地域における「魅力」の発見、「豊かさ」の追求に向けた取り組み
 - ① 地域における「暮らし」と「なりわい」
 - ② 地域の資源（人・歴史・文化・伝統・自然・動植物・もの・素材・その他）の活用
 - ③ 地域の環境とエネルギー
 - ④ 都市計画や住空間
 - ⑤ 福祉と健康
- 4) 持続可能な社会構築に向けた鳥瞰的視野の醸成
 - ① 環境負荷低減に向けた取り組み
 - ② 将来の仙台のまちづくりに向けた取り組み
 - ③ まちづくりにおけるソーシャルビジネス・コミュニケーションビジネス（地域住民・企業・NPO・NGOの参画）の展開
- 5) その他「地域志向教育」により目標とする人材の養成に資すると考えられる授業内容

工学部

教養教育科目 履修ガイダンス

カリキュラムの特徴

専門的な知識や技術のみに偏ることのない広い視野，市民としての常識，豊かな人間性を身につけるために「社会性」「人間性」「文化性」「科学力」「人間力」「表現力」「健康」「学際」という多彩な科目群を設け，幅広く学修することによって，専門課程で修得した知識や技術を地域社会や国内外において正しく活かすことができるような人材の育成を目指す。

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 段目		2 段目		3 段目	
学部区分	学科区分	分野		学習進度+通し番号	
F	GE	LE		111	
FGE-LE-111					

※「スタディスキルⅠ」（1年次開講）の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 段目 (学部区分)	
F	工学部/建築学部/ライフデザイン学部
E A	工学部/建築学部
L	ライフデザイン学部
(学科・科目区分)	
GE	教養教育科目
Z	教職科目

2 段目 (分野)		
CCS	教養教育	地域・文化・社会
LE		言葉と表現
MPH		心と体の健康
IDP		学際
Z	教職	教職

3 段目 (学習進度+通し番号)	
100番台	学習進度1クラスレベル
200番台	学習進度2クラスレベル
300番台	学習進度3クラスレベル
400番台	学習進度4クラスレベル
500番台	学習進度5クラスレベル
600番台	学習進度6クラスレベル
700番台	学習進度7クラスレベル
800番台	学習進度8クラスレベル
000番台	その他(レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FGE-CCS-101	キャリアデザインⅠ	2							
FGE-CCS-121	人工知能総論	2							
EAGE-CCS-141	表象文化論	2							
EAGE-CCS-142	現代社会論	2							
FGE-LE-111	スタディスキル	2							
FGE-LE-131	英語ⅠA	2							
FGE-LE-141	英会話Ⅰ	2							
FGE-MPH-111	健康・運動科学実習Ⅰ	2							
FGE-CCS-222	人工知能入門		2						
FGE-CCS-231	グリーンテクノロジー		2						
FGE-CCS-241	東北文化史		2						
FGE-CCS-242	メディア文化史		2						
FGE-LE-232	英語ⅠB		2						
FGE-LE-242	英会話Ⅱ		2						
FGE-MPH-212	健康・運動科学実習Ⅱ		2						
FGE-CCS-302	キャリアデザインⅡ			2					
FGE-CCS-332	サステナビリティ入門			2					
FGE-LE-333	英語ⅡA			2					
FGE-LE-343	英会話Ⅲ			2					
FGE-LE-351	資格英語Ⅰ			2					
FGE-MPH-321	スポーツ科学実習			2					
FGE-CCS-411	市民と法				2				
FGE-CCS-412	暮らしと心理学				2				
FGE-CCS-433	地球環境と諸問題				2				
FGE-LE-434	英語ⅡB				2				
FGE-LE-444	英会話Ⅳ				2				
FGE-LE-452	資格英語Ⅱ				2				
FGE-CCS-503	キャリアデザインⅢ					2			
FGE-CCS-512	産業社会と心理学					2			
FGE-CCS-513	産業社会と倫理					2			
FGE-CCS-523	人工知能基礎					2			
FGE-CCS-531	職業指導(工業)					2			
EAGE-CCS-532	情報社会とモラル					2			
FGE-CCS-533	工業概論					2			
FGE-CCS-541	情報社会の経済					2			
FGE-CCS-542	日本国憲法					2			
FGE-LE-553	資格英語Ⅲ					2			
FGE-CCS-624	人工知能応用						2		
EAGE-CCS-634	情報と職業						2		
EAGE-CCS-641	科学思想史						2		
EAGE-CCS-642	ビジネスマナー						2		
FGE-CCS-661	フランスの文化と言葉						2		
FGE-CCS-662	韓国の文化と言葉						2		
FGE-CCS-663	中国の文化と言葉						2		
FGE-CCS-664	異文化理解						2		
FGE-CCS-711	現代の哲学							2	
FGE-IDP-010	特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-020	特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-030	特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-040	特別課外活動Ⅳ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-050	他大学等教養科目群	…	…	…	…	…	…	…	…

教養教育科目の履修の流れ (工学部)

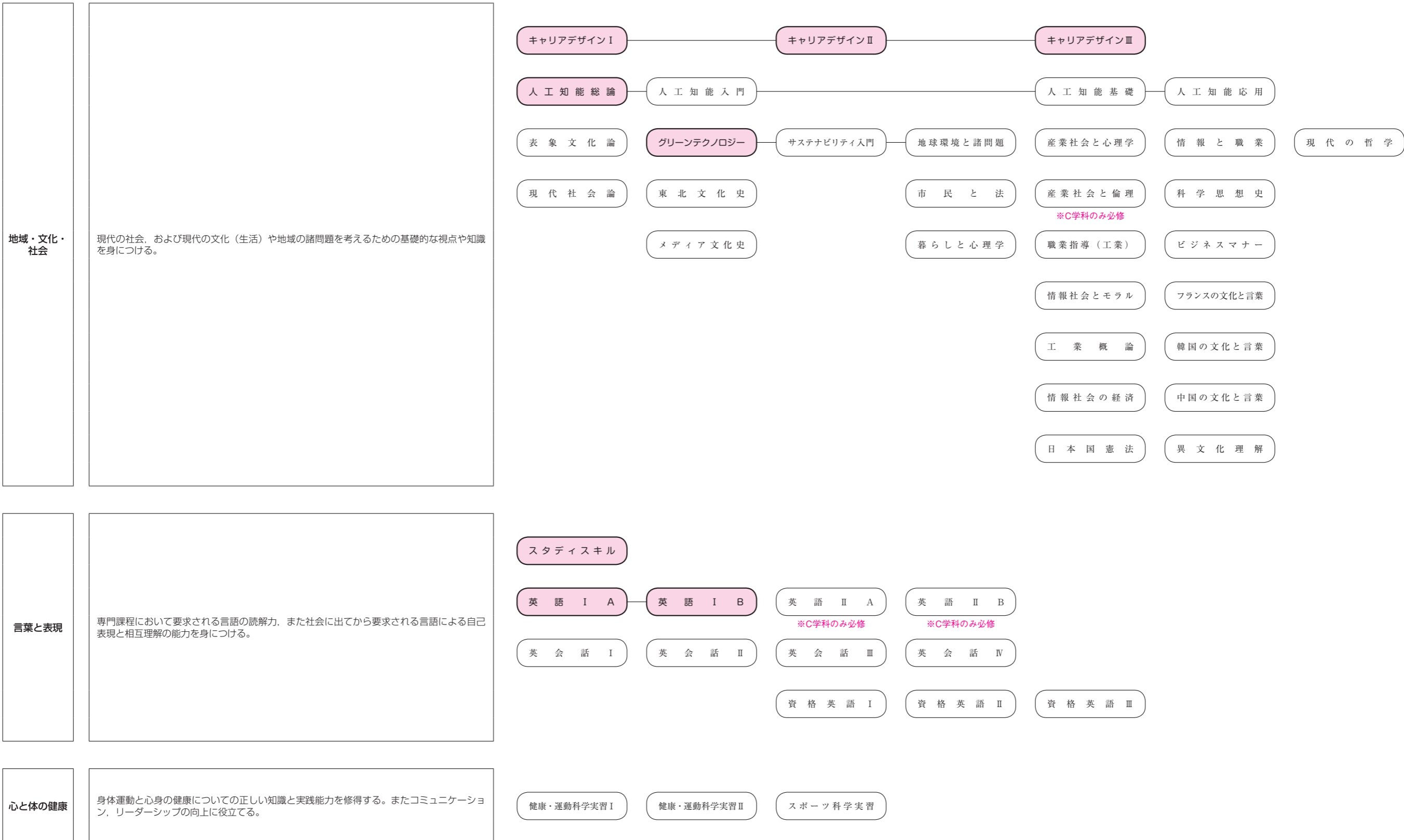
総合教育センター 学習・教育目標

1. 自ら考えて行動できる市民として必要な教養（素養）を身につけること。
2. 工学・建築学およびライフデザイン学を学ぶための基礎的知識を身につけること。
3. 高等学校教育から大学教育に円滑に移行するための基礎学力を身につけること。
4. 高校教員免許状取得を目指す学生に必要な基礎的（専門）知識を身につけること。

必修科目

選択科目

科目群の学習・教育目標



英語科目の履修要項

近年、日本の多くの高等教育機関で、教育の質の保証という観点から、客観的な成績評価の指標として、資格試験が利用されています。また、エントリーシートへの資格試験成績の記入や、入社後の受験を義務づけ、昇格の条件として用いる大手企業なども増加しています。こうした状況に鑑みて、本学では、文系・理系の両分野において有用な資格である TOEIC (Test of English for International Communication) を念頭に置いた演習を、英語教育に取り入れています。資格試験対策としては継続的な学習が最も重要ですから、1年次から目的意識を持って履修計画を立ててください。

1. 履修科目

〈必修科目〉(1年次)

英語科目は、「読む、書く、聞く、話す」の四技能の養成を目的とし、以下の必修科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数	
		1年	
		前期	後期
英語ⅠA	1	2	
英語ⅠB	1		2

※都市マネジメント学科のみ「英語ⅡA」及び「英語ⅡB」を必修とする。

「英語ⅠA」及び「英語ⅠB」は、基礎的文法項目の学習を中心とする科目です。

〈選択科目〉(1・2・3年次)

各自のニーズと目的に合った英語学習を行うため、以下の選択科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数					
		1年		2年		3年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
英語ⅡA	1			2			
英語ⅡB	1				2		
英会話Ⅰ	1	2					
英会話Ⅱ	1		2				
英会話Ⅲ	1			2			
英会話Ⅳ	1				2		
資格英語Ⅰ	1			2			
資格英語Ⅱ	1				2		
資格英語Ⅲ	1					2	

「英語ⅡA」及び「英語ⅡB」は、英米文化を学習する科目です。

「英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、外国人講師による speaking, listening を中心とした実践的英会話、および TOEIC リスニングセクション対策の基礎となる演習を行います。

「資格英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、TOEIC 対策に特化した 400～500 点以上のレベルの演習を行います。受講者は、TOEIC IP テスト受験が義務付けられます。

<p>2. 英語科目の 再履修に ついて</p>	<p>「英語ⅠA」「英語ⅠB」・「英語ⅡA[*]」「英語ⅡB[*]」（※都市マネジメント学科のみ必修）の単位未修得者（成績評価が「不可」の者）は、再履修クラスを受講してください。ただし、前期は「英語ⅠB」「英語ⅡB（都市マネジメント学科のみ開講）」を対象とした再履修クラス、後期は「英語ⅠA」「英語ⅡA（都市マネジメント学科のみ開講）」を対象とした再履修クラスのみが開講されます。再履修クラスを受講できない場合には、各学科の正規クラスで再履修してください。また、各科目の成績評価が「不適」の学生は、再履修クラスを受講できませんので、各学科の正規クラスを受講してください。</p>
----------------------------------	---

スポーツ・健康系科目の履修要項

	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ・健康系科目の開講時期及び単位数は以下の通りです。 健康・運動科学実習Ⅰ 1年次前期 1単位 健康・運動科学実習Ⅱ 1年次後期 1単位 スポーツ科学実習 2年次前期 1単位（集中コースでも履修可能） 2. 開講されている科目は全て卒業単位（教養教育科目）に認められます。 3. 教員免許の取得を希望する学生は健康・運動科学実習Ⅰおよび健康・運動科学実習Ⅱを必ず履修してください。 4. スポーツ科学実習の集中コースは、希望者が多数の場合に、施設・用具の関係で人数制限を行っています。
--	--

地域志向科目の履修要綱

	<p>本学は仙台市を中心とした宮城県内の地域と連携した教育・研究・社会貢献に関わり、特に地域志向を目指す教育を重要視しています。</p> <p>地域志向教育では以下の3つの人材育成を目的としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題を発見し、その解決策を探求でき、地域産業が求める知識や技術を有する人材 2. 地域企業の役割を理解し、地域産業を発展的に世界に発信していくことができる人材 3. 新しいライフデザインの提案を創造実践できる人材 <p>本学では地域貢献できる学生の資質向上を図り、地域志向科目を開講しています。地域志向科目はシラバスの該当科目において示しています。</p>
--	---

「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について（教養科目）

科目設定の趣旨

大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではありません。芸術活動、クラブ活動、セミナー参加、インターンシップ参加などにより、文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ、人間形成を行う事が重要です。

これを奨励するため、本学では入学後に取得した資格や学内外での様々な活動を、教養教育科目「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）、「特別課外活動Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）として認定しています。

詳細については、窓口を確認してください。

単位認定の対象活動

本学在籍期間中に行った自主的・能動的活動のうち、本学の教育目標にふさわしいと認められる特別な課外活動を対象に、審査の上、単位認定します。

その対象区分は当面、以下のⅠ～Ⅷとしますが、これらの項目に該当しないものについて申請があった場合も、教務委員会で審査して妥当性を判断し、場合によっては対象項目の拡張を検討します。

(Ⅰ) 資格取得または検定等の主な認定例 1～2単位

資格取得または検定	単位	資格取得または検定	単位
第一種電気工事士	2	第二種電気工事士	1
工事担任者 AI・DD総合種	2	映像音響処理技術資格	1
基本情報技術者	2	ITパスポート	1
第一級陸上特殊無線技士	2	情報検定情報システム	1
宅地建物取引士	2	エックス線作業主任者試験	1
危険物取扱者甲種	2	危険物取扱者乙種	1
TOEIC 600点以上	2	TOEIC 400点以上	1

詳細は窓口にお問い合わせのこと。

(Ⅱ) 体育、文化及び芸術活動における顕著な業績をもつ活動 1～2単位

(Ⅲ) ボランティア活動（活動証明の得られるもの）

① 実活動時間が合計40時間以上の活動 1単位

② 実活動時間が合計80時間以上の活動 2単位

※必ずしも単位取得に結びつかない場合があります。参加を希望する学生は事前に窓口にて手続きを行ってください。

(Ⅳ) インターンシップ等制度による活動

① 5日以上かつ昼休み、休憩等を除く30時間以上の活動で参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験を行うもの 1単位

② 10日以上かつ昼休み、休憩等を除く60時間以上の活動で参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験を行うもの 2単位

※1事業所あたり、3日以上活動で参加期間の半分を超える日数を職場で就業体験を行うものであれば、複数事業所との組み合わせも可能である。

※インターンシップ等のカリキュラムの内容によっては、単位取得条件を満たさない場合があるので、単位取得を希望する学生は参加する前にキャリアサポート課・長町校舎事務室に相談すること。

(Ⅴ) 国際活動 2単位

① 国際交流委員会が認めた国際交流活動、国際交流に関する研修・セミナーへの参加

② 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う海外研修

(Ⅵ) 教務委員会指定の課外活動 1～2単位

① 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う学外または学内研修、特別講座へ

の参加

② 教務委員会が認めた学外または学内活動への参加

(Ⅶ) 高大連携講座 2単位

本学と高等学校との協定により実施された「高大連携講座」を本学入学前に修了
(ただし、協定により他科目での単位認定が取り決められている講座を除く)

(Ⅷ) 学科指定の課外活動 1～2単位

◆電気電子工学科

・みやぎカーインテリジェント人材育成センター研修講座 1～2単位

総講義時間：所定の時間以上を対象。修了証のコピーとレポートの提出が必要

・みやぎ高度電子機械人材育成センター研修講座 1～2単位

修了証のコピーとレポートの提出が必要

※事前に窓口にお問い合わせのこと。

◆情報通信工学科

(1) 学外研修・講習に参加して修了証を提出する

・MISAインターンシップ 1～2単位

・みやぎ高度電子機械人材育成センター研修講座 1～2単位

(2) そのほか学科が指定または推奨するセミナーおよび学外活動 1～2単位

※事前に窓口にお問い合わせのこと。

◆都市マネジメント学科

以下に示す活動に参加した場合、合計5ポイントが1単位の認定となる目安とします。

対象活動	ポイント
現場見学会(学科で企画したもの)等	1～2pt/回
インターンシップ(学科で紹介したもの)	1pt/日
プランナー研修	10pt/一式

インターンシップの認定は上記の(Ⅳ)の項目に準じます。「プランナー研修」を実施する場合は詳細などについて開講前に説明します。

※事前に窓口にお問い合わせのこと。

◆環境応用化学科

(1) 現業実習 1～2単位

(2) 学外講習会への参加 1～2単位

(3) 各種環境関係のNPO活動への参加 1～2単位

※事前に窓口にお問い合わせのこと。

単位認定および
評価の方法

(1) 単位認定は学生による自己申請に基づくことを原則とします。

(2) 申請は毎学期末(7月末, 1月末)とします。

(3) 単位認定希望者は、次の書類を添付してポータルサイトからオンライン申請してください。(申請方法等の詳細については、別途ポータルサイト等でお知らせします。)

対象区分(I)の場合…資格取得、検定合格等を証明する書類

(但し、本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること)

対象区分(Ⅱ), (Ⅲ)の場合

① 活動を証明するもの(但し、本人の名前が明示されているものの原本を提示すること)

② 課外活動における本人の位置付け、活動の内容、成果・業績等を記載したレポート(A4判, 1000字程度)

③ 団体活動の場合は、個人の活動を証明する第三者（クラブ顧問、団体活動の指導者・担当教員等）の証明書類

対象区分(Ⅳ), (Ⅴ), (Ⅵ), (Ⅶ)の場合

① 活動を証明する書類（本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること。ただし、Ⅳの場合は写しでも可）

② 活動の動機、活動の内容、活動の成果、活動で得たこと等を記載したレポート（A4判、1,000字程度）

対象区分(Ⅷ)の場合…修了証

(4) 単位認定の審査は教務委員会で行い、教務委員長が単位認定します。なお、成績は“認定”扱いとし、GPAと平均点には算入しません。

(5) 認定基準

認定は次の3つの観点から行います。

- ・活動における自主性、能動性の度合い
- ・活動内容の充実度
- ・活動の成果の大きさ

窓口：学生サポートオフィス

- ・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）
- ・長町キャンパス事務室（4号館1階）

他大学等教養科目群（教養科目）・他大学開講科目群（専門科目）

学都仙台単位互換ネットワーク

本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しています。本学学生は「特別聴講学生」として、ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができ、各大学に通学して受講します。修得した単位は、所定の単位数まで、本学で履修した単位として認定できます。

「学都仙台単位互換ネットワーク」は、仙台圏の国・公・私立の大学・短期大学・高等専門学校及び山形県の東北芸術工科大学の各大学間で、意欲ある学生に対し多様な学修機会を提供する事を目的として発足した制度です。各大学より文化、芸術、政治、経済、自然科学等、多くの学問分野にわたる科目が提供されています。

検定料、入学料、授業料（但し、放送大学宮城学習センターを除く）を別途徴収されることはありません。

学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学の提供科目を受講する場合は、本学で選考の上、受入大学に依頼を行い、受入大学から受入通知が来た時点で履修登録を行うこととなりますので、申し込みは通常の履修登録より早い時期に行われます。

受講を希望する学生は、まず所属学科の教務委員やクラス担任と相談の上、本学の授業に差し支えないことを確認し、下記の要領に基づいて窓口で申請手続きを行ってください。

参加大学

1. 学都仙台単位互換ネットワーク参加大学

石巻専修大学、尚綱学院大学、仙台白百合女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北生活文化大学、東北大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学、宮城大学、聖和学園短期大学、東北生活文化大学短期大学部、仙台高等専門学校、放送大学、仙台青葉学院短期大学、宮城誠真短期大学（なお、年度により、募集を行わない大学もあるので事前に確認してください）

<p>科目と対象</p> <p>出願期限</p> <p>他学部教養科目の履修</p>	<p>2. 他大学の募集要項, 提供科目 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトで確認してください。</p> <p>3. 対象者 本学に在学する1年生(後期のみ), 2, 3年生, 4年生(前期のみ)</p> <p>4. 対象科目 原則として, 自分の学年より上級学年対象の科目の受講は認められません。</p> <p>5. 進級, 卒業単位に算入できる単位数 「他大学等教養科目群」または「他大学開講科目群」として進級, 卒業単位に算入できる単位数の上限は, 学科によって異なりますので, 各学科の教育課程表を参照してください。</p> <p>6. 出願期限 出願期間は前期科目及び通年科目と後期科目で異なるほか, 開講する大学によって異なります。 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトに記載の出願期限とは別に学内期限があります。事前に窓口で確認してください。</p> <p>7. 諸注意 出願において, 本学または受け入れ大学で履修を許可しない場合もあるので, 事前にクラス担任, 学科の教務委員と相談してください。 万一, 途中で履修を取りやめるようなことがあると, 受入大学に多大な迷惑をかけることとなりますので, 無理のない履修計画を立ててください。 ほぼ全ての大学で, 自家用車での通学を認めていませんので, 通学にあたっては公共の交通機関を利用してください。</p> <p>本学の他学部において教養科目として開講している科目を履修することができます。修得した単位は, 「他大学等教養科目群」として認定されます。ただし, 進級, 卒業単位に算入できる単位数の上限は, 学科によって異なりますので, 各学科の教育課程表を参照してください。特別の届出用紙での履修登録が必要です。(8ページを参照)。 ※同一セメスターに開講される同一名称の科目の取り扱いは, この限りではありません。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 20px auto; width: fit-content;"> <p>窓口：学生サポートオフィス ・八木山キャンパス教務学生課(1号館1階) ・長町キャンパス事務室(4号館1階)</p> </div>
--	--

工 学 部

電気電子工学科

専門教育科目

履修ガイダンス

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	分野	難易度+通し番号		
E	E	F	101		
EE-F-101					

※電気電子工学科「電気電子工学セミナー」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
E	工学部

2 列目 (学科・科目区分)	
E	電気電子工学科・専門教育科目
T	情報通信工学科・専門教育科目
C	都市マネジメント学科・専門教育科目
K	環境応用化学科・専門教育科目

3 段目 (分野)			
A	電気電子工	工学基礎	
B		電気電子(基礎)	
C		電気電子(応用)	
D		情報(基礎)	
E		情報(応用)	
F		実験・セミナー	
X		その他	
A		情報通信工	工学基礎
B	情報		
C	通信		
D	セミナー・研修		
X	その他		
A	都市マネジメント	自然科学基礎(数学)	
B		自然科学基礎(物理学・化学)	
C		土木工学基礎(材料・構造)	
D		土木工学基礎(地盤・地質)	
E		土木工学基礎(海岸・河川)	
F		土木工学基礎(関連技術)	
G		計画・マネジメント	
H		環境・防災	
I		実験・エンジニアリングデザイン	
J		セミナー・研修等	
X		その他	
A		環境応用化学	工学基礎
B			化学(基礎)
C	化学(応用)		
D	環境学		
E	実験・セミナー・研修		
X	その他		

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル(大学1年次レベル)
200 番台	中級レベル(大学2年次レベル)
300 番台	上級レベル(大学3年次レベル)
400 番台	専門レベル(大学4年次レベル)
000 番台	その他(レベル分けができない科目、例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

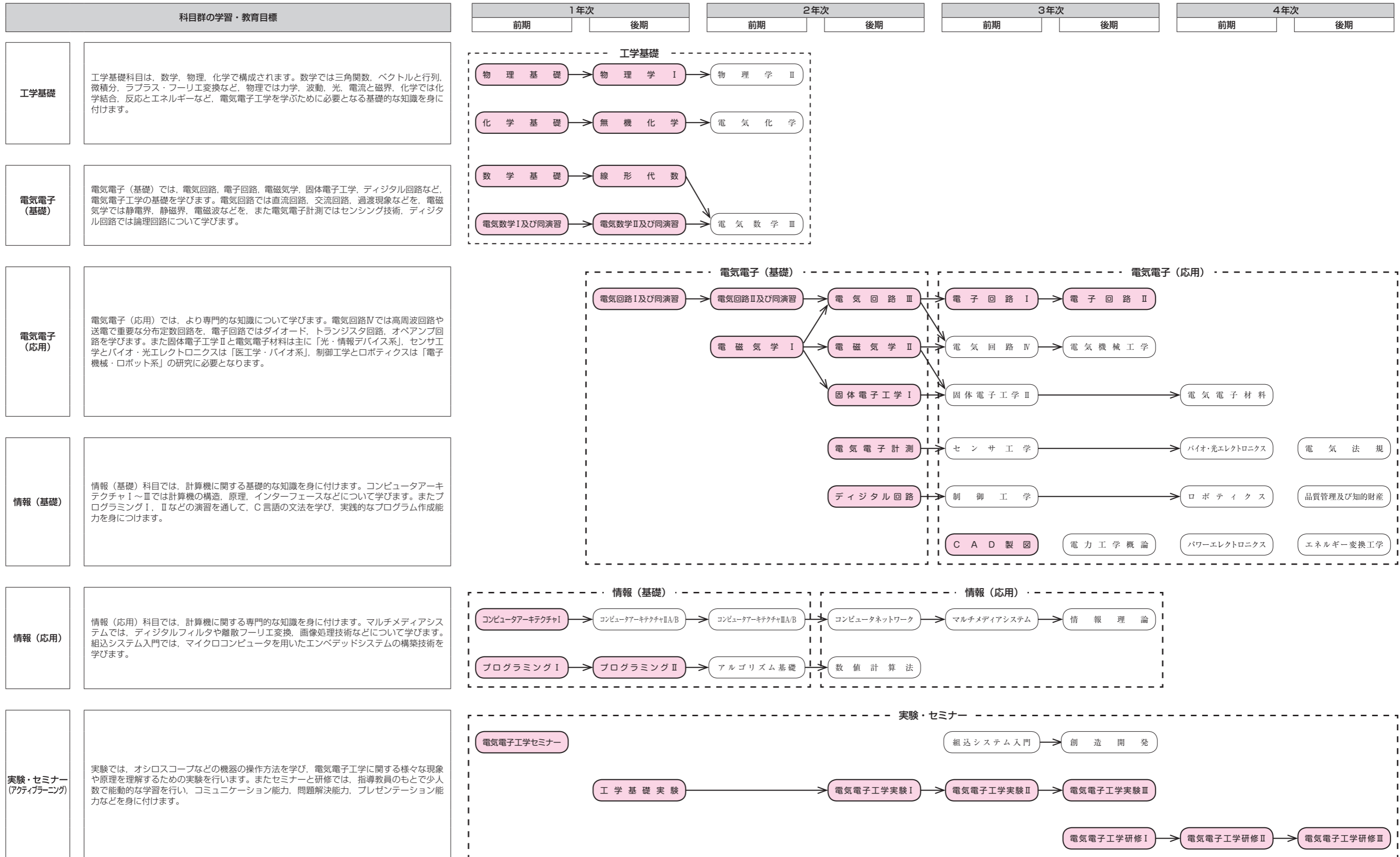
科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
EE-A-101	物理基礎	2							
EE-A-102	化学基礎	2							
EE-A-103	数学基礎	2							
EE-A-104	電気数学Ⅰ及び同演習	4							
EE-D-101	コンピュータアーキテクチャⅠ	2							
EE-D-102	プログラミングⅠ	2							
EE-F-101	電気電子工学セミナー	2							
EE-A-105	物理学Ⅰ	2							
EE-A-106	無機化学	2							
EE-A-107	線形代数	2							
EE-A-108	電気数学Ⅱ及び同演習	4							
EE-B-101	電気回路Ⅰ及び同演習	4							
EE-D-103	プログラミングⅡ	2							
EE-F-102	工学基礎実験	4							
EE-D-104	コンピュータアーキテクチャⅡA	2							
EE-D-105	コンピュータアーキテクチャⅡB	2							
EE-B-202	電気回路Ⅱ及び同演習		4						
EE-B-203	電磁気学Ⅰ		2						
EE-A-213	電気数学Ⅲ		2						
EE-A-210	物理学Ⅱ		2						
EE-A-211	電気化学		2						
EE-D-206	コンピュータアーキテクチャⅢA		2						
EE-D-207	コンピュータアーキテクチャⅢB		2						
EE-D-208	アルゴリズム基礎		2						
EE-B-204	電気回路Ⅲ			2					
EE-B-205	電磁気学Ⅱ			2					
EE-B-206	固体電子工学Ⅰ			2					
EE-B-207	電気電子計測			2					
EE-B-208	デジタル回路			2					
EE-F-204	電気電子工学実験Ⅰ			6					
EE-D-209	コンピュータネットワーク			2					
EE-D-210	数値計算法			2					
EE-C-301	CAD製図				2				
EE-C-302	電子回路Ⅰ				2				
EE-F-305	電気電子工学実験Ⅱ				6				
EE-C-303	電気回路Ⅳ				2				
EE-C-304	固体電子工学Ⅱ				2				
EE-C-305	センサ工学				2				
EE-C-306	制御工学				2				
EE-E-301	マルチメディアシステム				2				
EE-E-302	組込システム入門				2				
EE-C-307	電子回路Ⅱ					2			
EE-F-306	電気電子工学実験Ⅲ					6			
EE-F-307	電気電子工学研修Ⅰ					2			
EE-C-308	電力工学概論					2			
EE-C-309	電気機械工学					2			
EE-E-303	情報理論					2			
EE-E-304	創造開発					2			
EE-F-408	電気電子工学研修Ⅱ						6		
EE-C-410	電気電子材料						2		
EE-C-411	バイオ・光エレクトロニクス						2		
EE-C-412	ロボティクス						2		
EE-C-413	パワーエレクトロニクス						2		
EE-F-409	電気電子工学研修Ⅲ							6	
EE-C-415	電気法規							2	
EE-C-414	品質管理及び知的財産							2	
EE-C-416	エネルギー変換工学							2	
EE-X-001	電気電子工学特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…	…	…	…	…
EE-X-002	電気電子工学特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…	…	…	…	…
EE-X-003	電気電子工学特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…	…	…	…	…
EE-X-004	他学科開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
EE-X-005	他大学開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…

電気電子工学科 専門教育科目の履修の流れ

電気電子工学科 学習・教育目標

電気電子工学科は、この分野のプロフェッショナルとなる技術者を育成することを目的とし、幅広い分野の知識を効率的に学ぶために以下のカリキュラムを用意しています。その中で電気電子工学分野の基本と位置付けられる科目を「必修科目」、個々の分野の専門的な知識を学ぶための科目を「選択科目」としています。各科目は数学などの「工学基礎科目」、本学科の専門分野と深く関係する「電気電子科目」、コンピュータやプログラミングについて学ぶ「情報科目」、少人数セミナーや実験装置を用いる「実験・セミナー」の4つに分類されます。また、特にある科目で学ぶ上で必須となる知識が他の科目に含まれるような、相互の関連性が高い科目を矢印で示しています。履修の流れを良く確認し、興味に合わせて適切な科目を選択することで、電気電子工学の高度な技術に対応できる能力を身に付けることができます。

必修科目 選択科目



《履修ガイダンス・教育課程表》

電気電子工学科

1. カリキュラムの特徴

1～2年次	3年次	4年次
基礎知識の修得	専門分野への挑戦	卒業研修による実践
<p>1～2年次では、電気・電子工学の基礎的な知識を学びます。家造りに例えるなら、家の種類や構造、それを作るための道具や使用方法に関する知識を身につける段階です。ここで学ぶ科目は大きく4つに分類されます。第一に、数学、物理学、化学で構成される「工学基礎科目」は、その後の専門知識を学ぶ際に必要となる論理的な考え方を学びます。第二に、電気回路や電磁気学などの「電気電子科目」では、日常生活を支える電気がどのようなものか、プロの技術者としての視点から学びます。また第三に、コンピュータアーキテクチャやプログラミングなどの「情報科目」では、情報化社会で重要となるコンピュータとソフトウェアに関する知識を学びます。最後に「実験・セミナー」では、これらの知識を実践的に身に付けるために、少人数のグループワークによる実験や製作を行い、能動的な学習手法を学びます。</p>	<p>3年次は、これまで学んだ基礎知識を基に、より専門的な知識の修得を目指します。家造りに例えれば、道具の使い方に習熟し、土台を固める段階です。電気電子工学の学問分野は領域が広く、それぞれ独自の魅力があります。自分が面白いと感じた分野、興味を持った分野について、より深く学ぶことができます。多くの選択科目が用意されています。また、各分野の最前線の研究を知るために、3年次後期の電気電子工学研修Ⅰから研究室に配属されます。本学科の研究室は、「電子機械・ロボット系」、「医工学・バイオ系」、「光・情報デバイス系」の3つに分類され、その中から自分の興味に応じた研究室への配属を希望することができます。各研究室では、その分野の最新の研究成果を学ぶだけでなく、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力など総合的な資質を向上するためのトレーニングも行います。</p>	<p>4年次は、電気電子工学研修ⅡとⅢを通して、1年間の卒業研修を行います。3年次までに学んだ専門知識や技術を活かして、自分が作りたい家を形にする段階です。座学の講義の数が少ないのは、大学での学びの集大成である卒業研修に集中するためです。卒業研修のテーマを決める際には、文献調査などを通して、その分野で何が本質的な問題なのかを把握する必要があります。この過程では、「電気電子科目」で学んだ内容に対する理解の深さが問われます。テーマが決まったら、課題を解決するための実験や開発を行います。ここでは「実験・セミナー」で学んだ知識とノウハウが役立ちます。また実験結果が得られたら、それを分析し報告書にまとめます。作業を効率的に進めるために「情報科目」で学んだコンピュータを活用します。この様な研修を通じて、技術者に必要とされる実践的な能力を身に付けます。</p>

2. キャリアガイダンス

電気電子工学科では、以下の教養教育科目および専門教育科目を通してキャリアガイダンス（就職指導）を行っています。まず社会人に必要とされる一般的な知識やプレゼンテーション能力は、教養教育科目の「プレゼンテーション」「ビジネスマナー」などで学びます。技術者に必要な専門知識は専門教育科目で学び、これに加えてコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力は、グループ作業を行う「電気電子工学実験Ⅰ～Ⅲ」、「電気電子工学セミナー」などで、実践的な問題解決能力は「電気電子工学研修Ⅰ～Ⅲ」で身に付けます。また3年後期の「電気電子工学研修Ⅰ」では、職業・職種研究、SPI試験対策、履歴書作成指導、面接練習など具体的な就職指導も行っていきます。

本学科は各種資格の取得も支援しており、例えば在学中に取得した資格のうち大学の学部教育レベルと判断されるものは、特別課外活動の単位として認定しています。また本学科のカリキュラムは、基本情報技術者試験の午前試験免除制度が利用できるよう編成されています。

3. 卒業研修について

3年次後期から研究室に配属され、指導教員の下で卒業研修に取り組むことになります。電気電子工学科には、ロボットやメカトロニクスに関する「電子機械・ロボット系」、工学技術の医療応用や生体メカニズムに関する「医工学・バイオ系」、表示・記録デバイスや光検出器などの電気電子部品に関する「光・情報デバイス系」など幅広い分野の研究室があります。自分が興味を持った技術に関係した研究室に所属することで、その分野の最新技術に触れる機会が生まれます。

卒業研修では、電気電子工学に関する専門知識だけでなく、課題を発見する分析力や、それを解決するための問題解決能力、実験結果について考察する論理的思考力、研究成果を提示するプレゼンテーション能力など、大学で身に付けた総合的な能力が問われます。研修活動は研究室ごとに10人程度の少人数グループで行われますが、これを円滑に推進するためには仲間や指導教員と積極的にコミュニケーションすることも重要となります。そういう意味で、卒業研修は大学での学びの集大成と言えます。講義や実験で学んだ知識や概念を、卒業研修という実践の場で有効に活用し、しっかりと自分のものにすることを目指してください。

4. 履修のためのガイド

電気電子工学科のカリキュラムは、プロフェッショナルの技術者を育成することを目的としています。この分野の技術者には広範囲の知識が要求されるため、最初は一般的で易しい内容から徐々に専門的で複雑な内容を学べるようカリキュラムが設計されています。多くの科目は相互に関連があり、例えばある科目の知識を十分に理解した後でなければ内容が理解できない科目もあります。履修の流れをよく確認し、流れの中で取り残している科目がないようにしてください。

また電気電子工学分野において基本となる科目を必修科目、個々の分野のより専門的な知識を学ぶための科目を選択科目としています。卒業後に様々な仕事に対応できるように、できるだけ多くの選択科目を履修し、基礎と応用の専門知識を広く身に付けることを勧めます。ただし履修登録できる単位数にはC A P制による上限があり、セメスターごとに定められた上限単位数を超えて登録することはできません。以下に学年ごとの習得目標単位数を示します。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次から の累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	4/13	30	2/4	42/53	42/53
2年次	1	8/15	18	12/16	39/50	81/103
3年次	1	8/33	12	16/20	37/66	118/169
4年次	—	2/2	6	6/14	14/22	130/189
卒業までの 総合計	8	22/63	66	36/54	132/191	
	30/71		102/120			

5. 環境教育について

電気電子工学に携わる技術者として、資源、エネルギー、廃棄物、公害などの環境問題に取り組んでいく必要があります。3年後期から4年後期に開講される電気電子工学セミナーⅠ～Ⅲでは、各教員の指導のもと、電気電子工学の基礎の学習と「もの作り」を行います。その中で電子・電気機器における特定有害物質の使用制限（RoHS指令）とその対応製品などについて、実践的な知識を身に付けます。

6. 教職課程について

電気電子工学科では、高等学校の「工業」及び「情報」の教員免許状を取得するための科目を履修することができます。

7. 地域志向科目

地域社会で即戦力として活躍できる人材になるための能力を身に付けるために、地域志向科目を開講します。この科目では、地域を活性化するための知識を学ぶだけでなく、プロジェクトを通して学んだことを実践することが可能になっています。

教育課程表における進級・卒業条件

電気電子工学科

◎3年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	12 単位以上 必修 4 単位を含むこと	
専門教育科目	40 単位以上 電気電子工学実験 I を含むこと	
計	全体として 60 単位以上	

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	20 単位以上 必修 7 単位を含むこと	
専門教育科目	76 単位以上 電気電子工学実験 I, II, III 及び電気電子工学 研修 I を含む必修 54 単位以上修得のこと	
計	全体として 100 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24 単位 必修 8 単位を含むこと	
専門教育科目	100 単位 必修 66 単位を含むこと	
計	124 単位	

教育課程表と学士力対応表

電気電子工学科 教養教育科目

本学の「共通学士力」(本学の全学生が身に付けるべき学士力)	
共通学士力	学修成果(到達目標)
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

・単位数と学修時間(授業時間数及び自習時間数)

学修時間については学則第10条に以下の記載があります。(詳細はP.4“単位制と授業時間について”参照)

<p>第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。</p>

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題(予習・復習)」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習時間を取るよう努めてください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位(90時間)	1コマ/週(計30時間)	+	60時間/14週
演習・実習	1単位(45時間)	1コマ/週(計30時間)	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習(予習・復習)時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

教育課程表と学士力対応表

電気電子工学科 専門教育科目

電気電子工学科の学位授与方針

工学部 電気電子工学科は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。

本学の「共通学士力」（本学の全学生が身に付けるべき学士力）

共通学士力	学修成果（到達目標）
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

電気電子工学科の「専門学士力」（電気電子工学科の学生が身に付けるべき学士力）

専門学士力	学修成果（到達目標）
①工学基礎	数学、物理、化学などの自然科学の基礎知識を修得し、電気電子工学の知識取得に活用することができる。
②電気電子基礎	電気回路、電磁気学、電気電子計測の基礎知識を修得し、それらを説明することができる。
③情報基礎	コンピュータアーキテクチャおよびプログラミングを学修することにより計算機に関する基礎的な知識を修得し、実践的なプログラムを作成することができる。
④電気電子応用	電気回路や電子回路の専門的な知識を修得し、電気電子分野の課題解決に応用することができる。 そして、以下のいずれかの分野の専門的な知識を修得し、それぞれの研究に応用することができる。 <ul style="list-style-type: none"> ・光・情報デバイス系：固体電子工学、電気電子材料 ・医工学・バイオ系：センサ工学、バイオ・光エレクトロニクス ・電子機械・ロボット系：制御工学、ロボティクス
⑤情報応用	デジタル信号処理、画像処理、組込システムなど情報に関する専門的な知識を修得し、情報分野の課題解決に応用することができる。
⑥電気電子工学総合	アクティブラーニングを通して、電気電子工学分野の専門知識を理解・統合し、電気電子工学に関する問題を自ら適切に判断して、対処することができる。

工 学 部

情報通信工学科

専門教育科目

履修ガイダンス

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	分野	難易度+通し番号		
E	E	F	101		
EE-F-101					

※電気電子工学科「電気電子工学セミナー」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
E	工学部

2 列目 (学科・科目区分)	
E	電気電子工学科・専門教育科目
T	情報通信工学科・専門教育科目
C	都市マネジメント学科・専門教育科目
K	環境応用化学科・専門教育科目

3 段目 (分野)			
A	電気電子工	工学基礎	
B		電気電子(基礎)	
C		電気電子(応用)	
D		情報(基礎)	
E		情報(応用)	
F		実験・セミナー	
X		その他	
A		情報通信工	工学基礎
B	情報		
C	通信		
D	セミナー・研修		
X	その他		
A	都市マネジメント	自然科学基礎(数学)	
B		自然科学基礎(物理学・化学)	
C		土木工学基礎(材料・構造)	
D		土木工学基礎(地盤・地質)	
E		土木工学基礎(海岸・河川)	
F		土木工学基礎(関連技術)	
G		計画・マネジメント	
H		環境・防災	
I		実験・エンジニアリングデザイン	
J		セミナー・研修等	
X		その他	
A		環境応用化学	工学基礎
B			化学(基礎)
C	化学(応用)		
D	環境学		
E	実験・セミナー・研修		
X	その他		

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル(大学1年次レベル)
200 番台	中級レベル(大学2年次レベル)
300 番台	上級レベル(大学3年次レベル)
400 番台	専門レベル(大学4年次レベル)
000 番台	その他(レベル分けができない科目、例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
ET-D-101	情報通信工学セミナーⅠ	2							
ET-A-102	情報リテラシーⅠ	2							
ET-A-103	解析Ⅰ	2							
ET-B-104	情報工学入門	2							
ET-A-105	情報通信の数学基礎	2							
ET-A-106	情報通信の物理基礎	2							
ET-A-107	線形代数	2							
ET-C-108	通信工学入門	2							
ET-B-109	プログラミング入門	4							
ET-A-110	情報リテラシーⅡ	2							
ET-B-111	コンピュータネットワークⅠ	2							
ET-B-112	計算機工学Ⅰ	2							
ET-C-113	電気回路入門	2							
ET-A-114	物理学Ⅰ	2							
ET-B-115	論理回路	2							
ET-B-116	アルゴリズムとデータ構造及び同演習	4							
ET-A-117	解析Ⅱ及び同演習	4							
ET-A-218	アカデミックスキル		2						
ET-C-219	電気回路Ⅰ及び同演習		4						
ET-A-220	解析Ⅲ		2						
ET-B-221	基本情報技術		2						
ET-B-222	コンピュータネットワークⅡ		2						
ET-B-223	データベース		2						
ET-C-224	電気数学		2						
ET-A-225	物理学Ⅱ		2						
ET-B-226	プログラミング実践		2						
ET-A-227	情報通信工学実験Ⅰ			6					
ET-C-228	電子回路Ⅰ及び同演習			4					
ET-A-229	化学			2					
ET-B-230	コンピュータ数値解析			2					
ET-C-231	電磁気学Ⅰ			2					
ET-A-232	統計学			2					
ET-B-233	ソフトウェア設計			2					
ET-C-234	電気回路Ⅱ及び同演習			4					
ET-D-335	情報通信工学セミナーⅡ				2				
ET-A-336	情報通信工学実験Ⅱ				6				
ET-B-337	アプリケーション開発				2				
ET-B-338	計算機工学Ⅱ				2				
ET-B-339	コンピュータグラフィックス技術				2				
ET-B-340	情報セキュリティ				2				
ET-C-341	電気回路Ⅲ				2				
ET-C-342	電磁気学Ⅱ				2				
ET-C-343	通信システムⅠ				2				
ET-C-344	半導体デバイス				2				
ET-D-345	情報通信工学研修Ⅰ					2			
ET-B-346	組込みシステム設計					2			
ET-B-347	情報理論					2			
ET-C-348	通信システムⅡ					2			
ET-C-349	デジタル信号処理					2			
ET-C-350	電気・電子計測					2			
ET-C-351	電子回路Ⅱ					2			
ET-C-352	電波工学					2			
ET-A-353	情報通信工学実験Ⅲ					6			
ET-D-454	情報通信工学研修Ⅱ						4		
ET-C-455	音響工学						2		
ET-B-456	データ分析						2		
ET-C-457	光通信工学						2		
ET-D-458	情報通信工学研修Ⅲ							8	
ET-C-459	電気通信法規							2	
ET-C-460	電力工学							2	
ET-X-001	情報通信工学特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…	…	…	…	…
ET-X-002	情報通信工学特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…	…	…	…	…
ET-X-003	情報通信工学特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…	…	…	…	…
ET-X-004	情報通信工学特別課外活動Ⅳ	…	…	…	…	…	…	…	…
ET-X-005	情報通信工学特別課外活動Ⅴ	…	…	…	…	…	…	…	…
ET-X-006	情報通信工学特別課外活動Ⅵ	…	…	…	…	…	…	…	…
ET-X-007	他学科開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
ET-X-008	他大学開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…

情報通信工学科 専門教育科目の履修の流れ

情報通信工学科 学習・教育目標

本学科は、コンピュータを中心とした情報処理技術と、携帯電話や光通信に代表される通信技術を体系的に学ぶことのできる教育プログラムにより、ハードウェアとソフトウェアの両方の専門知識を有し、幅広い視野から物事をとらえることのできる、高い倫理観を持った情報通信技術者を育成する。

必修科目 選択科目

科目群の学習・教育目標

工学基礎

情報通信工学を学ぶために不可欠な、数学の基礎知識を身に付ける。半導体を中心とした電子デバイスの動作原理と、デバイスや回路の計測方法を身に付ける。大規模データの取り扱いに習熟する。

セミナー・研修

レポート作成や学術的、技術的文書作成の基本技能を修得する。主要な電気・電子回路の特性と動作原理を理解し、基本的な測定器の取り扱いに習熟する。セミナーおよび研修科目では、情報通信工学に興味を持ち、学生としての勉学の心構えと態度を身に付ける。また、将来の進路についての展望を持ち、自ら進むべき方向を決定できるようにする。さらに、情報通信工学の勉学の集大成として、卒業研修を通してプロフェッショナルとしてのノウハウを養いICT社会を支える技術者をを目指す。

情報

コンピュータのソフトウェアについて、基本的な操作方法から高度なプログラムの開発までの技術を修得する。さらに、ハードウェアと密接に関連した組込みシステムの開発技術を修得する。

コンピュータの構造をハードとソフトの両面から深く理解する。コンピュータネットワークの原理や通信の仕組みも修得する。さらに、コンピュータに蓄積され、ネットワーク上を流れる大量のデータを保守・管理する基礎知識とともに、データに関する様々な脅威とその対策技術を学ぶことで、情報を安全かつ有効に活用するスキルを身に付ける。

通信

通信工学の基礎と電気回路、電子回路を学ぶ。これらの知識は、家電製品やパソコン、携帯電話などアナログ、デジタル機器に応用される。

物理学を修得することで、情報通信の原理の根幹を理解する。電磁気学や電波工学を学ぶ上で、直接の基礎となる。

情報通信ネットワークを構成する無線通信システム、光通信に代表される有線通信システムを理解する上で基本となる数学を修得するとともに、通信システムの基本的原理を理解する。

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
線形代数			統計学				データ分析
情報通信の数学基礎			化学	半導体デバイス	電気・電子計測		
情報リテラシーⅠ	情報リテラシーⅡ	アカデミックスキル	情報通信工学実験Ⅰ	情報通信工学実験Ⅱ	情報通信工学実験Ⅲ		
情報通信工学セミナーⅠ				情報通信工学セミナーⅡ	情報通信工学研修Ⅰ	情報通信工学研修Ⅱ	情報通信工学研修Ⅲ
プログラミング入門	アルゴリズムとデータ構造及び同演習	プログラミング実践	ソフトウェア設計	アプリケーション開発	組込みシステム設計		
	論理回路	データベース		情報セキュリティ	情報理論		
情報工学入門							
	計算機工学Ⅰ	基本情報技術		計算機工学Ⅱ			
	コンピュータネットワークⅠ	コンピュータネットワークⅡ	コンピュータ数値解析	コンピュータグラフィックス技術	デジタル信号処理	音響工学	
	電気回路入門	電気回路Ⅰ及び同演習	電気回路Ⅱ及び同演習	電気回路Ⅲ			電力工学
通信工学入門				電子回路Ⅰ及び同演習	電子回路Ⅱ		
情報通信の物理基礎	物理学Ⅰ	物理学Ⅱ					
解析Ⅰ	解析Ⅱ及び同演習	解析Ⅲ	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電波工学		
		電気数学		通信システムⅠ	通信システムⅡ	光通信工学	電気通信法規

《履修ガイダンス・教育課程表》

情報通信工学科

1. カリキュラムの特徴

21世紀の世界は、情報と通信が融合して生まれたインターネットの普及により、以前とは全く異なった社会となりました。情報通信工学科は、このような ICT (Information and Communication Technology) 社会を支えるエンジニアを育成します。そのために、コンピュータを中心にした「情報処理技術」と携帯電話、光通信、衛星通信などに代表される「通信技術」、さらに、これらが結合したコンピュータネットワーク等の技術を体系的に学べるカリキュラムとしています。1, 2年次では、「情報処理技術」と「通信技術」の基礎を学びます。3年次以降では、プログラマやシステムエンジニア等の情報処理技術者、通信システム技術者やネットワーク技術者に必要な専門知識を、さらに深く学ぶことができます。また、各種資格試験や就職試験に役立つ科目も開講しています。

2. キャリアガイダンス

情報通信工学セミナーⅠ, Ⅱおよびアカデミックスキルにおいて、キャリア形成の支援を行います。1年次では、大学生活への適応についての指導を行います。2年次では、情報通信工学の技術者として身に付けておくべきアカデミックスキルを修得します。3年次では、研究室配属に向けた各研究室の紹介と、就職支援講座ならびに、大学院への進学ガイダンスを実施します。

3. 卒業研修について

卒業研修は、原則として3年次後期から配属される研究室で行います。情報通信工学研修Ⅰでは、卒業研修の準備として、卒業研修に向けた基礎的専門知識・技術を修得します。情報通信工学研修Ⅱ, Ⅲでは、実験、コンピュータシミュレーション、システム開発、プログラミング、など、各研究室の指導教員の指導を受けながら、様々な方法で専門分野の研修を行います。また、各研究室では、必要に応じてセミナーを随時実施します。

卒業研修の成果は「情報通信工学科卒業論文要約集」としてまとめられ、2月下旬には、学科全体の発表会を行います。

卒業研修は、教員の指導のもと学生自身がテーマを選択し、さらに、専門知識、技術を修得しながら実行するものです。したがって、研修の遂行に際しては、自らが課題を理解した上で、問題を解決するために積極的に関連する専門書や論文を調べ、実験では創意工夫を行うことが重要です。卒業研修は最も大学らしく、面白く、学生生活の集大成と位置づけられるもので、この経験は社会に出たときに必ず役立ちます。なお、研究に興味を持ち、さらに専門分野の知識・技術を深めたい人には大学院への進学を強く勧めます。

4. 履修のためのガイド

- 1) 必修科目は卒業時までには必ず修得しなければならない科目であるため、できるだけ開講学年時に修得するように努めること。
- 2) 以下の科目には履修前提が設けられているので、注意すること。
 - ・情報通信工学研修Ⅰ (3年後期, 必修)
 - 英語必修2単位以上, スタディスキル必修1単位以上を修得していること。ならびに、専門教育科目60単位以上を修得し、情報通信工学実験Ⅰ, Ⅱを含むこと。
- 3) 履修の計画について
 - ① 各科目の内容を学生便覧で確認し、自分の卒業後の進路を踏まえて、科目を選択する。

- ② 「履修の流れ」を参照して、科目間のつながりをよく考える。
- ③ 目的意識を持ち、途中で履修放棄しないこと。

4) 目標単位数と進級条件について

多くの学生に進級のチャンスを広げるため、進級条件は目標とすべき単位数よりも低めに設定されています。したがって、社会で活躍できる人物となるためには、進級条件だけにとらわれず、将来の進路を意識して履修計画を立てることが重要です。

各学年で目標とすべき単位数を次の表に示します。1～3年次においては、毎年およそ40単位ずつ修得することを目標としてください。なお、履修の計画は履修科目登録上限制度の範囲内で立てるようにしてください。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	4/13	35	0/0	45/54	45/54
2年次	1	7/15	10	24/27	42/53	87/107
3年次	1	8/33	5	24/33	38/72	125/179
4年次	－	2/2	6	4/10	12/18	137/197
卒業までの 総合計	8	21/63	56	52/70	137/197	
	29/71		108/126			

5. 環境教育について

情報通信技術者にも、社会の一員として、環境問題への取り組みが求められます。1年次後期の「グリーンテクノロジー」をはじめとする教養科目において、環境問題に関する基礎知識の教育を行っています。また専門科目においてもSDGsとの関連を踏まえて、情報通信技術が環境問題に果たす役割について学んでいきます。積極的な履修を勧めます。

6. 教職課程について

情報通信工学科では、所定の科目を修得すれば「工業」と「情報」の「高等学校教諭一種免許状」を取得できます。各教育職員免許状の取得に必要な科目は、免許教科の種類によって異なります。詳細については学生便覧「教育職員課程」を参照してください。また、「教育実習」は2年生後期終了時までの全履修科目のGPAを主な基準として履修適格者と認定された人が対象となりますので、卒業までの長期的な計画に基づいて履修を行ってください。

7. 地域志向科目

宮城県を始めとする東北地方で活躍する能力を身に付けるため、地域志向科目を開講します。

これらの科目では、宮城県を始めとする東北地方の地域の特色を世界との関わり合いの中で捉え、情報通信工学技術をどう生かしていくかについて自ら考えるため、地域産業で最新の情報通信技術がどのように使われているのか学ぶとともに、地域のインターンシップや就職に関する理解を深めていきます。

教育課程表における進級・卒業条件

情報通信工学科

◎3年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目		
専門教育科目	情報通信工学実験Ⅰを修得していること	
計		

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	20単位以上 英語ⅠA, ⅠB, スタディスキル, キャリアデザインⅠ, 人工知能総論, グリーンテクノロジーを含むこと	
専門教育科目	76単位以上 情報通信工学実験Ⅰ, Ⅱ, および情報通信工学研修Ⅰを含むこと	
計	全体として100単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24単位 必修8単位を含むこと	
専門教育科目	100単位 必修56単位を含むこと	
計	124単位	

◎情報通信工学科3年後期科目「情報通信工学研修Ⅰ」の履修前提条件

内 容	備 考
英語必修2単位以上, スタディスキル必修1単位以上を修得していること 専門教育科目60単位以上を修得し, 情報通信工学実験Ⅰ, Ⅱを含むこと	研修Ⅰは, 4年次への進級条件に関わる重要な科目である

教育課程表と学士力対応表

情報通信工学科 教養教育科目

本学の「共通学士力」(本学の全学生が身に付けるべき学士力)	
共通学士力	学修成果(到達目標)
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

・単位数と学修時間(授業時間数及び自習時間数)

学修時間については学則第10条に以下の記載があります。(詳細はP.4“単位制と授業時間について”参照)

<p>第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。 ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。</p>
--

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題(予習・復習)」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習時間を取るよう努めてください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位(90時間)	1コマ/週(計30時間)	+	60時間/14週
演習・実習	1単位(45時間)	1コマ/週(計30時間)	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習(予習・復習)時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

教育課程表

情報通信工学科 教養教育科目

科目区分	授業科目名	単位		各期の毎週時間数								備考	授業形態				共通学士力								
				1年		2年		3年		4年			講義	演習	実験実習	卒業研究	①	②	③	④	⑤				
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期														
地域・文化・社会	1	キャリアデザインⅠ	1		2								○											●	●
	2	キャリアデザインⅡ	1				2						○											●	●
	3	キャリアデザインⅢ	1						2				○											●	●
	4	人工知能総論	1		2									○			●	●							
	5	人工知能入門		1	2									○			●	●	●						
	6	人工知能基礎		2					2					○			●	●	●	●	●				
	7	人工知能応用		2						2				○			●	●	●	●	●				
	8	グリーンテクノロジー	1		2									○											
	9	サステナビリティ入門		2			2							○											
	10	地球環境と諸問題		2				2						○											
	11	表象文化論		2	2									○			●	●							
	12	現代社会論		2	2									○			●	●							
	13	東北文化史		2		2								○			●	●	●						
	14	メディア文化史		2		2								○			●	●	●						
	15	市民と法		2				2						○			●	●	●						
	16	暮らしと心理学		2				2						○			●	●	●						
	17	産業社会と心理学		2					2					○			●	●	●						
	18	産業社会と倫理		2					2					○			●	●	●						
	19	情報社会の経済		2					2					○			●	●	●						
	20	日本国憲法		2					2					○			●	●	●						
	21	職業指導（工業）		2					2					○			●	●						●	
	22	情報社会とモラル		2					2					○			●	●	●						
	23	工業概論		2					2					○			●	●	●						
	24	情報と職業		2						2				○			●	●	●						
	25	科学思想史		2						2				○			●	●							
	26	ビジネスマナー		2						2				○										●	●
	27	フランスの文化と言葉		2						2				○										●	
	28	韓国の文化と言葉		2						2				○										●	
	29	中国の文化と言葉		2						2				○										●	
	30	異文化理解		2						2				○										●	
	31	現代の哲学		2							2			○			●	●						●	
言葉と表現	32	スタディスキル	1		2								○										●	●	
	33	英語ⅠA	1		2								○										●		
	34	英語ⅠB	1			2							○										●		
	35	英語ⅡA		1			2						○										●		
	36	英語ⅡB		1				2					○										●		
	37	英会話Ⅰ		1	2								○										●		
	38	英会話Ⅱ		1		2							○										●		
	39	英会話Ⅲ		1			2						○										●		
	40	英会話Ⅳ		1				2					○										●		
	41	資格英語Ⅰ		1				2					○										●		
	42	資格英語Ⅱ		1					2				○										●		
	43	資格英語Ⅲ		1						2			○										●		
	心と体の健康	44	健康・運動科学実習Ⅰ		1	2								○			●		●		●				
45		健康・運動科学実習Ⅱ		1		2							○			●		●		●					
46		スポーツ科学実習		1			2							○		●		●		●					
学際	47	特別課外活動Ⅰ		1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
	48	特別課外活動Ⅱ		1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
	49	特別課外活動Ⅲ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
	50	特別課外活動Ⅳ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
	51	他大学等教養科目群		4	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	
小計（51科目）			8	73	16	14	12	12	20	16	2	0													

※1 あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入できる。

教育課程表と学士力対応表

情報通信工学科 専門教育科目

情報通信工学科の学位授与方針

工学部 情報通信工学科は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。

本学の「共通学士力」（本学の全学生が身に付けるべき学士力）

共通学士力	学修成果（到達目標）
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

情報通信工学科の「専門学士力」（情報通信工学科の学生が身に付けるべき学士力）

専門学士力	学修成果（到達目標）
①工学基礎	数学（解析，線形代数など）や物理の基礎知識及びアカデミックスキルを身に付け、情報通信工学の知識修得に応用することができる。
②情報ネットワーク	コンピュータハードウェア，コンピュータネットワークに関する基礎知識を身に付け、デジタル信号処理，情報理論，セキュリティなどの理解に応用することができる。
③情報プログラミング	基本的なアルゴリズム，データ構造に関する基礎知識を身に付け，基本的なプログラミングができるようになり，各種アプリケーションや組み込みシステムのプログラミングの理解に応用することができる。
④通信システム	通信システムの基礎知識を身に付け，光通信システム，無線通信システムなど各種通信システムの理解に応用することができる。
⑤通信デバイス	電気回路，電子回路の基礎知識を身に付け，光ファイバ，レーザー，アンテナなど各種通信デバイスの理解に応用することができる。
⑥情報通信工学総合	情報通信工学に関する基礎実験や卒業研修を通じて，情報通信工学に関する課題を解決する能力を身に付け，様々な課題への対処に応用することができる。

工 学 部

都市マネジメント学科

専門教育科目

履修ガイダンス

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	分野	難易度+通し番号		
E	E	F	101		
EE-F-101					

※電気電子工学科「電気電子工学セミナー」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
E	工学部

2 列目 (学科・科目区分)	
E	電気電子工学科・専門教育科目
T	情報通信工学科・専門教育科目
C	都市マネジメント学科・専門教育科目
K	環境応用化学科・専門教育科目

3 段目 (分野)			
A	電気電子工	工学基礎	
B		電気電子(基礎)	
C		電気電子(応用)	
D		情報(基礎)	
E		情報(応用)	
F		実験・セミナー	
X		その他	
A		情報通信工	工学基礎
B	情報		
C	通信		
D	セミナー・研修		
X	その他		
A	都市マネジメント	自然科学基礎(数学)	
B		自然科学基礎(物理学・化学)	
C		土木工学基礎(材料・構造)	
D		土木工学基礎(地盤・地質)	
E		土木工学基礎(海岸・河川)	
F		土木工学基礎(関連技術)	
G		計画・マネジメント	
H		環境・防災	
I		実験・エンジニアリングデザイン	
J		セミナー・研修等	
X		その他	
A		環境応用化学	工学基礎
B			化学(基礎)
C	化学(応用)		
D	環境学		
E	実験・セミナー・研修		
X	その他		

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル(大学1年次レベル)
200 番台	中級レベル(大学2年次レベル)
300 番台	上級レベル(大学3年次レベル)
400 番台	専門レベル(大学4年次レベル)
000 番台	その他(レベル分けができない科目、例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
EC-A-101	C E基礎数学演習	4							
EC-A-102	C E自然科学	2							
EC-B-101	C E力学基礎	2							
EC-B-102	C E化学基礎	2							
EC-D-101	地盤地質学	2							
EC-F-101	C Eコンピュータ基礎	2							
EC-H-101	環境・防災工学	2							
EC-J-101	C E進路セミナーⅠ	2							
EC-A-103	C E数学		2						
EC-A-104	C E自然科学演習		2						
EC-B-103	C E物理学Ⅰ		2						
EC-B-104	C E化学		2						
EC-C-101	コンクリート		2						
EC-F-102	C E-CAD		2						
EC-G-101	観光とマーケティング		2						
EC-H-102	地震工学		2						
EC-J-102	C E進路セミナーⅡ		2						
EC-A-201	C E代数学幾何概論			2					
EC-B-201	C E物理学Ⅱ			2					
EC-C-201	鉄筋コンクリートⅠ			2					
EC-C-202	構造力学基礎Ⅰ			2					
EC-D-201	基礎地盤工学			2					
EC-E-201	水理学基礎Ⅰ			2					
EC-F-201	空間測量Ⅰ			2					
EC-F-202	空間測量実習			4					
EC-F-203	プログラミング入門			2					
EC-J-201	C E進路セミナーⅢ			2					
EC-A-202	C E応用数学Ⅰ				2				
EC-A-203	統計学				2				
EC-C-203	鉄筋コンクリートⅡ				2				
EC-C-204	構造力学基礎Ⅱおよび同演習				4				
EC-D-202	応用地盤工学				2				
EC-E-202	水理学基礎Ⅱ				2				
EC-F-204	プログラミング演習				2				
EC-G-201	経済学通論				2				
EC-G-202	社会的計画論				2				
EC-J-202	C E進路セミナーⅣ				2				
EC-A-301	C E応用数学Ⅱ					2			
EC-C-301	構造力学応用					2			
EC-E-301	水理学応用Ⅰ					2			
EC-E-302	河川工学					2			
EC-G-301	数理的計画論					2			
EC-G-302	数理的計画論演習					2			
EC-G-303	都市計画					2			
EC-H-301	上下水道工学					2			
EC-H-302	地盤防災工学					2			
EC-I-301	C E実験Ⅰ					4			
EC-J-301	C E進路セミナーⅤ					2			
EC-C-302	道路工学						2		
EC-E-303	水理学応用Ⅱ						2		
EC-E-304	海工学						2		
EC-F-301	空間測量Ⅱ						2		
EC-F-302	C E地理情報システム						2		
EC-F-303	火薬学						2		
EC-G-304	交通計画						2		
EC-G-305	社会基盤マネジメント						2		
EC-H-303	都市環境工学						2		
EC-I-302	C Eエンジニアリング・デザイン						2		
EC-J-302	都市マネジメント学研修Ⅰ						2		
EC-A-401	C E統計解析							2	
EC-C-401	鋼構造学							2	
EC-G-401	プロジェクトマネジメント							2	
EC-I-401	C E実験Ⅱ							4	
EC-J-401	都市マネジメント学研修Ⅱ							4	
EC-J-402	都市マネジメント学研修Ⅲ								8
EC-X-001	C E特別課外活動								
EC-X-002	他学科開講科目群								
EC-X-003	他大学開講科目群								

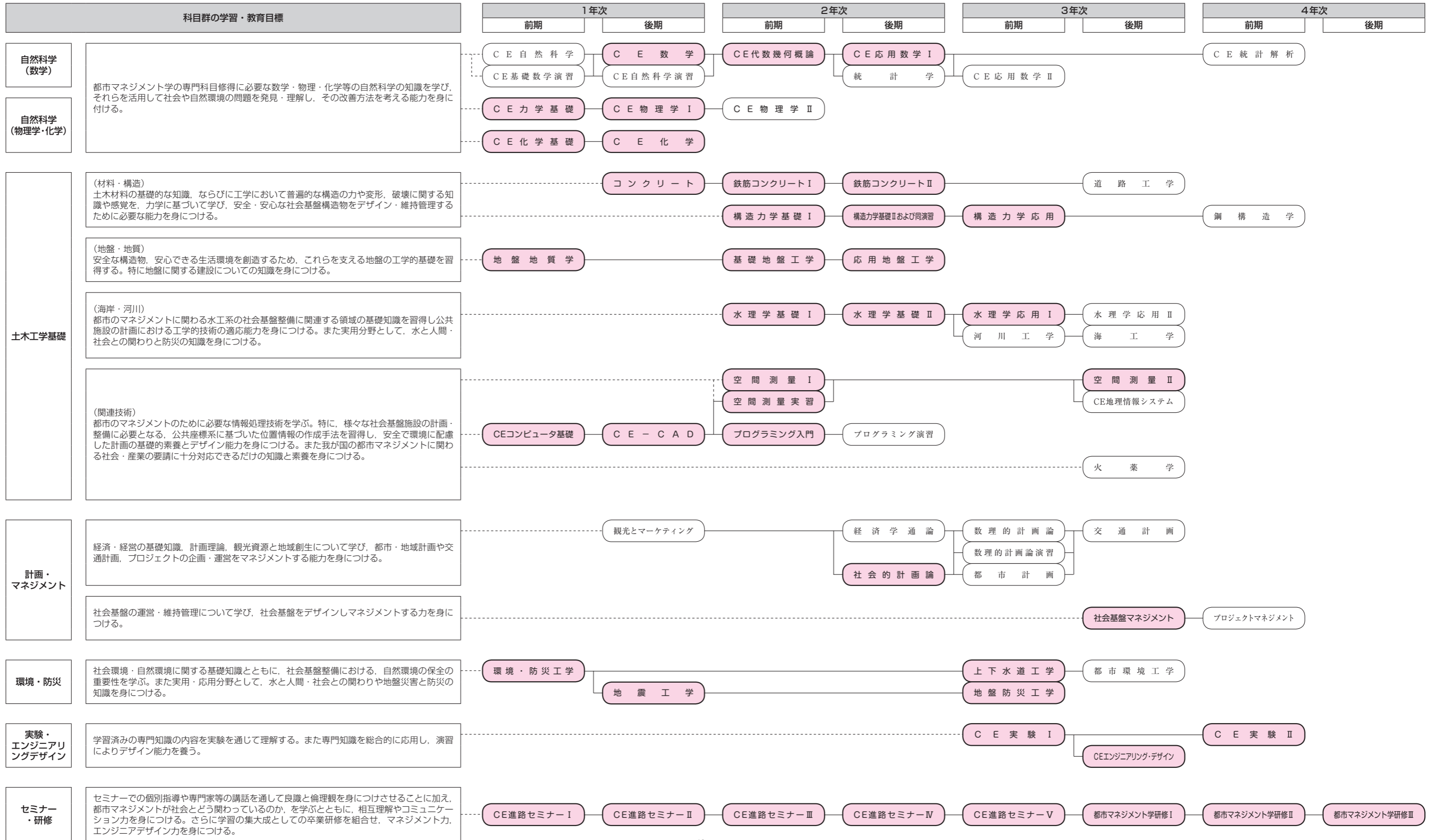
都市マネジメント学科 専門教育科目の履修の流れ (エンジニアコース)

都市マネジメント学科 学習・教育到達目標

都市マネジメント学科の学生は以下の(A)～(F)の能力を習得できるように学習し、教員は学生がそれらを身につけられるように教育することを学習・教育目標とする。

(A)【良識と倫理観】社会において活躍する人材としての良識と倫理観
 (B)【科学的知識】科学に関する十分な知識を持ち、社会と自然それぞれの環境の改善に貢献できる能力
 (C)【自己啓発】自己を冷静に評価し、自己を啓蒙、発展させるための適切な行動
 (D)【相互理解と協力】自己表現に必要な十分な発表能力とともに、他者の意見を理解し、協力する能力
 (E)【専門的知識】我が国の都市マネジメントに関わる、社会・産業の要請に十分対応できるだけの知識と素養
 (F)【語学力と国際性】国際社会の諸問題にも関心を持ち、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力

必修科目 選択科目



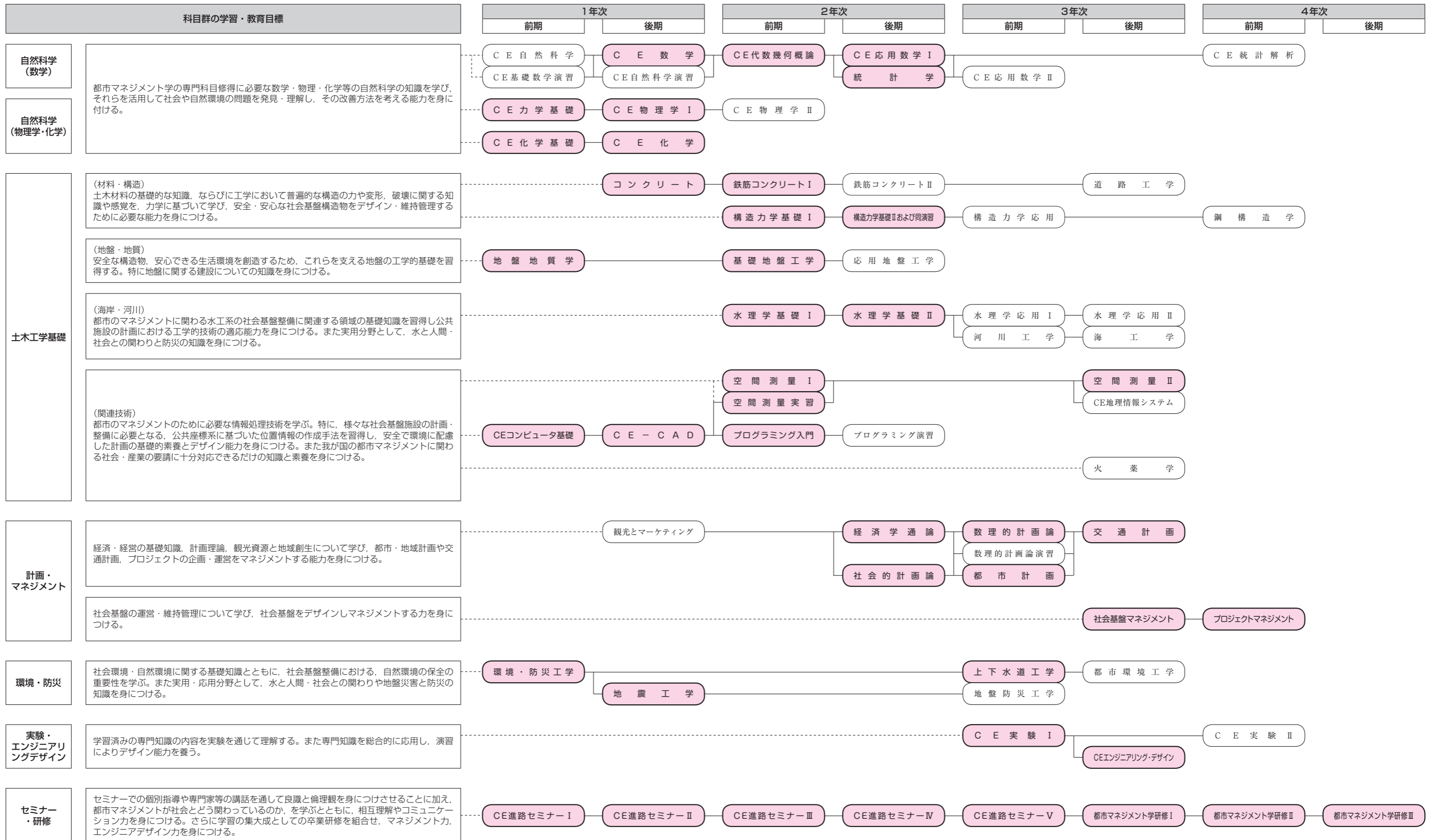
都市マネジメント学科 専門教育科目の履修の流れ (プランナーコース)

都市マネジメント学科 学習・教育到達目標

都市マネジメント学科の学生は以下の(A)～(F)の能力を習得できるように学習し、教員は学生がそれらを身につけられるように教育することを学習・教育目標とする。

(A)【良識と倫理観】社会において活躍する人材としての良識と倫理観
 (B)【科学的知識】科学に関する十分な知識を持ち、社会と自然それぞれの環境の改善に貢献できる能力
 (C)【自己啓発】自己を冷静に評価し、自己を啓蒙、発展させるための適切な行動
 (D)【相互理解と協力】自己表現に必要な十分な発表能力とともに、他者の意見を理解し、協力する能力
 (E)【専門的知識】我が国の都市マネジメントに関わる、社会・産業の要請に十分対応できるだけの知識と素養
 (F)【語学力と国際性】国際社会の諸問題にも関心を持ち、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力

必修科目 選択科目



《履修ガイダンス・教育課程表》

都市マネジメント学科

1. カリキュラムの特徴

JABEE（日本技術者教育認定機構）対応プログラム* ¹ として、土木及び関連の工学技術を学びます。社会基盤に関する高度な工学的知識を学ぶエンジニアコースと、経済学の基礎知識、都市や交通の計画、プロジェクトマネジメントなども学ぶプランナーコースの2コースを設けています。1年次および2年前期には両コース共通の基盤として、主に自然科学や土木工学基礎を学び、2年後期に各コースに分かれます（なお、在学中のコース変更は不可能です）。	エンジニアコース (約40人)* ²	技術力およびエンジニアデザイン力を持つプロフェッショナルを目指して、社会基盤に関する高度な工学的知識を学びます。
	プランナーコース (約40人)* ²	地域構想力およびプロジェクトマネジメント能力を持つプロフェッショナルを目指して、社会基盤に関する基礎知識に加えて、経済学の基礎知識、都市や交通の計画、プロジェクトマネジメントについても学びます。

※1 JABEE 認定継続のための審査が、定期的に行われます。

※2 希望者が多い場合は、2年前期終了時のGPAにより選抜します。また各コースの定員は、教員構成により変動する場合があります。

1) 育成する人材（技術者像）

社会の要請に十分対応できる専門的知識及び科学的知識を身に付け、かつ事業あるいは技術のマネジメント能力を有し、良識と倫理感をもち、地域社会において活躍できる人材。

2) 学習・教育到達目標 *改善のある場合は別途学科より周知します。

都市マネジメント学科の学生は以下の学習・教育到達目標(A)~(F)の能力を習得できるように学習し、教員は学生がそれらを身につけられるように教育します。

(A) 【良識と倫理観】社会において活躍する人材としての良識と倫理観

(B) 【科学的知識】科学に関する十分な知識を持ち、社会と自然それぞれの環境の改善に貢献できる能力

(C) 【自己啓発】自己を冷静に評価し、自己を啓蒙、発展させるための適切な行動

(D) 【相互理解と協力】自己表現に必要な発表能力とともに、他者の意見を理解し、協力する能力

(E) 【専門的知識】我が国の都市のマネジメントに関わる、社会・産業の要請に十分対応できるだけの知識と素養

(F) 【語学力と国際性】国際社会の諸問題にも関心を持ち、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力

2. キャリアガイダンス

1年前期から3年前期まで5セメスター連続の少人数セミナーにおいて、個々の学生に対応したきめ細やかな指導のもと、学問と社会の関係を意識した職業観、高い倫理観、豊かな人間性、コミュニケーション力、文章表現能力を身につけ、社会人基礎力を養います。

少人数セミナーの体系は以下のようになっています。

C E 進路セミナーⅠ：人間形成、大学生活の基礎

C E 進路セミナーⅡ：公共性、社会貢献

C E 進路セミナーⅢ：良識と倫理観、論理的表現力

C E 進路セミナーⅣ：コミュニケーションスキルの向上

C E 進路セミナーⅤ：自分の将来を構想

3. 卒業研修について

卒業研修（都市マネジメント学研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の成果を取りまとめ、卒業研修論文（英文 abstract を含む）及び卒業研修論文要旨を提出し、卒業研修論文発表会にて発表を行った者を都市マネジメント学研修Ⅲの単位認定対象者とします。この単位認定対象者に対し、指導教員ならびに審査委員が総合的に評価を行い、都市マネジメント学研修Ⅲの単位認定ならびに学位認定を行います。なお、研修ⅡとⅢの研修時間合計が450時間以上となることが、単位認定対象者となる条件に付加されます。

具体的な評価は、都市マネジメント学科の学習・教育到達目標の各項目（A）～（F）（都市マネジメント学科の専門学士力①～⑥に対応）について行い、その比率はシラバスに掲載します。また卒業研修生全員に対し、評価方法を別途公開します。

4. 履修のためのガイド

1) 科目の履修にあたっての基本的留意事項

- ① 必修科目は卒業時までには必ず修得しなければならない科目のため、できるだけ開講学年時に修得するように努めます。
- ② 科目内容・授業内容について
 - ・科目内容を学生便覧で確認し、科目間の系統や連携、卒業後の進路など各自の目的に合わせて科目を選択します。
 - ・系統的な科目や連携している科目があることを履修の流れや教育課程表・シラバス等で確認しておくこととします。
 - ・目的意識を持って選択し、途中で放棄することのないように履修します。
 - ・「演習」、「実験」、「実習」などの科目では体験を通じて学ぶことが多いので、積極的な態度で授業に臨みます。
 - ・授業で理解できない内容については積極的に質問し、疑問点をそのまま放置しないようにします。

③ 目標単位数について

卒業に要する最低修得単位数は、本学科の卒業生として修得すべき目標単位数より少なく設定されています。したがって、4年間で目標単位数147単位を修得するためには、進級条件だけにとらわれず、履修科目登録上限制度の範囲内で、卒業後の進路などを意識した履修計画を立てる必要があります。各学年で目標とすべき修得単位数を次の表に示します。

また、各科目の成績にはそれぞれの学習・教育到達目標の達成度が反映されます。単位数だけでなく、成績内容も充実したものになるよう心掛けましょう。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

両コース共通

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次からの 累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	7/13	22	5/7	40/48	40/48
2年次	3	6/13	30	7/7	46/53	86/101
3年次	3	5/31	17	22/22	47/73	133/174
4年次	－	－/2	8	6/6	14/16	147/190
卒業までの 総合計	12	18/59	77	40/42	147/190	
	30/71		117/119			

2) 学生便覧の位置づけ

学生便覧は学生の綿密な学習計画の一助となるように詳細に記載されています。そのため、履修科目の選択の際には、指導教員の指導および助言を得て将来の進路を定めたいうえで学習計画をたてます。

3) 卒業後の進路として「大学院」を目指す学生に対するガイド

- ①大学院進学のためには、入学試験と専攻分野の双方の学習が必要となります。
- ②入学試験には専門の他に外国語が出題されるので、十分な準備をしておきましょう。
- ③希望する専攻分野に関連している科目は履修することが望ましいです。

5. 環境教育について

1年前期の「環境・防災工学」において環境問題の現況や環境負荷削減への取り組みに関する基礎知識を、3年前期の「都市計画」や3年後期の「都市環境工学」「交通計画」などの専門科目において環境アセスメントに関する基本的な考え方を学習します。

6. 教職課程について

都市マネジメント学科では、高等学校の「工業」の教育職員免許状を取得するための科目を履修することができます。

7. 地域志向科目

地域社会で即戦力として活躍できる人材になるための能力を身に付けるために、地域志向科目を開講します。この科目では、地域を活性化するための知識を学ぶだけでなく、プロジェクトを通して学んだことを実践することが可能になっています。

教育課程表における進級・卒業条件

都市マネジメント学科

◎3年次への進級条件
特になし

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	20 単位以上 必修 12 単位を含むこと	
専門教育科目	78 単位以上 2 年次までの必修 52 単位をすべて修得のこと 選択科目のうち CE 自然科学, CE 基礎数学演習 の 2 科目から, 1 科目 2 単位を必ず修得すること CE 進路セミナー I・II・III・IV・V および都市 マネジメント学研修 I を修得のこと	
計	全体として 98 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24 単位 必修 12 単位を含むこと	
専門教育科目	100 単位 必修 77 単位を含むこと 選択科目のうち CE 自然科学, CE 基礎数学演習 の 2 科目から, 1 科目 2 単位を必ず修得すること	
計	全体として 124 単位以上	

◎CE 進路セミナー V の履修条件

内 容	備 考
履修登録時点で専門教育科目を 40 単位以上, 全体として 54 単位以上を 修得していること	履修登録時点で次年度の 4 年次 進級の見込みがない場合は履修 できない

◎都市マネジメント学研修 I の履修条件

内 容	備 考
履修登録時点で専門教育科目を 59 単位以上, 全体として 76 単位以上を 修得していること	履修登録時点で次年度の 4 年次 進級の見込みがない場合は履修 できない

教育課程表と学士力対応表

都市マネジメント学科 教養教育科目

本学の「共通学士力」(本学の全学生が身に付けるべき学士力)	
共通学士力	学修成果(到達目標)
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

・単位数と学修時間(授業時間数及び自習時間数)

学修時間については学則第10条に以下の記載があります。(詳細はP.4“単位制と授業時間について”参照)

<p>第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。 ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。</p>
--

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題(予習・復習)」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習時間を取るよう努めてください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位(90時間)	1コマ/週(計30時間)	+	60時間/14週
演習・実習	1単位(45時間)	1コマ/週(計30時間)	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習(予習・復習)時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

教育課程表

都市マネジメント学科 教養教育科目

科目区分	授業科目名	単位 必修 選択	各期の毎週時間数								備考	授業形態				共通学士力							
			1年		2年		3年		4年			講義	演習	実験実習	卒業研修	①	②	③	④	⑤			
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
地域・文化・社会	1	キャリアデザインⅠ	1	2								○									●	●	
	2	キャリアデザインⅡ	1		2							○										●	●
	3	キャリアデザインⅢ	1				2					○										●	●
	4	人工知能総論	1	2								○			●	●							
	5	人工知能入門	1	2								○			●	●	●						
	6	人工知能基礎	2				2					○			●	●	●	●	●				
	7	人工知能応用	2						2			○			●	●	●	●	●				
	8	グリーンテクノロジー	1	2								○											
	9	サステナビリティ入門	2			2						○											
	10	地球環境と諸問題	2			2						○											
	11	表象文化論	2	2								○			●	●							
	12	現代社会論	2	2								○			●	●							
	13	東北文化史	2		2							○			●	●	●						
	14	メディア文化史	2		2							○			●	●	●						
	15	市民と法	2			2						○			●	●	●						
	16	暮らしと心理学	2			2						○			●	●	●						
	17	産業社会と心理学	2				2					○			●	●	●						
	18	産業社会と倫理	2				2					○			●	●	●						
	19	情報社会の経済	2				2					○			●	●	●						
	20	日本国憲法	2				2					○			●	●	●						
	21	職業指導（工業）	2				2					○			●	●							●
	22	情報社会とモラル	2				2					○			●	●	●						
	23	工業概論	2				2					○			●	●	●						
	24	情報と職業	2						2			○			●	●	●						
	25	科学思想史	2						2			○			●	●							
	26	ビジネスマナー	2						2			○										●	●
	27	フランスの文化と言葉	2						2			○										●	
	28	韓国の文化と言葉	2						2			○										●	
	29	中国の文化と言葉	2						2			○										●	
	30	異文化理解	2						2			○										●	
	31	現代の哲学	2							2		○			●	●							
言葉と表現	32	スタディスキル	1	2								○									●	●	
	33	英語ⅠA	1	2								○										●	
	34	英語ⅠB	1		2							○										●	
	35	英語ⅡA	1			2						○										●	
	36	英語ⅡB	1				2					○										●	
	37	英会話Ⅰ	1	2								○										●	
	38	英会話Ⅱ	1		2							○										●	
	39	英会話Ⅲ	1			2						○										●	
	40	英会話Ⅳ	1				2					○										●	
	41	資格英語Ⅰ	1			2						○										●	
	42	資格英語Ⅱ	1				2					○										●	
	43	資格英語Ⅲ	1					2				○										●	
心と体の健康	44	健康・運動科学実習Ⅰ	1	2								○		●		●	●						
	45	健康・運動科学実習Ⅱ	1		2							○		●		●	●						
	46	スポーツ科学実習	1			2							○	●		●	●						
学際	47	特別課外活動Ⅰ	1												
	48	特別課外活動Ⅱ	1												
	49	特別課外活動Ⅲ	2												
	50	特別課外活動Ⅳ	2												
	51	他大学等教養科目群	4												
小計（51科目）			12：69	16：14	12：12	20：16	2：0																

※1 あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入できる。

教育課程表と学士力対応表

都市マネジメント学科 専門教育科目

都市マネジメント学科の学位授与方針

工学部 都市マネジメント学科は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。

本学の「共通学士力」（本学の全学生が身に付けるべき学士力）

共通学士力	学修成果（到達目標）
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

都市マネジメント学科の「専門学士力」（都市マネジメント学科の学生が身に付けるべき学士力）

専門学士力	学修成果（到達目標）
①良識と倫理観	「社会において活躍する人材としての良識と倫理観」を身に付けている。 (社会人そして都市マネジメントの技術者として求められる良識や倫理観を持ち、科学技術と文化・社会・自然・公共の福祉との関わりを考え、社会的責任を自覚し行動できる素養を身に付けている。)
②科学的知識	「科学に関する十分な知識を持ち、社会と自然それぞれの環境の改善に貢献できる能力」を身に付けている。 (数学及び自然科学を習得し、それらを活用して都市マネジメントに関わる専門科目の問題を解決するための能力を身に付けている。さらに、コンピュータを活用する技術を習得し、IT 社会に対応して情報を収集する方法を身に付けている。)
③自己啓発	「自己を冷静に評価し、自己を啓蒙、発展させるための適切な行動」を身に付けている。 (既成概念にとらわれず、自分自身の目でしっかりと物事を見つめ、問題解決のために何が必要であるかを自主的・継続的に考え、柔軟な解決策を創造する能力を身に付けている。また、実習や研修を通して、チームワークにおける自分の貢献度を高めるための方法を身に付けている。さらに、自分の置かれている状況や現在の実力を客観的に把握し、キャリアデザインに向けて何が必要なのかを考え、自主的・継続的に学習する能力を身に付けている。)
④相互理解と協力	「自己表現に必要な発表能力とともに、他者の意見を理解し、協力する能力」を身に付けている。 (自分が学んだこと、考えたこと、それにより新たに獲得したことを他者に理解してもらうため、レポートの書き方やプレゼンテーションの仕方を身に付けている。さらに、他者の意見を理解し、他者と協力することにより、単独で解決することが難しい問題を解いたり、より完成度の高い水準に到達できたりする経験を通して、協力することや計画的に仕事をすすめることの大切さを身に付けている。)
⑤専門的知識	「我が国の都市のマネジメントに関わる、社会・産業の要請に十分対応できるだけの知識と素養」を身に付けている。 (専門教育科目の内容を理解し、応用できる能力を身に付けるとともに、実験、実習、研修などの経験を通して土木工学に関わる産業で求められている機能をデザインできる能力を身に付けている。また、公共施設などの企画・立案・設計や建設・維持管理のためのプランニングの基礎知識を身に付けている。さらに、リスク管理・工程管理・コスト管理などのマネジメントの基礎知識を身に付けている。)
⑥語学力と国際性	「国際社会の諸問題にも関心を持ち、国際的にも活躍できるコミュニケーション能力」を身に付けている。 (国内及び国際社会の諸問題に関心に向け、それについて自分の考え方を理論的・客観的にまとめて説明できる日本語力、他者とのコミュニケーション能力を身に付けており、さらに英語で基本的なことがらを表現できる能力も身に付けている。)

工 学 部

環境応用化学科

専門教育科目

履修ガイダンス

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	分野	難易度+通し番号		
E	E	F	101		
EE-F-101					

※電気電子工学科「電気電子工学セミナー」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
E	工学部

2 列目 (学科・科目区分)	
E	電気電子工学科・専門教育科目
T	情報通信工学科・専門教育科目
C	都市マネジメント学科・専門教育科目
K	環境応用化学科・専門教育科目

3 段目 (分野)			
A	電気電子工	工学基礎	
B		電気電子(基礎)	
C		電気電子(応用)	
D		情報(基礎)	
E		情報(応用)	
F		実験・セミナー	
X		その他	
A		情報通信工	工学基礎
B	情報		
C	通信		
D	セミナー・研修		
X	その他		
A	都市マネジメント	自然科学基礎(数学)	
B		自然科学基礎(物理学・化学)	
C		土木工学基礎(材料・構造)	
D		土木工学基礎(地盤・地質)	
E		土木工学基礎(海岸・河川)	
F		土木工学基礎(関連技術)	
G		計画・マネジメント	
H		環境・防災	
I		実験・エンジニアリングデザイン	
J		セミナー・研修等	
X		その他	
A		環境応用化学	工学基礎
B			化学(基礎)
C	化学(応用)		
D	環境学		
E	実験・セミナー・研修		
X	その他		

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル(大学1年次レベル)
200 番台	中級レベル(大学2年次レベル)
300 番台	上級レベル(大学3年次レベル)
400 番台	専門レベル(大学4年次レベル)
000 番台	その他(レベル分けができない科目、例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
EK-A-101	数学基礎	2							
EK-A-102	物理基礎	2							
EK-A-103	生物基礎	2							
EK-A-104	情報リテラシー	2							
EK-B-101	化学基礎	2							
EK-B-102	工業化学概論	2							
EK-D-101	循環型社会形成論	2							
EK-A-105	微分積分学 I	2							
EK-A-106	物理学 I	2							
EK-A-107	科学リテラシー	2							
EK-B-103	物理化学 I	2							
EK-B-104	有機化学	2							
EK-B-105	分析化学 I	2							
EK-B-106	化学工学	2							
EK-D-102	環境マネジメント	2							
EK-D-103	地球環境とエネルギー	2							
EK-E-101	環境応用化学セミナー	2							
EK-A-208	微分積分学 II		2						
EK-A-209	物理学 II		2						
EK-B-207	物理化学 II		2						
EK-B-208	高分子化学		2						
EK-B-209	無機化学		2						
EK-B-210	分析化学 II		2						
EK-E-202	分析化学実験		4						
EK-D-204	地球環境科学基礎		2						
EK-D-205	大気環境工学		2						
EK-A-210	線形代数と微分方程式			2					
EK-C-201	環境化学			2					
EK-C-202	表面化学			2					
EK-C-203	有機合成化学			2					
EK-C-204	熱力学			2					
EK-E-203	物理化学実験			4					
EK-D-206	地域環境調査法及び同演習			4					
EK-D-207	水環境工学			2					
EK-C-305	錯体化学				2				
EK-C-306	計測工学				2				
EK-C-307	固体・光化学				2				
EK-C-308	触媒化学				2				
EK-C-309	化学数学 I				2				
EK-E-304	応用化学実験				4				
EK-D-308	地域環境調査実習				4				
EK-D-309	土壌環境工学				2				
EK-C-310	生化学					2			
EK-C-311	電気化学					2			
EK-C-312	機能材料					2			
EK-C-313	有機・無機材料					2			
EK-C-314	化学数学 II 及び同演習					4			
EK-D-310	緑地環境工学					2			
EK-E-305	環境応用化学研修 I					2			
EK-C-315	CAD 技術入門							2	
EK-C-316	放射化学							2	
EK-D-311	資源循環とライフサイクルアセスメント							2	
EK-E-406	環境応用化学研修 II							6	
EK-E-407	環境応用化学研修 III								6
EK-X-001	環境応用化学特別課外活動 I	…	…	…	…	…	…	…	…
EK-X-002	環境応用化学特別課外活動 II	…	…	…	…	…	…	…	…
EK-X-003	環境応用化学特別課外活動 III	…	…	…	…	…	…	…	…
EK-X-004	環境応用化学特別課外活動 IV	…	…	…	…	…	…	…	…
EK-X-005	環境応用化学特別課外活動 V	…	…	…	…	…	…	…	…
EK-X-006	環境応用化学特別課外活動 VI	…	…	…	…	…	…	…	…
EK-X-007	他学科開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
EK-X-008	他大学開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…

環境応用化学科 専門教育科目の履修の流れ

環境応用化学科 学習・教育目標

本学科は、応用化学および環境学の体系的な教育を基礎として、材料開発とその管理・製造技術と、環境影響評価と管理、エネルギーおよび環境保全技術について学び、もって持続的に発展可能な社会の実現をめざして創造的に活躍することのできる人材を育成します。

科目群の学習・教育目標

工学基礎

環境応用化学の専門科目の学びに必要な数学、物理、生物の基本事項を理解するとともに、情報の収集・編集・発信などの基本的な情報処理能力を身につけます。また、科学・技術者としての倫理観、化学物質の危険性や安全な取り扱い方法、研究成果などの知的財産管理方法の基礎を修得します。

化学（基礎）

化学（基礎）では、有機化学、無機化学、物理化学、分析化学など応用化学の基礎を学びます。有機化学では命名法や有機化合物の物性、無機化学では典型元素と遷移元素の性質、物理化学では原子構造や化学結合、分析化学では化学平衡や機器分析、などについて学びます。これらの知識を身につけることで工業分野における化学技術者としての基礎を修得します。

化学（応用）

化学（応用）では、より専門的な知識を身につけます。環境について、環境化学、計測工学、放射化学などを学びます。エネルギーについて、熱力学、電気化学、固体・光化学、触媒化学などを学びます。材料について、無機材料、有機材料、機能材料を学びます。また、化学工学では数値解析、プログラミングなどを学びます。これらの知識を実験と組み合わせることで実学としていきます。

環境学

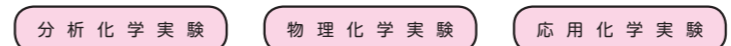
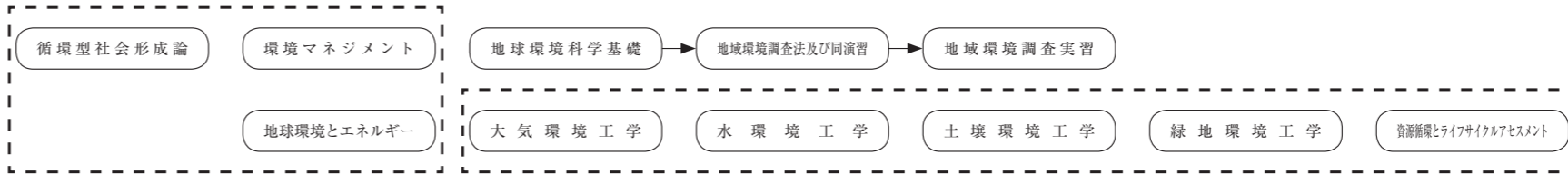
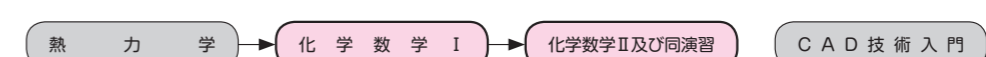
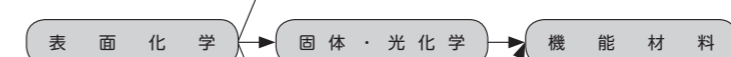
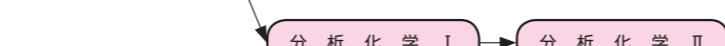
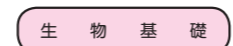
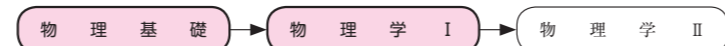
持続可能な社会づくりに向けた「循環型社会」・「低炭素化社会」・「自然共生社会」の仕組みや対応技術、法制度や環境管理の基礎について学びます。さらに、環境汚染や汚濁を招く諸成分の挙動や生物応答については環境調査方法などを通して理解し、大気質・水質・土壌質・循環資源などの制御技術や影響評価手法を学ぶことによって、具体的な環境問題解決能力を修得します。

実験・セミナー・研修

実験では、化学用ガラス機器の名称や使用方法を学び、分光計などの分析機器や蒸留装置などと組み合わせて様々な物質の合成、分析、物性の解析の原理と方法を理解するための実験を行います。またセミナーと研修では、指導教員のもとで、少人数で能動的な学習を行い、コミュニケーション能力、問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力、データ解析能力などを身につけます。

必修科目 選択必修科目 選択科目

※選択必修科目の中から合計12単位以上を必ず修得すること



《履修ガイダンス・教育課程表》

環境応用化学科

1. カリキュラムの特徴

応用化学および環境学の体系的教育を行うことで、これらの知識・技術を基礎として持続可能な社会の実現に寄与する人材を育成するためのカリキュラムとなっています。

1年次から2年次前期にかけて、まず専門的な環境応用化学を学んでいくための基礎作りとして、数学、物理、生物などの「工学基礎」を学びます。正課科目と連動する形で「基礎学力支援講座」も開講されますので、受講対象となった学生はここでしっかり基礎学力を養ってください。また、工学基礎の学習と並行して、「有機化学」、「無機化学」、「分析化学」などの応用化学の基礎となる科目や、「循環型社会形成論」、「地球環境科学基礎」など環境学の基礎を学びます。また、科学・技術者としての倫理観、化学物質の危険性や安全な取り扱い方法、研究成果などの知的財産管理方法の基礎についても学びます。

2年次後期から3年次にかけては、これまでに学んだ内容を基礎として、より専門的な応用化学について学びます。これにより、化学の専門的な知識を環境・エネルギー・材料・化学プラント工業への応用と関連づけ、様々な工業分野の基礎を支える化学物質創製技術・計測技術・製造技術の基礎を修得します。また、「物理化学実験」、「応用化学実験」などの実験を通して実践的に学びを深めるとともに実験技術を修得します。環境学の分野では、環境調査法や大気・水環境・土壌・循環資源などの制御技術や影響評価手法を学ぶことで、具体的な環境問題解決能力を修得します。

3年の後期から4年生にかけては、少人数ずつ1つの研究室に所属して卒業研修に取り組みます（「環境応用化学研修Ⅰ～Ⅲ」）。これにより、問題発見・解決能力、データ解析能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力などを総合的に養います。

2. キャリアガイダンス

環境応用化学科では、以下の科目を通してキャリアガイダンス（就職指導）を行っています。まず1年次には教養科目の「スタディスキルⅠ・Ⅱ」や「プレゼンテーション」において、大学生・社会人に必要とされるスタディスキルやプレゼンテーション能力を学びます。また、1年後期の「環境応用化学セミナー」では、少人数のセミナーをとおして環境応用化学の社会的な意義や将来の進路についても考えます。就職活動が本格化する3年次後期には、社会人に必要とされるマナーを「ビジネスマナー」（教養科目）で学ぶとともに、「環境応用化学研修Ⅰ～Ⅲ」の指導教員（研究室の教員）から個別の進路指導を受けながら、各自の進路を決定していきます。

3. 卒業研修について

大学専門教育の総まとめとして、3年後期から卒業までの期間には「環境応用化学研修Ⅰ～Ⅲ」が行われます。これは、研究室の指導教員から専門的な指導を受けながら、具体的なテーマに関する研究を行い、その成果を最終的に卒業論文としてまとめるものです。流れとしては、まず、3年次前期終了後から後期始めにかけて、学生の希望に基づいて研究室配属を行います。研修は、実験、調査、解析、ゼミナール等、研究室ごとに様々な方法で進められます。4年次には、研究も本格化するため、研究室で毎日研修に取り組むことも必要になります。最終的に、4年次の1月～2月には、研究成果を卒業論文としてまとめるとともに、その内容を口頭発表やポスター発表の形で発表します。成績は、課題設定、普段の研究への取り組み、研究成果、卒業論文、研究発表における対応などを総合して評価します。

4. 履修のためのガイド

進級や卒業のためには修得単位数についての条件が定められています（進級・卒業条件の表を参照）。しかし、2年次から3年次への進級条件、3年次から4年次への進級条件は、進級のための必要最小限の条件です。実際には、履修上限制度の範囲内で、以下の「学年ごとの目標単位数」にしたがって、「履修の流れ」を参照して科目間のつながりをよく考え単位を修得するように心がけてください。必修科目は卒業時までには必ず修得しなければならない科目であるため、できるだけ開講学年時に修得するように努めてください。また、単位の数をそろえるだけでなく、各科目の教育目標を達成できるように、成績の内容も充実したものとなるように努力すべきことは言うまでもありません。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次からの 累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	6/13	27	4/6	43/52	43/52
2年次	1	8/15	10	23/25	42/51	85/103
3年次	1	8/33	8	20/22	37/64	122/167
4年次	—	—/2	6	4/6	10/14	132/181
卒業までの 総合計	8	22/63	51	51/59	132/181	
	30/71		102/110			

5. 環境教育について

「循環型社会形成論」、「環境マネジメント」などの科目において、持続可能な社会づくりに向けた循環型社会・低炭素化社会・自然共生社会の仕組みや対応技術、法制度や環境管理の基礎について学びます。また、化学物質は環境汚染を引き起こさないように法令や指定された手続にしたがって取り扱う必要があります。このような安全な化学物質の取り扱い方法について、「科学リテラシー」のほか、化学（基礎）および実験の科目群の中で学びます。

6. 教職課程について

環境応用化学科では、高等学校の「工業」の教育職員免許状を取得するための科目を履修することができます。

7. 地域志向科目

本学科では、地域社会の基盤を支える技術者として活躍できる人材を育成するために、その知識や技術に関わる地域志向科目を開講します。この科目では、地域特性に着目した環境マネジメントや環境影響評価方法などに関する知識や技法を学び、地域の持続的な発展のための自身の役割を自覚し、具体的な考えや行動を形成する能力を養います。

教育課程表における進級・卒業条件

環境応用化学科

◎3年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	特になし	
専門教育科目	44 単位以上	
計	全体として 60 単位以上	

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	20 単位以上 必修 6 単位以上を含むこと	
専門教育科目	76 単位以上	
計	全体として 98 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24 単位 必修 8 単位を含むこと	
専門教育科目	100 単位以上 必修 51 単位を含むこと	選択科目のうち環境化学, 表面化学, 有機合成化学, 熱力学, 錯体化学, 計測工学, 固体・光化学, 触媒化学, 生化学, 電気化学, 機能材料, 有機・無機材料, CAD 技術入門, 放射化学の 14 科目から, 合計 12 単位以上を必ず修得すること
計	124 単位	

教育課程表と学士力対応表

環境応用化学科 教養教育科目

本学の「共通学士力」(本学の全学生が身に付けるべき学士力)	
共通学士力	学修成果(到達目標)
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

・単位数と学修時間(授業時間数及び自習時間数)

学修時間については学則第10条に以下の記載があります。(詳細はP.4“単位制と授業時間について”参照)

<p>第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。 ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。</p>
--

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題(予習・復習)」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習時間を取るよう努めてください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位(90時間)	1コマ/週(計30時間)	+	60時間/14週
演習・実習	1単位(45時間)	1コマ/週(計30時間)	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習(予習・復習)時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

教育課程表と学士力対応表

環境応用化学科 専門教育科目

環境応用化学科の学位授与方針

工学部 環境応用化学科は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。

本学の「共通学士力」（本学の全学生が身に付けるべき学士力）

共通学士力	学修成果（到達目標）
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

環境応用化学科の「専門学士力」（環境応用化学科の学生が身に付けるべき学士力）

専門学士力	学修成果（到達目標）								
①工学基礎	<ul style="list-style-type: none"> 数学（微積分，線形代数，微分方程式），物理学，生物学の基礎的知識を身に付け，環境応用化学の知識修得に応用することができる。 コンピュータを適切に使って情報の収集・整理・発信ができる。 技術者倫理などについて理解し，科学リテラシーの基本事項を説明できる。 								
②化学基礎	<ul style="list-style-type: none"> 環境と応用化学の理解に必要な基盤となる化学分野（物理化学，無機化学，有機化学，分析化学，高分子化学）の基礎知識を身に付け，それを説明することができる。 化学の理論と現象を工業に適用させるための化学工学の基礎知識を身に付け，それを説明することができる。 化学の基礎を体系的に理解し，多様な化学現象の原理を説明できる。 化学物質の特性に応じた使用・管理ができる。 								
③化学応用	<ul style="list-style-type: none"> 有機化学，物理化学，無機化学，分析化学，高分子化学に関する専門的な知識を身に付け，それを応用することができる。 化学工学，材料化学，生化学の分野で用いられる機器や技術について理解し説明することができる。 具体的な現象や問題に対し，化学的な視点で自ら論理的に理解し，説明することができる。 化学工学，環境化学，材料化学，生化学のいずれかの系統の実験を企画し，実施できる。 								
④化学実験	<ul style="list-style-type: none"> 試薬や実験機器等を適切に取り扱い，安全に実験を遂行できるとともに，化学反応の観察および数値データの処理ができ，これに自分の考察を加えて適切にレポートをまとめることができる。また，化学分野ごとに，以下のことができる。 								
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%; text-align: center;">【分析化学】</td> <td>無機化学・有機化学・分析化学などの基礎知識を基に，化学分析に用いる基本的な化学実験器具を適切に取り扱い，所定の実験操作により，物質の定性分析及び定量分析を行うことができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">【物理化学】</td> <td>物理化学・有機化学・分析化学などの基礎知識を基に，物性測定に用いる基本的な測定器具の原理を理解して取扱い，装置出力を得て，物性値への変換及び物理化学現象の解析を行うことができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">【材料化学】</td> <td>無機化学・有機化学・材料化学・生化学などの基礎知識を基に，材料の物性および電気化学的特性を解析する原理および操作を理解し，材料評価することができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">【化学工学】</td> <td>数学・化学・物理など工学に関する基礎知識を基に，平衡論や速度論の原理を理解し，実験で観察される現象を数値解析し，現象の定量的な解析を行うことができる。</td> </tr> </table>	【分析化学】	無機化学・有機化学・分析化学などの基礎知識を基に，化学分析に用いる基本的な化学実験器具を適切に取り扱い，所定の実験操作により，物質の定性分析及び定量分析を行うことができる。	【物理化学】	物理化学・有機化学・分析化学などの基礎知識を基に，物性測定に用いる基本的な測定器具の原理を理解して取扱い，装置出力を得て，物性値への変換及び物理化学現象の解析を行うことができる。	【材料化学】	無機化学・有機化学・材料化学・生化学などの基礎知識を基に，材料の物性および電気化学的特性を解析する原理および操作を理解し，材料評価することができる。	【化学工学】	数学・化学・物理など工学に関する基礎知識を基に，平衡論や速度論の原理を理解し，実験で観察される現象を数値解析し，現象の定量的な解析を行うことができる。
	【分析化学】	無機化学・有機化学・分析化学などの基礎知識を基に，化学分析に用いる基本的な化学実験器具を適切に取り扱い，所定の実験操作により，物質の定性分析及び定量分析を行うことができる。							
	【物理化学】	物理化学・有機化学・分析化学などの基礎知識を基に，物性測定に用いる基本的な測定器具の原理を理解して取扱い，装置出力を得て，物性値への変換及び物理化学現象の解析を行うことができる。							
【材料化学】	無機化学・有機化学・材料化学・生化学などの基礎知識を基に，材料の物性および電気化学的特性を解析する原理および操作を理解し，材料評価することができる。								
【化学工学】	数学・化学・物理など工学に関する基礎知識を基に，平衡論や速度論の原理を理解し，実験で観察される現象を数値解析し，現象の定量的な解析を行うことができる。								
⑤環境科学	<ul style="list-style-type: none"> 自然生態系における物質循環やエネルギーの流れなど生態学の基礎を理解し，その知識をもとに持続可能な産業・社会システム構築に向けた取り組みを提案できる。 環境汚染，気候問題，生物多様性などの環境問題を解決するために国の内外で実施・運用されている取り組みや法令・制度を理解し，説明できる。 環境汚染物質がもたらす生物応答に関する知識を身に付け，環境影響を評価することができる。 								
	⑥環境応用	<ul style="list-style-type: none"> 環境汚染・汚濁に関わる化学物質の挙動などを明らかにするため，試料採取や観測の調査計画を立てたり，環境計測に関わる機器や道具の原理や機能を理解し，説明することができる。 大気質・水質・土壌質・循環資源などの制御技術，ライフサイクルアセスメントに関するいずれかの知識を身に付け，それらを応用して環境・エネルギー・資源問題解決のシステムや素材などの提案ができる。 環境問題の知識やその解決方法について他者と情報を共有したり，その解決のための協働を企画・運用できる。 							

工 学 部

卒業後等の取得資格

○卒業後等の取得資格

※受験資格や試験免除条件が変更となる場合がありますので、最新の情報を各種資格のホームページで確認して下さい。

工学部

【大学卒業で受験資格が得られる】

◦ 衛生工学衛生管理者

卒業後、指定する講習場所で、労働基準法、労働安全衛生法等を受講し、修了後に行なわれる修了試験に合格した者は、申請により資格が取得できる。

◦ 甲種消防設備士

電気電子工学科（電子工学科）、情報通信工学科（通信工学科）、建築学科、都市マネジメント学科（建設システム工学科）、環境応用化学科（環境エネルギー学科）での課程を修め卒業した者は甲種の受験資格が得られる。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 建築物環境衛生管理技術者

工学系学科を卒業後1年以上の特定建築物の環境衛生維持管理に関する実務に従事した者は厚生労働大臣の指定する講習を受けることにより資格が取得できる。また、2年以上の実務経験を有し国家試験に合格することによって資格を取得できる。1級建築士の資格を有する者は経験年数不要。

◦ 公害防止管理者

国家試験と技術資格又は学歴及び実務経験により、書類審査を経て一定の講習を受講し、有資格者となる二つの方法がある。国家試験の受験には学歴、実務経験等の一切の制限はない。技術資格又は学歴等により講習を受講し有資格者となるためには、大気関係、水質関係、騒音関係、振動関係のいずれかの資格を有する者か、卒業後、ばい煙発生施設又はばい煙を処理するための施設の維持管理を3年以上経験した者に対して受講の資格が与えられる。

電気電子工学科

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 1級電気工事施工管理技士，1級電気通信工事施工管理技士，1級管工事施工管理技士

電気電子工学科を卒業した者は、これらの施工管理技士になるための技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が3年に短縮される。この経験年数は高校卒業では10年以上、指定学科以外の大学卒業では4年6ヶ月以上が必要である。

◦ 2級電気工事施工管理技士，2級電気通信工事施工管理技士，2級管工事施工管理技士

電気電子工学科を卒業した者は、これらの施工管理技士になるための技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が1年に短縮される。この経験年数は高校卒業では9年以上、指定学科以外の大学卒業では1年6ヶ月以上が必要である。

◦ エネルギー管理士

資格の取得方法は、（1）国家試験に合格する（2）エネルギー管理研修の修了試験に合格する2種類がある。ただし、合格してエネルギー管理士免状の交付を申請する際に、1年以上のエネルギーの使用の合理化に関する実務経験が必要である。また、エネルギー管理研修を受けるためには、研修申込時までに3年以上の実務経験が必要である。

【大学卒業者の資格試験一部免除】

◦電気通信主任技術者

指定の科目を修得した学生は、電気通信主任技術者の試験科目（電気通信システム、専門的能力、伝送交換設備及び設備管理（又は線路設備及び設備管理）、法規）のうち、電気通信システムの試験が免除される。

平成24（2012）年度以降の入学者は、物理学Ⅱ、電気回路Ⅳ、マルチメディアシステム、コンピュータネットワークの単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学者は、工学基礎物理実験、物理学Ⅱ、固体電子工学Ⅱ、組込システム入門、電気回路Ⅳ、マルチメディアシステム、コンピュータネットワーク、電力工学概論の単位を修得しなければならない。

令和2（2020）年度以降の入学者は、物理学Ⅱ、固体電子工学Ⅱ、組込システム入門、電気回路Ⅳ、マルチメディアシステム、コンピュータネットワーク、電力工学概論の単位を修得しなければならない。

なお、電気電子工学科を卒業して事業用電気通信設備の実務経験1年以上であれば同等の免除が受けられる。

※電気通信主任技術者資格の種類はつぎのとおり

1. 伝送交換主任技術者
2. 線路主任技術者

【在学中でも得られる資格試験一部免除】

◦基本情報技術者

情報処理推進機構（IPA）の免除対象科目履修講座の認定を受けている。

電気電子工学科の平成29（2017）年度以降令和3（2021）年度までの入学者は、コンピュータアーキテクチャⅠ、コンピュータアーキテクチャⅡA（またはⅡB）、およびコンピュータアーキテクチャⅢA（またはⅢB）を履修の上、IPAから問題提供を受けて本学が実施する修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

電気電子工学科の令和4（2022）年度以降の入学者は、コンピュータアーキテクチャⅠ、コンピュータアーキテクチャⅡA（またはⅡB）、コンピュータアーキテクチャⅢA（またはⅢB）、およびコンピュータネットワークを履修の上、IPAから問題提供を受けて本学が実施する修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

この認定を受けた者は、続く1年間、基本情報技術者試験を一部免除（午前の部）で受験することが出来る。

情報通信工学科

【大学卒業者の資格試験（国家試験）免除】

◦無線従事者

平成20（2008）年度以降平成28（2016）年度までの入学で情報通信工学科の課程を修め卒業した者は、申請により第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士の免許を受けることができる。ただし、①第三級海上特殊無線技士については、情報通信工学実験Ⅲ、電気通信法規の単位の他、情報コースの学生は電波工学、通信システムⅠ、通信システムⅡの単位を修得しなければならず、②第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士については、第三級海上特殊無線技士に必要な単位の他、電気・電子計測の単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学で情報通信工学科の課程を修め卒業した者は、申請により第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士、第三級海上特殊無線技士の免許を受けることができる。ただし、①第三級海上特殊無線技士については、情報通信工学実験Ⅲ、電波工学、通信システムⅠ、通信システムⅡ、電気通信法規の単位を修得しなければならず、②第一級陸上特殊無線技士、第二級海上特殊無線技士については、第三級海上特殊無線技士に必要な単位の他、電気・電子計測の単位を修得しなければならない。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 1・2級電気工事施工管理技士，1・2級電気通信工事施工管理技士，1・2級管工事施工管理技士

平成20年度以降の入学生で情報通信工学科を卒業した者は，1級技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が大学卒業後4年6ヶ月以上から3年に短縮される。また，2級技術検定試験の受験に必要な最低の実務経験年数が大学卒業後1年6ヶ月以上から1年に短縮される。

◦ エネルギー管理士

資格の取得方法は，(1) 国家試験に合格する (2) エネルギー管理研修の修了試験に合格する2種類がある。ただし，合格してエネルギー管理士免状の交付を申請する際に，1年以上のエネルギーの使用の合理化に関する実務経験が必要である。また，エネルギー管理研修を受けるためには，研修申込時までに3年以上の実務経験が必要である。

【大学卒業者の資格試験一部免除】

◦ 電気通信主任技術者

課程を修め卒業した者のうち指定の科目を修得した学生は，電気通信主任技術者の試験科目〈電気通信システム，専門的能力，伝送交換設備及び設備管理（又は線路設備及び設備管理），法規〉のうち，電気通信システムの試験が免除される。

平成24（2012）年度以降平成28（2016）年度までの入学生は，物理学Ⅱ，電磁気学Ⅱ，電気回路Ⅲ，電子回路Ⅱ，情報理論，アルゴリズムとC言語及び同演習，情報通信工学実験Ⅲ，電気・電子計測の単位その他，情報コースの学生は電波工学，通信システムⅠ，通信システムⅡの単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学生は，物理学Ⅱ，電磁気学Ⅱ，電気・電子計測，電気回路Ⅲ，電子回路Ⅱ，情報理論，電波工学，通信システムⅠ，通信システムⅡの単位を修得しなければならない。

令和2（2020）年度以降の入学生は，物理学Ⅱ，電磁気学Ⅱ，電気・電子計測，電気回路Ⅲ，電子回路Ⅱ，情報理論，電気回路Ⅱ及び同演習，電波工学，通信システムⅠ，通信システムⅡの単位を修得しなければならない。

なお，情報通信工学科を卒業して事業用電気通信設備の実務経験1年以上であれば同等の免除が受けられる。

※電気通信主任技術者資格の種類はつぎのとおり

1. 伝送交換主任技術者
2. 線路主任技術者

◦ 第一級陸上無線技術士

平成24（2012）年度以降平成28（2016）年度までの入学生で情報通信工学科の課程を修め平成28年3月以降に卒業した者は，申請により第一級陸上無線技術士の試験科目のうち無線工学の基礎の試験が免除される。ただし，統計解析，コンピュータ数値解析，コンピュータ数学，物理学Ⅱ，工学基礎物理実験，光通信工学，電磁気学Ⅱ，電気・電子計測，基礎エレクトロニクス，電子回路Ⅱ，電気回路Ⅲ，情報通信工学実験Ⅲの単位その他，情報コースの学生は，電波工学，通信システムⅠ，通信システムⅡの単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学生で情報通信工学科の課程を修め卒業した者は，申請により第一級陸上無線技術士の試験科目のうち無線工学の基礎の試験が免除される。ただし，統計解析，コンピュータ数値解析，コンピュータ数学，物理学Ⅱ，工学基礎物理実験，光通信工学，電磁気学Ⅱ，電気・電子計測，電波工学，通信システムⅠ，通信システムⅡ，半導体デバイス，電子回路Ⅱ，電気回路Ⅲ，情報通信工学実験Ⅲの単位を修得しなければならない。

令和2（2020）年度以降の入学生で情報通信工学科の課程を修め卒業した者は，申請により第一級陸上無線技術士の試験科目のうち無線工学の基礎の試験が免除される。ただし，解析Ⅲ，電気数学，統計学，コンピュータ数値解析，情報理論，物理学Ⅱ，音響工学，光通信工学，電磁気学Ⅱ，電気・電子計測，電波工学，通信システムⅠ，通信システムⅡ，半導体デバイス，電子回路Ⅱ，電気回路Ⅱ及び同演習，電気回路Ⅲ，情報通信工学実験Ⅲの単位を修得しなければならない。

【在学中でも得られる資格試験一部免除】

◦ 基本情報技術者

情報処理推進機構（IPA）の免除対象科目履修講座の認定を受けている。

情報通信工学科の平成24（2012）年度以降平成28（2016）年度までの入学者は、コンピュータアーキテクチャⅠおよびⅡ、情報とマネジメントを履修の上、IPAから問題提供を受け本学が実施する修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

情報通信工学科の平成29（2017）年度以降の入学者は、基本情報技術Ⅰ、基本情報技術Ⅱ－AまたはB、および基本情報技術Ⅲ－AまたはBを履修の上、IPAから問題提供を受け本学が実施する修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

情報通信工学科の令和2（2020）年度以降の入学者は、情報工学入門、情報リテラシーⅠおよびⅡ、プログラミング入門、コンピュータネットワークⅠおよびⅡ、計算機工学Ⅰ、論理回路、アルゴリズムとデータ構造及び同演習、基本情報技術、データベース、プログラミング実践を全て履修し、IPAから問題提供を受けた修了試験に合格すれば、IPAから同講座の修了認定者として認定を受けることができる。

この認定を受けた者は、続く1年間、基本情報技術者試験を一部免除（午前の部）で受験することができる。

◦ 工事担任者

情報通信工学科の教育課程において指定の科目を修得した学生は、工事担任者試験の試験科目のうち、「電気通信技術の基礎」の試験が免除される。

平成24（2012）年度以降平成28（2016）年度までの入学者は、数学への旅、代数・幾何概論、物理への旅、解析演習Ⅰ、解析演習Ⅱ、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、電気回路Ⅰ及び同演習、電気回路Ⅱ及び同演習、電気回路Ⅲ、電子回路Ⅰ及び同演習、電子回路Ⅱ、論理回路、情報通信工学実験Ⅰ、情報通信工学実験Ⅱ、情報通信工学実験Ⅲ、通信システムⅠ、通信システムⅡ、コンピュータネットワークの単位を修得しなければならない。

平成29（2017）年度以降の入学者は、線形代数、解析Ⅰ及び同演習、情報通信の物理基礎、物理学Ⅰ、物理学Ⅱ、電気回路入門、電気回路Ⅰ及び同演習、電気回路Ⅱ及び同演習、電気回路Ⅲ、電子回路Ⅰ及び同演習、電子回路Ⅱ、論理回路、情報通信工学実験Ⅱ、通信システムⅠ、通信システムⅡ、コンピュータネットワークの単位を修得しなければならない。

令和2（2020）年度以降の入学者は、物理学Ⅱ、電気回路Ⅲ、電子回路Ⅱ、電気回路Ⅱ及び同演習、通信システムⅠ、通信システムⅡの単位を修得しなければならない。

都市マネジメント学科

【大学卒業者の資格試験（国家試験）免除】

◦ 技術士補

都市マネジメント学科の教育カリキュラムは、2006年度以降JABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を受けており、都市マネジメント学科の卒業生は全員、建設部門の修習技術者（国家試験である技術士1次試験の合格者と同等）となる資格を有し、申請により技術士補に登録することができる。2021年度以降卒業の都市マネジメント学科の学生は、定期的実施されるJABEE審査の結果により、同様の扱いとなる予定である。また4年間の実務経験を経て技術士2次（技術士）試験の受験が可能である。（詳細は当該学科へ問合せのこと）

◦ 測量士補

都市マネジメント学科の課程を修めた卒業生で「測量に関する科目*」を修得した者は、願い出により測量士補の資格を取得できる。

*詳細は当該学科へ問合せのこと

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 1・2級土木施工管理技士

都市マネジメント学科の課程を修めた卒業生で、土木施工管理に関して3年以上の実務に従事した者は、1級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。同様に1年以上の実務に従事した者は、2級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。

◦ 1・2級建築施工管理技士

都市マネジメント学科の課程を修めた卒業生で、建築施工管理に関して3年以上の実務に従事した者は、1級建築施工管理技士の受験資格を取得できる。同様に1年以上の実務に従事した者は、2級建築施工管理技士の受験資格を取得できる。

◦ 測量士

都市マネジメント学科の課程を修めた卒業生で「測量に関する科目*」を修得した者は、卒業後1年以上測量に関する実務に従事した場合、願い出により測量士の資格を取得できる。*詳細は当該学科へ問合せのこと

【大学卒業者の資格試験一部免除】

◦ 甲種（乙種）火薬類取扱保安責任者

都市マネジメント学科（建設システム工学科）の課程を修め火薬学を修得し卒業した者は甲種、乙種に関係なく、一般火薬学の試験科目が免除される。甲種は1ヶ月1000kg以上、乙種は1ヶ月25kg以上1000kg未満の火薬爆薬取扱に区分される。

◦ 土地家屋調査士

測量士補、建築士の資格を有する者は、第2次試験（平面測量、作図）が免除される。

環境応用化学科

【大学卒業者の資格試験（国家試験）免除】

◦ 毒物劇物取扱責任者

指定科目の単位を取得し、応用化学に関する学課を修了した者は卒業後資格を得られる。ただし、心身の障害により毒物劇物取扱者の業務を適正に行うことができないと厚生労働省令で定める者、麻薬、大麻、阿片、または覚せい剤中毒者、毒物や劇物、または薬事に関する罪を犯し、罰金以上の刑に処せられその執行を終わり、または執行を受ける事が無くなった日から起算して3年を経過していない者、18歳未満などの欠格事由にあてはまる場合、毒物劇物取扱責任者になることができない。

【大学卒業で受験資格が得られる資格】

◦ 危険物取扱者（甲種）

環境応用化学科での課程を修めて卒業した者、もしくは化学に関する授業科目を15単位以上修得した者は受験資格が得られる。危険物取扱者は消防法で規定されているガソリン・灯油・軽油・塗料等の危険物を大量に製造・貯蔵・取扱いする各種施設で必要とされる国家資格となる。危険物取扱者の資格は甲種・乙種・丙種の3種類があり、甲種は、全種類の危険物を扱うことができる最上位の資格となる。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 作業環境測定士（第一種・第二種）

理科系統の大学の正規の課程を修めて卒業した者で、その後1年以上労働衛生の実務に従事した経験を有する者が受験資格を得られる。作業環境測定士試験に合格し、かつ、都道府県労働局長または厚生労働大臣もしくは都道府県労働局長の指定する者が行う講習を修了し、登録することで作業環境測定士の資格を取得できる。デザイン・サンプリング、分析（解析を含む。）のすべてを行うことができる第一種作業環境測定士と、デザイン・サンプリング、簡易測定器による分析業務のみができる第二種作業環境測定士

の二種類がある。

◦ エネルギー管理士

資格の取得方法は、(1) 国家試験に合格する (2) エネルギー管理研修の修了試験に合格する 2 種類がある。ただし、合格してエネルギー管理士免状の交付を申請する際に、1 年以上のエネルギーの使用の合理化に関する実務経験が必要である。また、エネルギー管理研修を受けるためには、研修申込時までに 3 年以上の実務経験が必要である。

建築学部

教養教育科目 履修ガイダンス

カリキュラムの特徴

専門的な知識や技術のみに偏ることのない広い視野，市民としての常識，豊かな人間性を身につけるために「社会性」「人間性」「文化性」「科学力」「人間力」「表現力」「健康」「学際」という多彩な科目群を設け，幅広く学修することによって，専門課程で修得した知識や技術を地域社会や国内外において正しく活かすことができるような人材の育成を目指す。

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 段目		2 段目		3 段目	
学部区分	学科区分	-	分野	-	学習進度+通し番号
F	GE	-	LE	-	111
FGE-LE-111					

※「スタディスキルⅠ」（1年次開講）の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 段目 (学部区分)	
F	工学部/建築学部/ライフデザイン学部
E A	工学部/建築学部
L	ライフデザイン学部
(学科・科目区分)	
GE	教養教育科目
Z	教職科目

2 段目 (分野)		
CCS	教養教育	地域・文化・社会
LE		言葉と表現
MPH		心と体の健康
IDP		学際
Z	教職	教職

3 段目 (学習進度+通し番号)	
100番台	学習進度1クラスレベル
200番台	学習進度2クラスレベル
300番台	学習進度3クラスレベル
400番台	学習進度4クラスレベル
500番台	学習進度5クラスレベル
600番台	学習進度6クラスレベル
700番台	学習進度7クラスレベル
800番台	学習進度8クラスレベル
000番台	その他(レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FGE-CCS-101	キャリアデザインⅠ	2							
FGE-CCS-121	人工知能総論	2							
EAGE-CCS-141	表象文化論	2							
EAGE-CCS-142	現代社会論	2							
FGE-LE-111	スタディスキル	2							
FGE-LE-131	英語ⅠA	2							
FGE-LE-141	英会話Ⅰ	2							
FGE-MPH-111	健康・運動科学実習Ⅰ	2							
FGE-CCS-222	人工知能入門		2						
FGE-CCS-231	グリーンテクノロジー		2						
FGE-CCS-241	東北文化史		2						
FGE-CCS-242	メディア文化史		2						
FGE-LE-232	英語ⅠB		2						
FGE-LE-242	英会話Ⅱ		2						
FGE-MPH-212	健康・運動科学実習Ⅱ		2						
FGE-CCS-302	キャリアデザインⅡ			2					
FGE-CCS-332	サステナビリティ入門			2					
FGE-LE-333	英語ⅡA			2					
FGE-LE-343	英会話Ⅲ			2					
FGE-LE-351	資格英語Ⅰ			2					
FGE-MPH-321	スポーツ科学実習			2					
FGE-CCS-411	市民と法				2				
FGE-CCS-412	暮らしと心理学				2				
FGE-CCS-433	地球環境と諸問題				2				
FGE-LE-434	英語ⅡB				2				
FGE-LE-444	英会話Ⅳ				2				
FGE-LE-452	資格英語Ⅱ				2				
FGE-CCS-503	キャリアデザインⅢ					2			
FGE-CCS-512	産業社会と心理学					2			
FGE-CCS-513	産業社会と倫理					2			
FGE-CCS-523	人工知能基礎					2			
FGE-CCS-531	職業指導(工業)					2			
EAGE-CCS-532	情報社会とモラル					2			
FGE-CCS-533	工業概論					2			
FGE-CCS-541	情報社会の経済					2			
FGE-CCS-542	日本国憲法					2			
FGE-LE-553	資格英語Ⅲ					2			
FGE-CCS-624	人工知能応用						2		
EAGE-CCS-634	情報と職業						2		
EAGE-CCS-641	科学思想史						2		
EAGE-CCS-642	ビジネスマナー						2		
FGE-CCS-661	フランスの文化と言葉						2		
FGE-CCS-662	韓国の文化と言葉						2		
FGE-CCS-663	中国の文化と言葉						2		
FGE-CCS-664	異文化理解						2		
FGE-CCS-711	現代の哲学							2	
FGE-IDP-010	特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-020	特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-030	特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-040	特別課外活動Ⅳ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-050	他大学等教養科目群	…	…	…	…	…	…	…	…

教養教育科目の履修の流れ (建築学部)

総合教育センター 学習・教育目標

1. 自ら考えて行動できる市民として必要な教養（素養）を身につけること。
2. 工学・建築学およびライフデザイン学を学ぶための基礎的知識を身につけること。
3. 高等学校教育から大学教育に円滑に移行するための基礎学力を身につけること。
4. 高校教員免許状取得を目指す学生に必要な基礎的（専門）知識を身につけること。

必修科目

選択科目

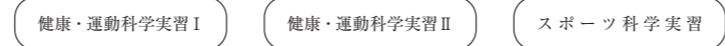
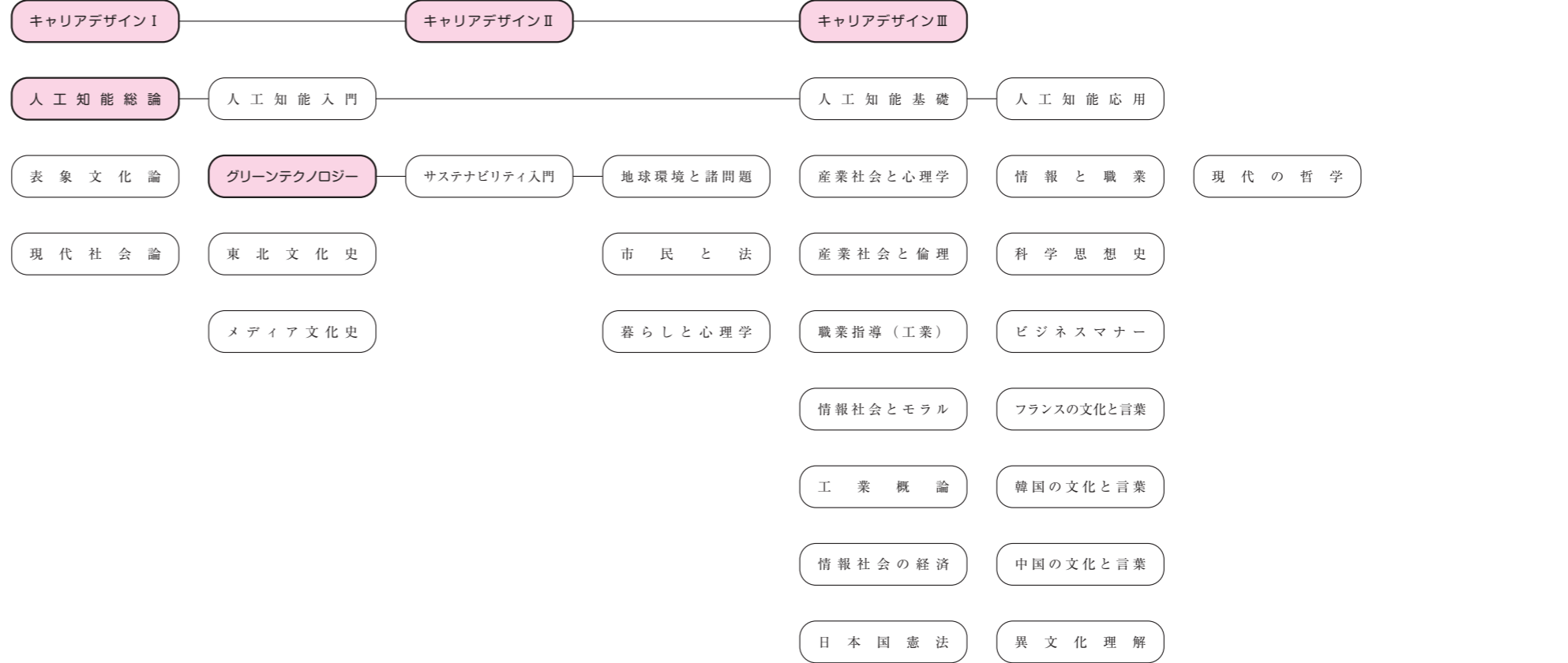
科目群の学習・教育目標

地域・文化・社会	現代の社会、および現代の文化（生活）や地域の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。
-----------------	--

言葉と表現	専門課程において要求される言語の読解力、また社会に出てから要求される言語による自己表現と相互理解の能力を身につける。
--------------	--

心と体の健康	身体運動と心身の健康についての正しい知識と実践能力を修得する。またコミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てる。
---------------	---

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期



英語科目の履修要項

近年、日本の多くの高等教育機関で、教育の質の保証という観点から、客観的な成績評価の指標として、資格試験が利用されています。また、エントリーシートへの資格試験成績の記入や、入社後の受験を義務づけ、昇格の条件として用いる大手企業なども増加しています。こうした状況に鑑みて、本学では、文系・理系の両分野において有用な資格である TOEIC (Test of English for International Communication) を念頭に置いた演習を、英語教育に取り入れています。資格試験対策としては継続的な学習が最も重要ですから、1年次から目的意識を持って履修計画を立ててください。

1. 履修科目

〈必修科目〉(1年次)

英語科目は、「読む、書く、聞く、話す」の四技能の養成を目的とし、以下の必修科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数	
		1年	
		前期	後期
英語 I A	1	2	
英語 I B	1		2

「英語 I A」及び「英語 I B」は、基礎的文法項目の学習を中心とする科目です。

〈選択科目〉(1・2・3年次)

各自のニーズと目的に合った英語学習を行うため、以下の選択科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数					
		1年		2年		3年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
英語 II A	1			2			
英語 II B	1				2		
英会話 I	1	2					
英会話 II	1		2				
英会話 III	1			2			
英会話 IV	1				2		
資格英語 I	1			2			
資格英語 II	1				2		
資格英語 III	1					2	

「英語 II A」及び「英語 II B」は、英米文化を学習する科目です。

「英会話 I・II・III・IV」では、外国人講師による speaking, listening を中心とした実践的英会話、および TOEIC リスニングセクション対策の基礎となる演習を行います。

「資格英語 I・II・III」では、TOEIC 対策に特化した 400～500 点以上のレベルの演習を行います。受講者は、TOEIC IP テスト受験が義務付けられます。

<p>2. 英語科目の 再履修に ついて</p>	<p>「英語ⅠA」「英語ⅠB」・「英語ⅡA[*]」「英語ⅡB[*]」（※都市マネジメント学科のみ必修）の単位未修得者（成績評価が「不可」の者）は、再履修クラスを受講してください。ただし、前期は「英語ⅠB」「英語ⅡB（都市マネジメント学科のみ開講）」を対象とした再履修クラス、後期は「英語ⅠA」「英語ⅡA（都市マネジメント学科のみ開講）」を対象とした再履修クラスのみが開講されます。再履修クラスを受講できない場合には、各学科の正規クラスで再履修してください。また、各科目の成績評価が「不適」の学生は、再履修クラスを受講できませんので、各学科の正規クラスを受講してください。</p>
----------------------------------	---

スポーツ・健康系科目の履修要項

	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ・健康系科目の開講時期及び単位数は以下の通りです。 健康・運動科学実習Ⅰ 1年次前期 1単位 健康・運動科学実習Ⅱ 1年次後期 1単位 スポーツ科学実習 2年次前期 1単位（集中コースでも履修可能） 2. 開講されている科目は全て卒業単位（教養教育科目）に認められます。 3. 教員免許の取得を希望する学生は健康・運動科学実習Ⅰおよび健康・運動科学実習Ⅱを必ず履修してください。 4. スポーツ科学実習の集中コースは、希望者が多数の場合に、施設・用具の関係で人数制限を行っています。
--	--

地域志向科目の履修要綱

	<p>本学は仙台市を中心とした宮城県内の地域と連携した教育・研究・社会貢献に関わり、特に地域志向を目指す教育を重要視しています。</p> <p>地域志向教育では以下の3つの人材育成を目的としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題を発見し、その解決策を探求でき、地域産業が求める知識や技術を有する人材 2. 地域企業の役割を理解し、地域産業を発展的に世界に発信していくことができる人材 3. 新しいライフデザインの提案を創造実践できる人材 <p>本学では地域貢献できる学生の資質向上を図り、地域志向科目を開講しています。地域志向科目はシラバスの該当科目において示します。</p>
--	---

「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について（教養科目）

科目設定の趣旨

大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではありません。芸術活動、クラブ活動、セミナー参加、インターンシップ参加などにより、文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ、人間形成を行う事が重要です。

これを奨励するため、本学では入学後に取得した資格や学内外での様々な活動を、教養教育科目「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）、「特別課外活動Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）として認定しています。

詳細については、窓口を確認してください。

単位認定の対象活動

本学在籍期間中に行った自主的・能動的活動のうち、本学の教育目標にふさわしいと認められる特別な課外活動を対象に、審査の上、単位認定します。

その対象区分は当面、以下のⅠ～Ⅷとしますが、これらの項目に該当しないものについて申請があった場合も、教務委員会で審査して妥当性を判断し、場合によっては対象項目の拡張を検討します。

(Ⅰ) 資格取得または検定等の主な認定例 1～2単位

資格取得または検定	単位	資格取得または検定	単位
第一種電気工事士	2	第二種電気工事士	1
工事担任者 AI・DD総合種	2	映像音響処理技術資格	1
基本情報技術者	2	ITパスポート	1
第一級陸上特殊無線技士	2	情報検定情報システム	1
宅地建物取引士	2	エックス線作業主任者試験	1
危険物取扱者甲種	2	危険物取扱者乙種	1
TOEIC 600点以上	2	TOEIC 400点以上	1

詳細は窓口にお問い合わせのこと。

(Ⅱ) 体育、文化及び芸術活動における顕著な業績をもつ活動 1～2単位

(Ⅲ) ボランティア活動（活動証明の得られるもの）

- ① 実活動時間が合計40時間以上の活動 1単位
- ② 実活動時間が合計80時間以上の活動 2単位

※必ずしも単位取得に結びつかない場合があります。参加を希望する学生は事前に窓口にて手続きを行ってください。

(Ⅳ) インターンシップ等制度による活動

- ① 5日以上かつ昼休み、休憩等を除く30時間以上の活動で参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験を行うもの 1単位
- ② 10日以上かつ昼休み、休憩等を除く60時間以上の活動で参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験を行うもの 2単位

※1事業所あたり、3日以上活動で参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験を行うものであれば、複数事業所との組み合わせも可能である。

※インターンシップ等のカリキュラムの内容によっては、単位取得条件を満たさない場合があるので、単位取得を希望する学生は参加する前にキャリアサポート課・長町校舎事務室に相談すること。

(Ⅴ) 国際活動 2単位

- ① 国際交流委員会が認めた国際交流活動、国際交流に関する研修・セミナーへの参加
- ② 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う海外研修

(Ⅵ) 教務委員会指定の課外活動 1～2単位

- ① 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う学外または学内研修、特別講座への参加

単位認定および
評価の方法

- ② 教務委員会が認めた学外または学内活動への参加
- (Ⅶ) 高大連携講座 2単位
本学と高等学校との協定により実施された「高大連携講座」を本学入学前に修了
(ただし、協定により他科目での単位認定が取り決められている講座を除く)
- (Ⅷ) 学科指定の課外活動 1～2単位
- ◆建築学科
- (1) 学外研修への参加
- ・学科企画の海外研修または国内研修等 2単位
 - ・オープンデスク（夏季休業中などに民間の設計事務所のデスクを学生に開放する制度） 2単位
 - ・建築施工管理実習 2単位
(いずれも実施計画書と実施報告書の提出が条件)
- (2) 学科が実施する対外活動への参加
- ・学科で承認したもの 1～2単位
- ※研修・活動への参加の前に、建築学科教務委員に単位認定の対象となるかを確認すること。
- (1) 単位認定は学生による自己申請に基づくことを原則とします。
- (2) 申請は毎学期末（7月末，1月末）とします。
- (3) 単位認定希望者は、次の書類を添付してポータルサイトからオンライン申請してください。（申請方法等の詳細については、別途ポータルサイト等でお知らせします。）
- 対象区分(I)の場合…資格取得，検定合格等を証明する書類
(但し，本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること)
- 対象区分(Ⅱ)，(Ⅲ)の場合
- ① 活動を証明するもの（但し，本人の名前が明示されているものの原本を提示すること）
 - ② 課外活動における本人の位置付け，活動の内容，成果・業績等を記載したレポート（A4判，1000字程度）
 - ③ 団体活動の場合は，個人の活動を証明する第三者（クラブ顧問，団体活動の指導者・担当教員等）の証明書類
- 対象区分(Ⅳ)，(Ⅴ)，(Ⅵ)，(Ⅷ)の場合
- ① 活動を証明する書類（本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること。ただし，Ⅳの場合は写しでも可）
 - ② 活動の動機，活動の内容，活動の成果，活動で得たこと等を記載したレポート（A4判，1,000字程度）
- 対象区分(Ⅷ)の場合…修了証
- (4) 単位認定の審査は教務委員会で行い，教務委員長が単位認定します。
なお，成績は“認定”扱いとし，GPAと平均点には算入しません。
- (5) 認定基準
- 認定は次の3つの観点から行います。
- ・活動における自主性，能動性の度合い
 - ・活動内容の充実度
 - ・活動の成果の大きさ

窓口：学生サポートオフィス

- ・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）
- ・長町キャンパス事務室（4号館1階）

他大学等教養科目群（教養科目）・他大学開講科目群（専門科目）

学都仙台単位互換ネットワーク	<p>本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しています。本学学生は「特別聴講学生」として、ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができ、各大学に通学して受講します。修得した単位は、所定の単位数まで、本学で履修した単位として認定できます。</p> <p>「学都仙台単位互換ネットワーク」は、仙台圏の国・公・私立の大学・短期大学・高等専門学校及び山形県の東北芸術工科大学の各大学間で、意欲ある学生に対し多様な学修機会を提供する事を目的として発足した制度です。各大学より文化、芸術、政治、経済、自然科学等、多くの学問分野にわたる科目が提供されています。</p> <p>検定料、入学料、授業料（但し、放送大学宮城学習センターを除く）を別途徴収されることはありません。</p> <p>学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学の提供科目を受講する場合は、本学で選考の上、受入大学に依頼を行い、受入大学から受入通知が来た時点で履修登録を行うこととなりますので、申し込みは通常の履修登録より早い時期に行われます。</p> <p>受講を希望する学生は、まず所属学科の教務委員やクラス担任と相談の上、本学の授業に差し支えないことを確認し、下記の要領に基づいて窓口で申請手続きを行ってください。</p>
参加大学	<p>1. 学都仙台単位互換ネットワーク参加大学 石巻専修大学、尚綱学院大学、仙台白百合女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北生活文化大学、東北大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学、宮城大学、聖和学園短期大学、東北生活文化大学短期大学部、仙台高等専門学校、放送大学、仙台青葉学院短期大学、宮城誠真短期大学（なお、年度により、募集を行わない大学もあるので事前に確認してください）</p>
科目と対象	<p>2. 他大学の募集要項、提供科目 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトで確認してください。</p> <p>3. 対象者 本学に在学する1年生（後期のみ）、2、3年生、4年生（前期のみ）</p> <p>4. 対象科目 原則として、自分の学年より上級学年対象の科目の受講は認められません。</p> <p>5. 進級、卒業単位に算入できる単位数 「他大学等教養科目群」または「他大学開講科目群」として進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なりますので、各学科の教育課程表を参照してください。</p>
出願期限	<p>6. 出願期限 出願期間は前期科目及び通年科目と後期科目で異なるほか、開講する大学によって異なります。 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイト記載の出願期限とは別に学内期限があります。事前に窓口で確認してください。</p> <p>7. 諸注意 出願において、本学または受け入れ大学で履修を許可しない場合もあるので、事前にクラス担任、学科の教務委員と相談してください。 万一、途中で履修を取りやめるようなことがあると、受入大学に多大な迷惑をかけることとなりますので、無理のない履修計画を立ててください。 ほぼ全ての大学で、自家用車での通学を認めていませんので、通学にあたっては</p>

他学部教養科目
の履修

公共の交通機関を利用してください。

本学の他学部において教養科目として開講している科目を履修することができます。修得した単位は、「他大学等教養科目群」として認定されます。ただし、進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なりますので、各学科の教育課程表を参照してください。特別の届出用紙での履修登録が必要です。

(8ページを参照)。

※同一セメスターに開講される同一名称の科目の取り扱いは、この限りではありません。

窓口：学生サポートオフィス

・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）

・長町キャンパス事務室（4号館1階）

建 築 学 部

建 築 学 科

専 門 教 育 科 目

履 修 ガ イ ダ ン ス

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 段目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	分野	難易度+通し番号		
A	A	A	103		
AA-A-103					

※建築学部建築学科「建築入門」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
A	建築学部

2 列目 (学科・科目区分)	
A	建築学科・専門教育科目

3 段目 (分野)		
A	建築	建築学総合
B		計画・設計
C		建築表現
D		歴史・意匠
E		材料・生産
F		構造
G		環境・設備
H		研修
X		その他

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル (大学 1 年次レベル)
200 番台	中級レベル (大学 2 年次レベル)
300 番台	上級レベル (大学 3 年次レベル)
400 番台	専門レベル (大学 4 年次レベル)
000 番台	その他 (レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
AA-A-101	建築学の数学	2							
AA-A-102	建築学の物理	2							
AA-A-103	建築入門	2							
AA-C-106	建築表現	2							
AA-B-105	建築設計 I	4							
AA-E-107	建築材料 I	2							
AA-A-104	建築概論	2							
AA-G-116	建築環境工学概論		2						
AA-C-111	建築 C A D		4						
AA-B-109	建築計画 I		2						
AA-D-112	ヨーロッパ建築史		2						
AA-B-110	建築造形		2						
AA-B-108	建築設計 II		4						
AA-E-113	建築材料 II		2						
AA-F-114	骨組の力学 I		2						
AA-F-115	骨組の力学 I 演習		2						
AA-B-202	ランドスケープデザイン			2					
AA-B-201	建築設計 III			4					
AA-B-204	建築計画 II			2					
AA-D-205	日本建築史			2					
AA-E-206	建築材料実験 I			2					
AA-G-209	熱・空気環境			2					
AA-F-207	骨組の力学 II			2					
AA-F-208	骨組の力学 II 演習			2					
AA-B-203	インテリアデザイン			2					
AA-B-211	建築設計 IV				4				
AA-B-212	建築計画 III				2				
AA-E-214	建築材料実験 II				2				
AA-G-217	音・光環境				2				
AA-A-210	建築法規及び同演習				4				
AA-F-215	木質構造				2				
AA-C-213	建築専門 C A D と B I M				2				
AA-F-216	骨組の力学 III				2				
AA-E-307	住宅生産					2			
AA-F-310	鉄筋コンクリート構造					2			
AA-F-311	鉄筋コンクリート構造演習					2			
AA-F-308	鉄骨構造					2			
AA-F-309	鉄骨構造演習					2			
AA-G-312	建築設備システム及び同演習					4			
AA-A-301	建築プロフェッショナル論					2			
AA-B-303	都市計画					2			
AA-B-302	建築設計 V					4			
AA-B-304	建築計画 IV					2			
AA-D-306	近代建築史					2			
AA-C-305	建築専門表現					2			
AA-A-313	建築経済						2		
AA-H-320	建築学研修 I						4		
AA-B-315	地域空間計画						2		
AA-E-316	建築生産						2		
AA-F-317	建築基礎構造						2		
AA-G-319	都市環境						2		
AA-B-314	建築設計 VI						6		
AA-F-318	耐震設計法						2		
AA-H-407	建築学研修 II							4	
AA-A-401	建築総論							2	
AA-A-402	災害と建築							2	
AA-B-403	建築設計 VII							6	
AA-F-406	建築構造の設計							4	
AA-E-405	建築性能論							2	
AA-D-404	建築意匠							2	
AA-H-408	建築学研修 III								8
AA-X-001	建築インターンシップ I								
AA-X-002	建築インターンシップ II								
AA-X-003	建築インターンシップ III								
AA-X-004	建築インターンシップ IV								
AA-X-005	建築学特別課外活動 I								
AA-X-006	建築学特別課外活動 II								
AA-X-007	建築学特別課外活動 III								
AA-X-008	他学科開講科目群								
AA-X-009	他大学開講科目群								

建築学科 専門教育科目の履修の流れ (建築システムコース)

建築学科 学習・教育目標	
実践的な技術に支えられた自信と柔軟な発想力で、東北、日本、そして国際社会に貢献できる建築家および建築技術者を養成することを目指し、一連の専門科目を通して以下に示す「7つの学士力」を身につけられるように教育することを目標とする。	
①建築学基礎	②建築設計
③建築計画・意匠・歴史	④建築構造
⑤建築材料・生産	⑥建築環境・設備
⑦建築学総合	

建築システムコース 学習・教育目標
理数的解析力、問題発見力、調査力を伸ばし、実践的な視点で安全で快適な建物を企画・提案できる技術者を養成する。

必修科目 選択科目

科目群の学習・教育目標	
-------------	--

建築学基礎 及び 建築学総合	数学や物理、建築に関する基礎知識を学び、法規や経済などの面から建築学各分野の統合能力を身に付ける。
----------------------	---

建築計画 ・ 建築設計	社会や地域の状況を理解しながら、建物の機能的要求や利用者の生活上の要求を充足するための計画理論と、設計するための手がかりとなり得る計画的知見を修得する。さらに、それらを踏まえながら、創造的に建築空間を設計・提案することができるデザイン力とプレゼンテーション力を身に付ける。
-------------------	--

建築表現	建築分野におけるコンピュータ利用法と建築CADによる表現技術の基礎を習得する。
------	---

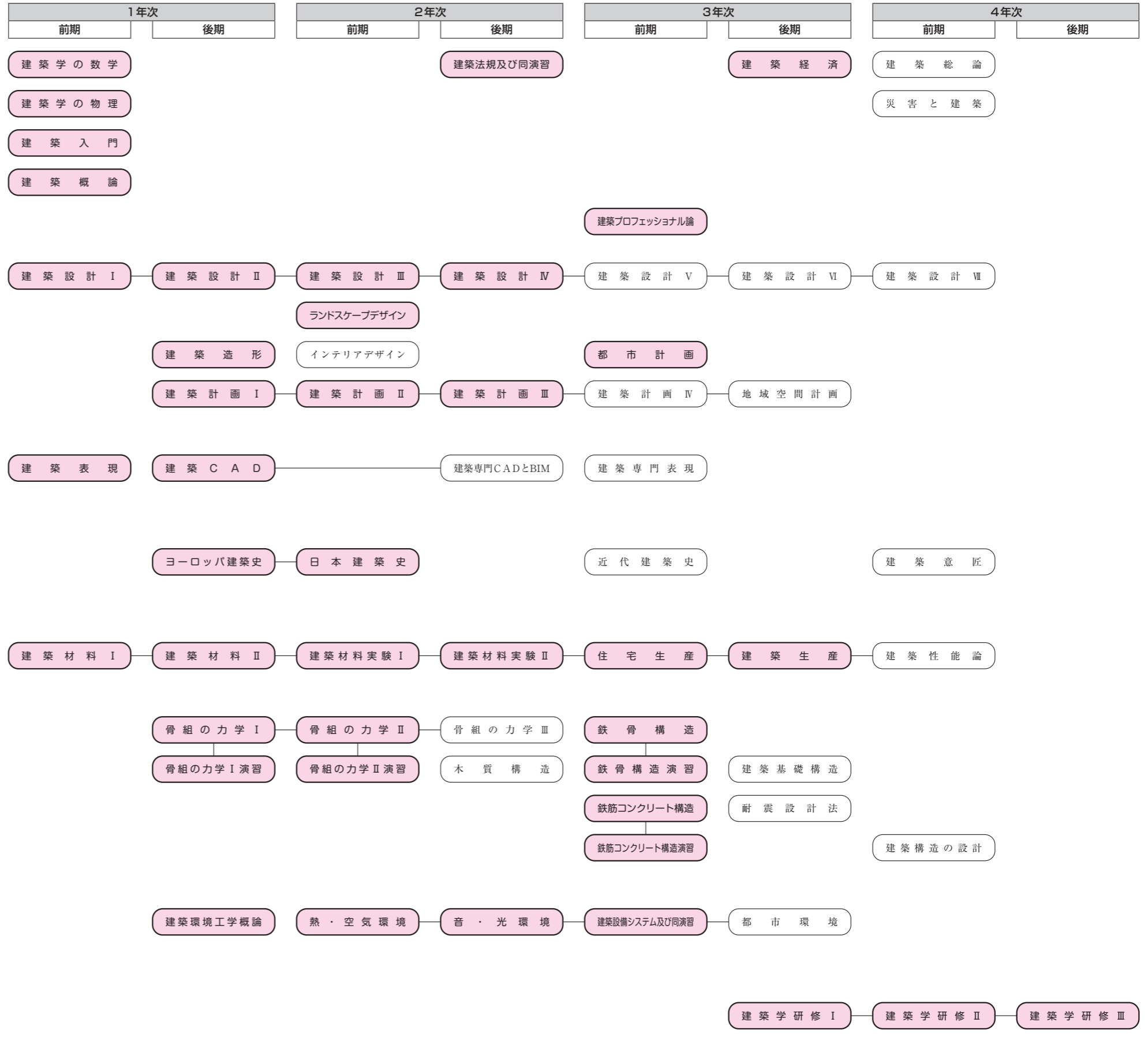
歴史・意匠	建築の歴史について、ヨーロッパと日本、明治以降の近代に分けて、主に様式史について学び、木の文化と石の文化についても考える。
-------	---

建築材料 ・ 生産	建築物を構成する構造材料や仕上材料についての基礎的知識を修得後、それらを用いて実際に建築物を造り上げるために必要となる生産技術や生産管理技術について学ぶ。
-----------------	---

建築構造	建物の安全性確保や機能維持を実現するのに必要な力学の基礎知識を修得する。また、各種構造や構法の最新技術について学び、近年多様化しつつある建築構造設計の原理を理解することができる。
------	---

建築環境 ・ 設備	建築における快適性と機能性の確保や、省エネルギーを実現するのに必要な基礎的知識を修得する。また、火災時の煙流動や延焼に対する備え、建築外部空間や都市環境に関する基礎的知識を修得するとともに、地球環境時代に建築が果たすべき役割を総合的に理解することができる。
-----------------	--

研修	卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身に付ける。
----	--



建築学科 専門教育科目の履修の流れ (建築デザインコース)

建築学科 学習・教育目標	
実践的な技術に支えられた自信と柔軟な発想力で、東北、日本、そして国際社会に貢献できる建築家および建築技術者を養成することを目指し、一連の専門科目を通して以下に示す「7つの学士力」を身につけられるように教育することを目標とする。	
①建築学基礎	②建築設計
③建築計画・意匠・歴史	④建築構造
⑤建築材料・生産	⑥建築環境・設備
⑦建築学総合	

建築デザインコース 学習・教育目標
設計力、創造力、表現力を伸ばし、総合的な視点に立って建築空間を設計・提案することができる技術者を養成する。

必修科目 選択科目

科目群の学習・教育目標	
-------------	--

建築学基礎 及び 建築学総合	数学や物理、建築に関する基礎知識を学び、法規や経済などの面から建築学各分野の統合能力を身に付ける。
----------------------	---

建築計画 ・ 建築設計	社会や地域の状況を理解しながら、建物の機能的な要求や利用者の生活上の要求を充足するための計画理論と、設計するための手がかりとなり得る計画的知見を修得する。さらに、それらを踏まえながら、創造的に建築空間を設計・提案することができるデザイン力とプレゼンテーション力を身に付ける。
-------------------	---

建築表現	建築分野におけるコンピュータ利用法と建築CADによる表現技術の基礎を習得する。
------	---

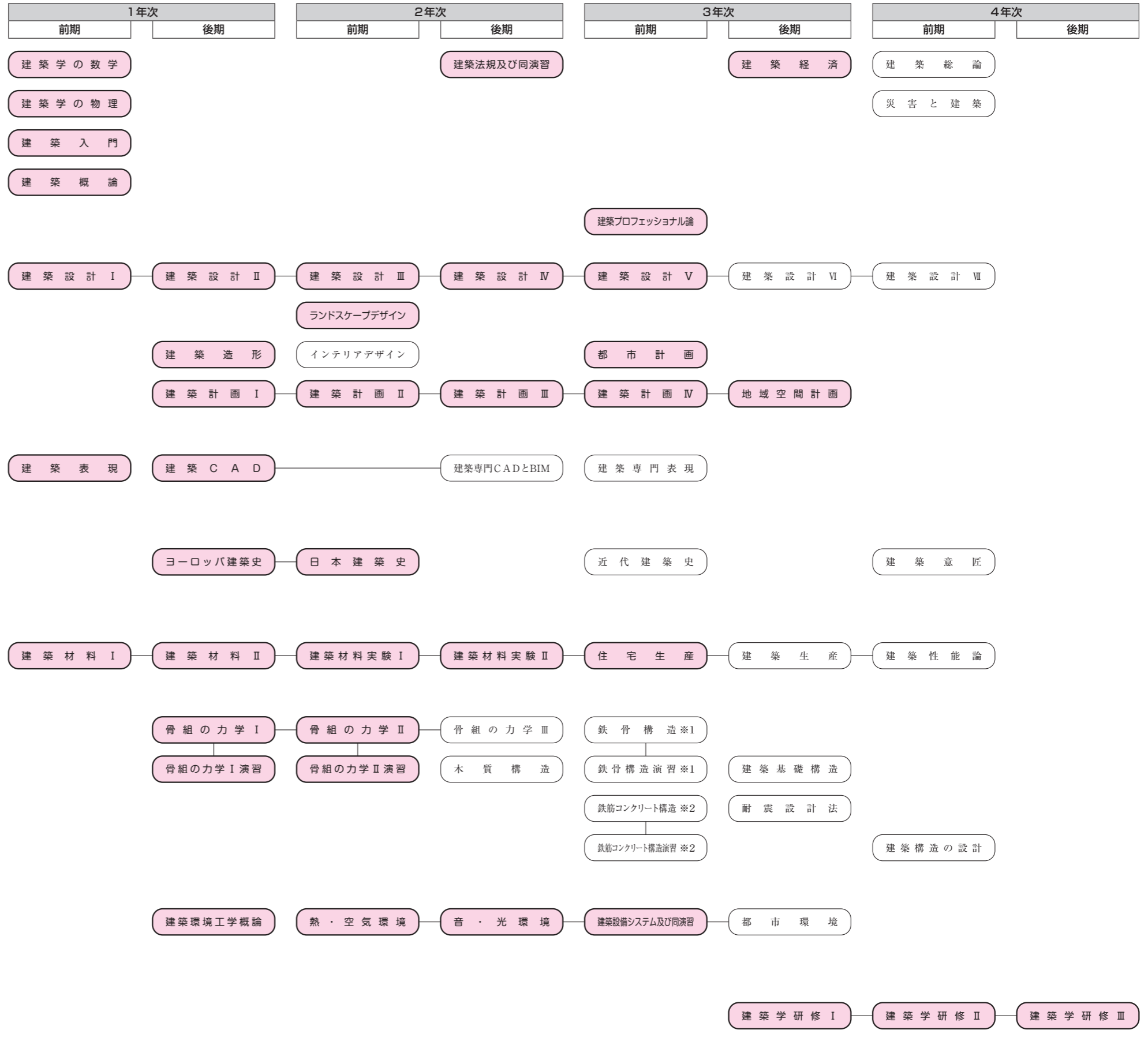
歴史・意匠	建築の歴史について、ヨーロッパと日本、明治以降の近代に分けて、主に様式史について学び、木の文化と石の文化についても考える。
-------	---

建築材料 ・ 生産	建築物を構成する構造材料や仕上材料についての基礎知識を修得後、それらを用いて実際に建築物を造り上げるために必要となる生産技術や生産管理技術について学ぶ。
-----------------	--

建築構造	建物の安全性確保や機能維持を実現するのに必要な力学の基礎知識を修得する。また、各種構造や構法の最新技術について学び、近年多様化しつつある建築構造設計の原理を理解することができる。
------	---

建築環境 ・ 設備	建築における快適性と機能性の確保や、省エネルギーを実現するのに必要な基礎知識を修得する。また、火災時の煙流動や延焼に対する備え、建築外部空間や都市環境に関する基礎知識を修得するとともに、地球環境時代に建築が果たすべき役割を総合的に理解することができる。
-----------------	--

研修	卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身に付ける。
----	--



《履修ガイダンス・教育課程表》

建築学科

1. カリキュラムの特徴

1～2年次	3年次	4年次
自らの「気づき」を生み出す2年間	将来の道しるべとなるコース選択	卒業研修を通して確かな人間力を形成
建築学に必要な基礎的な知識と技術を身につけます。建築学の知識がなくても、建築の面白さや世界の広さを実感できるカリキュラムを用意。建築学が包含する広く深い世界をさまざまな科目を通して学び、自分の興味や可能性を再発見できるように編成されています。講義に加え、演習、実験、設計など実践的なトレーニングを取り入れているため、理論的な思考力と表現力を総合的に身につけることができます。2年次までの必修科目で建築士試験受験資格取得に必要な条件が概ねクリアできるのも魅力です。	3年次は自らの興味や進路を決定する大事な時期。自分自身で履修モデルを設定して学習できるよう、選択性・柔軟性のあるカリキュラムを設けています。興味や特性に応じた2つの履修コースを設け、設計力、創造力、表現力を伸ばしたい人は、計画・設計・歴史系の科目を、理数的解析力、理論的思考力をより高めたい人は、構造・材料・環境系の科目をより重点的に履修できます。後期には研究室に配属され、卒業論文・卒業設計の基礎学習を行います。これまで学習した知識の定着を図りながら、卒業研修に必要な基礎力を身につけます。	3年次に選択した専門的なテーマをじっくり学びます。10名程度の少人数による研修活動は、それまで培ってきた知識と技術の集大成。大学4年間の醍醐味であり、充実した時期が過ぎせません。海外留学やフィールドワークなど、様々な活動参加のチャンスが増える時期でもあります。4年次は特に、自ら積極的に課題に取り組む姿勢が大切。卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につけます。

2. キャリアガイダンス

建築の関わる分野は多様であり、建築学科では「専門学士力」として②～⑥に示した5分野を設定し、必要な基礎力を学びます。1年次には「建築入門」「建築概論」で建築学の全体像、各分野の概要、多様な進路について学びます。3年次前期「建築プロフェッショナル論」では、建築各界の第一線で活躍する本学科卒業の建築技術者を迎えて講義を行います。また、3年次前期からのコース選択、3年次後期からの研究室配属を通して、特に興味・適性のある分野を考慮しながら、進路を決定していきます。

3. 卒業研修について

3年次後期から研究室に配属され、指導教員の下で卒業研修に取り組むことになります。10人程度の少人数による研修活動は、それまで培ってきた知識と技術の集大成です。研修を通して海外留学やフィールドワークなど、さまざまな活動に参加できるチャンスが増えるため、充実した時間を過ごすことができます。研修は自ら積極的に課題に取り組む姿勢が大切です。卒業研修の活動を通して企画力・提案力・分析力・表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につけます。

最終的に、4年次の1月～2月までに研修の成果を卒業論文または卒業設計としてまとめ、その内容を発表することになります。成績については、研修活動への取り組み姿勢、成果物や最終発表会での内容等を総合的に評価します。

4. 履修のためのガイド

1) 基本的留意事項

本来、学部で建築学を学ぶにあたっては、定められた最低単位数を得ることに専心したり、進級や卒業のみを目標にしたりするようなことがあってはいけません。建築の分野に自分の将来をかけ、夢を実現するためには、在学中に感性を磨き、建築に関する知識や素養をしっかりと身につけることは必須の条件です。また、プロフェッショナルとして大成するためには、さらに不断の努力と精進が必要です。そのような意味では、将来、建築の専門家を志すのであれば、その骨格を形成するために、学部で開講されている科目は全て修得するのが本来の姿です。その道筋を現実的な形で示したものが教育課程表（P.94・P.96参照）です。表は開講科目を必修科目と選択科目に分けて開講時期ごとに構成したものであり、履修計画を立てるにあたって、履修の流れ図や進級・卒業に要する条件とともに、教育課程表の内容をよく理解しておく必要があります。

2) コース選択について

本学科では、3年次前期からコース分けを行います。コースは建築システムコースと建築デザインコースがあり、各々の特性に合ったコースを選択してください。

開講科目については各コース共通であるが、コースによって必修・選択の設定が異なる科目もあるので、本書の教育課程表でよく確認してください。

各コースの学習・教育目標は下記の通り。

- ・建築システムコースの学習・教育目標

理数的解析力，問題発見力，調査力を伸ばし，実践的な視点で安全で快適な建物を企画・提案できる技術者を養成する。

- ・建築デザインコースの学習・教育目標

設計力，創造力，表現力を伸ばし，総合的な視点に立って建築空間を設計・提案することができる技術者を養成する。

Sコース 学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

Sコース	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	6/13	29	-	41/48	41/48
2年次 下段：3年次進級条件	1	8/15	23	5/7	37/46	78/94
60単位以上		必修4単位以上 必修36単位以上				
3年次 下段：4年次進級条件	1	6/33	21	12/18	40/73	118/167
96単位以上		18単位以上 必修54単位以上 (建築学研修Iを含む)				
4年次 下段：卒業条件	-	2/2	6	6/13	14/21	132/188
24単位 (必修8単位含む)		100単位 (必修79単位含む)				
卒業までの総合計	8	22/63	79	23/38	132/188	
	30/71		102/117			

Dコース 学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数/開講単位数」を示します）

Dコース	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	6	6/13	29	-	41/48	41/48
2年次 下段：3年次進級条件	1	8/15	23	5/7	37/46	78/94
60単位以上						
必修4単位以上		必修36単位以上				
3年次 下段：4年次進級条件	1	6/33	19	15/20	41/73	119/167
96単位以上						
18単位以上		必修54単位以上 (建築学研修Ⅰを含む)				
4年次 下段：卒業条件	-	2/2	6	5/13	13/21	132/188
24単位 (必修8単位含む)		100単位 (必修77単位含む)				
卒業までの総合計	8	22/63	77	25/40	132/188	
	30/71		102/117			

5. 環境教育について

建築の分野は、地球上の資源およびエネルギーを大量に消費することで成り立っている産業です。建設時だけでなく、竣工後も常にエネルギーを使用して快適な住空間を維持する必要があるなど、建築分野において環境教育は切り離すことはできません。具体的には、建築における快適性と機能性の確保や、省エネルギーを実現するのに必要な基礎的知識、また、建築外部空間や都市環境に関する基礎的知識を習得するとともに、地球環境時代に建築が果たすべき役割を総合的に理解するため、以下のような講義が設定されています。

建築環境工学概論（1年後期）

熱・空気環境（2年前期）

音・光環境（2年後期）

建築設備システム及び同演習（3年前期）

都市環境（3年後期）

6. 教職課程について

建築学科では、高等学校の「工業」の教育職員免許状を取得するための科目を履修することができます。

7. 地域志向科目

地域の活性化・地域安全を目指し、地域社会で即戦力として活躍できる人材になるための能力を身に付けるために、地域志向科目を開講します。この科目では、仙台・宮城地域を中心とする課題を取り上げ、事例などを通して学んだことを実践することが可能になっています。

教育課程表における進級・卒業条件

建築学科

◎3年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	必修4単位以上	
専門教育科目	必修36単位以上	
計	全体として60単位以上	

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	18単位以上	
専門教育科目	必修54単位以上 建築学研修Ⅰを含むこと	
計	全体として96単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	24単位 必修8単位を含むこと	
専門教育科目	100単位 建築システムコース：必修79単位を含むこと 建築デザインコース：必修77単位を含むこと	建築デザインコース ：選択科目のうち「鉄筋コンクリート構造」および「鉄筋コンクリート構造演習」あるいは「鉄骨構造」および「鉄骨構造演習」の組み合わせどちらか一方を必ず修得すること
計	124単位	

教育課程表と学士力対応表

建築学科 教養教育科目

本学の「共通学士力」(本学の全学生が身に付けるべき学士力)	
共通学士力	学修成果(到達目標)
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

・単位数と学修時間(授業時間数及び自習時間数)

学修時間については学則第10条に以下の記載があります。(詳細はP.4“単位制と授業時間について”参照)

<p>第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。</p>

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題(予習・復習)」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習時間を取るよう努めてください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位(90時間)	1コマ/週(計30時間)	+	60時間/14週
演習・実習	1単位(45時間)	1コマ/週(計30時間)	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習(予習・復習)時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

教育課程表と学士力対応表

建築学科 専門教育科目

建築学科の学位授与方針

建築学部 建築学科は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（建築学）」の学位を授与する。

本学の「共通学士力」（本学の全学生が身に付けるべき学士力）

共通学士力	学修成果（到達目標）
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

建築学科の「専門学士力」（建築学科の学生が身に付けるべき学士力）

専門学士力	学修成果（到達目標）
①建築学基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・建築学に必要な数学および物理の基礎力を身に付け、建築構造、環境・設備や建築材料等において必要な計算をすることができる。 ・建築専門を学ぶ上で必要となる基礎的な知識・技術・表現力を身に付け、建築設計、建築計画・歴史・意匠、建築構造、建築材料・生産、建築環境・設備の各専門分野に興味を持つことができる。
②建築設計	<ul style="list-style-type: none"> ・図面の読み方、描き方について理解し、必要な知識・技術を身に付け、建築製図をすることができる。 ・各種の設計条件に基づき建築を設計するために必要な知識・技術を身に付け、建築設計をすることができる。 ・各種の設計条件に基づき建築の企画・計画・設計と、その表現に必要な知識・技術を身に付け、建築設計とその表現をすることができる。
③建築計画・意匠・歴史	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅の計画全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な住宅計画ができる。 ・各種施設の計画全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な施設計画ができる。 ・地域の計画全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な地域計画ができる。 ・建築の意匠全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な意匠計画ができる。 ・建築の歴史全般について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な保存再生ができる。
④建築構造	<ul style="list-style-type: none"> ・建築の構造について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切に設計や計画をすることができる。 ・構造力学を理解し、必要な知識・技術を身に付け、構造解析ができる。 ・構造設計を理解し、必要な知識・技術を身に付け、構造計画ができる。
⑤建築材料・生産	<ul style="list-style-type: none"> ・建築構造材料・仕上材料について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な材料の設計選択ができる。 ・住宅・建築の構法・施工について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な生産管理ができる。 ・建築性能とその実験方法について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な性能評価ができる。
⑥建築環境・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境および都市環境への建築の寄与について理解し、必要な知識・視座を身に付け、適切な環境配慮ができる。 ・建築環境工学について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な環境計画ができる。 ・建築設備学について理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な設備計画ができる。
⑦建築学総合	<ul style="list-style-type: none"> ・法規や経済などの面から建築を理解し、必要な知識・技術を身に付け、適切な設計と計画（意匠・構造・設備）ができる。 ・建築学の基礎および専門の知識を統合し、応用・展開する力を身に付け、建築に対する総合的な理解を通して創造的に設計（製作）もしくは研究が遂行できる。 ・建築技術者・設計者に必要な総合的な力を身に付け、培った力を社会で活かすことができる。

建築学部

卒業後等の取得資格

○卒業後等の取得資格

※受験資格や試験免除条件が変更となる場合がありますので、最新の情報を各種資格のホームページで確認して下さい。

建築学部 建築学科

【大学卒業で受験資格が得られる】

○一級建築士

平成21（2009）年度以降の入学生については、建築学科の課程および国土交通大臣が指定する建築に関する科目を修めたものは、令和2年度より実務経験なしで受験資格を取得できる。なお、試験に合格した上で、建築に関する実務経験2年以上、または、試験合格前後に建築に関する実務経験2年以上で、免許登録ができる。

○甲種消防設備士

建築学科での課程を修め卒業した者は甲種の受験資格が得られる。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

○1・2級建築施工管理技士

建築学科での課程を修めた卒業生で、建築施工管理に関して3年以上の実務に従事した者は、1級建築施工管理技士の受験資格を取得できる。同様に1年以上の実務に従事した者は、2級建築施工管理技士の受験資格を取得できる。

○1・2級土木施工管理技士

建築学科での課程を修めた卒業生で、土木施工管理に関して3年以上の実務に従事した者は、1級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。同様に1年以上の実務に従事した者は、2級土木施工管理技士の受験資格を取得できる。

○建築物環境衛生管理技術者

工学系学科を卒業後1年以上の特定建築物の環境衛生維持管理に関する実務に従事した者は厚生労働大臣の指定する講習を受けることにより資格を取得できる。また、2年以上の実務経験を有し国家試験に合格することによって資格を取得できる。一級建築士の資格を有する者は経験年数不要。

【大学卒業者の資格試験一部免除】

○土地家屋調査士

測量士補、建築士の資格を有する者は、第2次試験（測量の試験）が免除される。

【在学中でも得られる資格試験及び一部免除】

○二級建築士、木造建築士

平成21（2009）年度以降の入学生で建築学科の課程および国土交通大臣が指定する建築に関する科目を修めたものは、実務経験なしで受験資格を取得できる。

○建築積算士補

※申請手続き中ですので決定次第、ポータルサイトにて周知いたします。

令和2年度以降入学生は、指定の専門科目「建築経済」の単位を修得して、協会が実施する資格試験に合格し、登録を行うことにより建築積算士補の資格を取得できる。本資格保有者は、建築積算士の一次試験が免除される。

○商業施設士補

本学科は（公益社団法人）商業施設技術団体連合会から本資格の認定校に指定されている。本学科の3年次前期までの指定の専門科目を修得した上で、指定された講習を受講修了することで、本資格を取得できる。なお、建築学科の指定科目については学科教務委員に確認のこと。

◦ 商業施設士

本資格は、3年次に商業施設士補を資格取得した場合、最短で4年次に受験資格が得られる。商業施設士補の資格保有者は、商業施設士試験の学科試験が免除され、一・二級建築士、木造建築士の者は学科試験『施設と設計』の科目が免除される。

商業施設士補の資格を取得していない場合は、課程を修め実務に1年以上従事した者は受験資格を取得できる。

ライフデザイン学部

教養教育科目 履修ガイダンス

カリキュラムの特徴

専門的な知識や技術のみに偏ることのない広い視野，市民としての常識，豊かな人間性を身につけるために「社会性」「人間性」「文化性」「科学力」「人間力」「表現力」「健康」「学際」という多彩な科目群を設け，幅広く学修することによって，専門課程で修得した知識や技術を地域社会や国内外において正しく活かすことができるような人材の育成を目指す。

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 段目		2 段目		3 段目	
学部区分	学科区分	分野	学習進度+通し番号		
F	GE	LE	111	FGE-LE-111	

※「スタディスキルⅠ」（1年次開講）の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 段目 (学部区分)	
F	工学部/建築学部/ライフデザイン学部
E A	工学部/建築学部
L	ライフデザイン学部
(学科・科目区分)	
GE	教養教育科目
Z	教職科目

2 段目 (分野)		
CCS	教養教育	地域・文化・社会
LE		言葉と表現
MPH		心と体の健康
IDP		学際
Z	教職	教職

3 段目 (学習進度+通し番号)	
100番台	学習進度1クラスレベル
200番台	学習進度2クラスレベル
300番台	学習進度3クラスレベル
400番台	学習進度4クラスレベル
500番台	学習進度5クラスレベル
600番台	学習進度6クラスレベル
700番台	学習進度7クラスレベル
800番台	学習進度8クラスレベル
000番台	その他(レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FGE-CCS-101	キャリアデザインⅠ	2							
FGE-CCS-121	人工知能総論	2							
LGE-CCS-141	コミュニティネットワーク論	2							
LGE-CCS-142	ネットワーク・コンピュータ基礎	2							
FGE-LE-111	スタディスキル	2							
FGE-LE-131	英語ⅠA	2							
FGE-LE-141	英会話Ⅰ	2							
FGE-MPH-111	健康・運動科学実習Ⅰ	2							
FGE-CCS-222	人工知能入門		2						
FGE-CCS-231	グリーンテクノロジー		2						
FGE-CCS-241	東北文化史		2						
FGE-CCS-242	メディア文化史		2						
LGE-CCS-243	数学的思考法		2						
FGE-LE-232	英語ⅠB		2						
FGE-LE-242	英会話Ⅱ		2						
FGE-MPH-212	健康・運動科学実習Ⅱ		2						
FGE-CCS-302	キャリアデザインⅡ			2					
FGE-CCS-332	サステナビリティ入門			2					
LGE-CCS-341	表象文化論			2					
LGE-CCS-342	現代社会論			2					
FGE-LE-333	英語ⅡA			2					
FGE-LE-343	英会話Ⅲ			2					
FGE-LE-351	資格英語Ⅰ			2					
FGE-MPH-321	スポーツ科学実習			2					
FGE-CCS-411	市民と法				2				
FGE-CCS-412	暮らしと心理学				2				
FGE-CCS-433	地球環境と諸問題				2				
FGE-LE-434	英語ⅡB				2				
FGE-LE-444	英会話Ⅳ				2				
FGE-LE-452	資格英語Ⅱ				2				
FGE-CCS-503	キャリアデザインⅢ					2			
FGE-CCS-512	産業社会と心理学					2			
FGE-CCS-513	産業社会と倫理					2			
FGE-CCS-523	人工知能基礎					2			
FGE-CCS-531	職業指導(工業)					2			
FGE-CCS-533	工業概論					2			
FGE-CCS-542	日本国憲法					2			
LGE-CCS-514	ビジネスマナー					2			
LGE-CCS-532	職業指導(商業)					2			
LGE-CCS-541	科学思想史					2			
FGE-LE-553	資格英語Ⅲ					2			
FGE-CCS-611	情報社会の経済						2		
FGE-CCS-624	人工知能応用						2		
FGE-CCS-661	フランスの文化と言葉							2	
FGE-CCS-662	韓国の文化と言葉							2	
FGE-CCS-663	中国の文化と言葉							2	
FGE-CCS-664	異文化理解							2	
FGE-CCS-711	現代の哲学								2
FGE-IDP-010	特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-020	特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-030	特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-040	特別課外活動Ⅳ	…	…	…	…	…	…	…	…
FGE-IDP-050	他大学等教養科目群	…	…	…	…	…	…	…	…

教養教育科目の履修の流れ (ライフデザイン学部)

総合教育センター 学習・教育目標

1. 自ら考えて行動できる市民として必要な教養（素養）を身につけること。
2. 工学・建築学およびライフデザイン学を学ぶための基礎的知識を身につけること。
3. 高等学校教育から大学教育に円滑に移行するための基礎学力を身につけること。
4. 高校教員免許状取得を目指す学生に必要な基礎的（専門）知識を身につけること。

必修科目

選択科目

科目群の学習・教育目標

地域・文化・社会

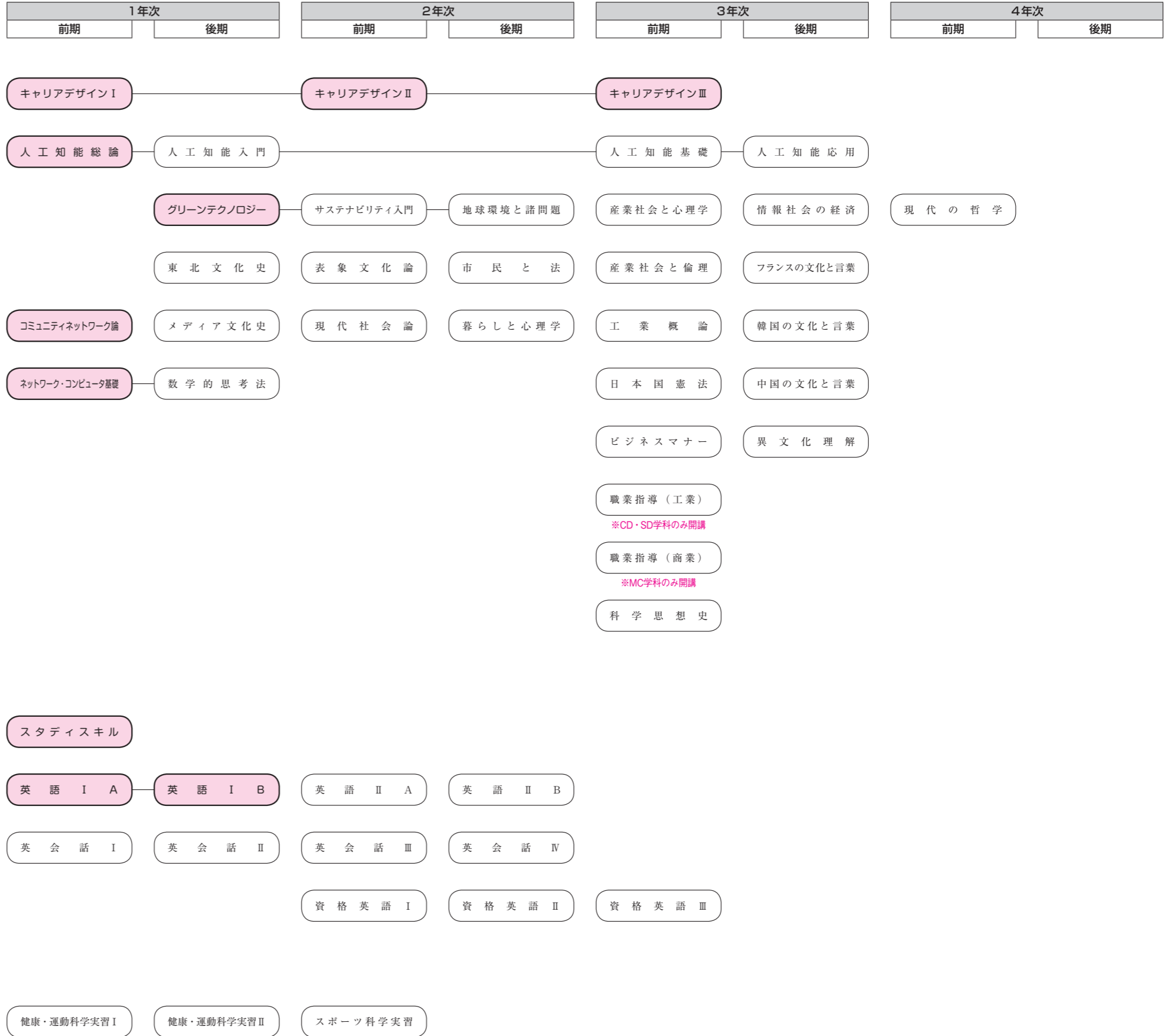
現代の社会、および現代の文化（生活）や地域の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。

言葉と表現

専門課程において要求される言語の読解力、また社会に出てから要求される言語による自己表現と相互理解の能力を身につける。

心と体の健康

身体運動と心身の健康についての正しい知識と実践能力を修得する。またコミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てる。



英語科目の履修要項

1. 履修科目

近年、日本の多くの高等教育機関で、教育の質の保証という観点から、客観的な成績評価の指標として、資格試験が利用されています。また、エントリーシートへの資格試験成績の記入や、入社後の受験を義務づけ、昇格の条件として用いる大手企業なども増加しています。こうした状況に鑑みて、本学では、文系・理系の両分野において有用な資格であるTOEIC (Test of English for International Communication) を念頭に置いた演習を、英語教育に取り入れています。資格試験対策としては継続的な学習が最も重要ですから、1年次から目的意識を持って履修計画を立ててください。

〈必修科目〉(1年次)

英語科目は、「読む、書く、聞く、話す」の四技能の養成を目的とし、以下の必修科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数	
		1年	
		前期	後期
英語ⅠA	1	2	
英語ⅠB	1		2

「英語ⅠA」及び「英語ⅠB」は、基礎的文法項目の学習を中心とする科目です。

〈選択科目〉(1・2・3年次)

各自のニーズと目的に合った英語学習を行うため、以下の選択科目が設定されています。

授業科目名	単位数	毎週の時間数					
		1年		2年		3年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期
英語ⅡA	1			2			
英語ⅡB	1				2		
英会話Ⅰ	1	2					
英会話Ⅱ	1		2				
英会話Ⅲ	1			2			
英会話Ⅳ	1				2		
資格英語Ⅰ	1			2			
資格英語Ⅱ	1				2		
資格英語Ⅲ	1					2	

「英語ⅡA」及び「英語ⅡB」は、英米文化を学習する科目です。

「英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、外国人講師による speaking, listening を中心とした実践的英会話、および TOEIC リスニングセクション対策の基礎となる演習を行います。

「資格英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、TOEIC 対策に特化した 400～500 点以上のレベルの演習を行います。受講者は、TOEIC IP テスト受験が義務付けられます。

<p>2. 英語科目の履修について</p>	<p>「英語ⅠA」「英語ⅠB」・「英語ⅡA[*]」「英語ⅡB[*]」（※都市マネジメント学科のみ必修）の単位未修得者（成績評価が「不可」の者）は、再履修クラスを受講してください。ただし、前期は「英語ⅠB」「英語ⅡB（都市マネジメント学科のみ開講）」を対象とした再履修クラス、後期は「英語ⅠA」「英語ⅡA（都市マネジメント学科のみ開講）」を対象とした再履修クラスのみが開講されます。再履修クラスを受講できない場合には、各学科の正規クラスで再履修してください。また、各科目の成績評価が「不適」の学生は、再履修クラスを受講できませんので、各学科の正規クラスを受講してください。</p>
-----------------------	---

スポーツ・健康系科目の履修要項

	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ・健康系科目の開講時期及び単位数は以下の通りです。 健康・運動科学実習Ⅰ 1年次前期 1単位 健康・運動科学実習Ⅱ 1年次後期 1単位 スポーツ科学実習 2年次前期 1単位（集中コースでも履修可能） 2. 開講されている科目は全て卒業単位（教養教育科目）に認められます。 3. 教員免許の取得を希望する学生は健康・運動科学実習Ⅰおよび健康・運動科学実習Ⅱを必ず履修してください。 4. スポーツ科学実習の集中コースは、希望者が多数の場合に、施設・用具の関係で人数制限を行っています。
--	--

地域志向科目の履修要綱

	<p>本学は仙台市を中心とした宮城県内の地域と連携した教育・研究・社会貢献に関わり、特に地域志向を目指す教育を重要視しています。</p> <p>地域志向教育では以下の3つの人材育成を目的としています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域の課題を発見し、その解決策を探求でき、地域産業が求める知識や技術を有する人材 2. 地域企業の役割を理解し、地域産業を発展的に世界に発信していくことができる人材 3. 新しいライフデザインの提案を創造実践できる人材 <p>本学では地域貢献できる学生の資質向上を図り、地域志向科目を開講しています。地域志向科目はシラバスの該当科目において示しています。</p>
--	---

「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」について

<p>科目設定の趣旨</p>	<p>大学における勉学は開講されている科目を履修する事だけではありません。芸術活動、クラブ活動、セミナー参加、インターンシップ参加などにより、文化・社会的活動を通して協調性やコミュニケーション能力を向上させ、人間形成を行う事が重要です。これを奨励するため、本学では入学後に取得した資格や学内外での様々な活動を、教養教育科目「特別課外活動Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）、「特別課外活動Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）として認定しています。</p> <p>詳細については、窓口を確認してください。</p>
----------------	---

単位認定の
対象活動

本学在籍期間中に行った自主的・能動的活動のうち、本学の教育目標にふさわしいと認められる特別な課外活動を対象に、審査の上、単位認定します。

その対象区分は当面、以下のⅠ～Ⅷとしますが、これらの項目に該当しないものについて申請があった場合も、教務委員会で審査して妥当性を判断し、場合によっては対象項目の拡張を検討します。

(Ⅰ) 資格取得または検定等の主な認定例 1～2単位

資格取得または検定	単位	資格取得または検定	単位
第一種電気工事士	2	第二種電気工事士	1
工事担任者 AI・DD総合種	2	映像音響処理技術資格	1
基本情報技術者	2	ITパスポート	1
第一級陸上特殊無線技士	2	情報検定情報システム	1
宅地建物取引士	2	エックス線作業主任者試験	1
危険物取扱者甲種	2	危険物取扱者乙種	1
TOEIC 600点以上	2	TOEIC 400点以上	1

詳細は窓口にお問い合わせのこと。

(Ⅱ) 体育、文化及び芸術活動における顕著な業績をもつ活動 1～2単位

(Ⅲ) ボランティア活動（活動証明の得られるもの）

① 実活動時間が合計40時間以上の活動 1単位

② 実活動時間が合計80時間以上の活動 2単位

※必ずしも単位取得に結びつかない場合があります。参加を希望する学生は事前に窓口にて手続きを行ってください。

(Ⅳ) インターンシップ等制度による活動

① 5日以上かつ昼休み、休憩等を除く30時間以上の活動で参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験を行うもの 1単位

② 10日以上かつ昼休み、休憩等を除く60時間以上の活動で参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験を行うもの 2単位

※1事業所あたり、3日以上以上の活動で参加期間の半分以上の日数を職場で就業体験を行うものであれば、複数事業所との組み合わせも可能である。

※インターンシップ等のカリキュラムの内容によっては、単位取得条件を満たさない場合があるので、単位取得を希望する学生は参加する前にキャリアサポート課・長町校舎事務室に相談すること。

(Ⅴ) 国際活動 2単位

① 国際交流委員会が認めた国際交流活動、国際交流に関する研修・セミナーへの参加

② 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う海外研修

(Ⅵ) 教務委員会指定の課外活動 1～2単位

① 教務委員会が認めた45時間以上の学修を伴う学外または学内研修、特別講座への参加

② 教務委員会が認めた学外または学内活動への参加

(Ⅶ) 高大連携講座 2単位

本学と高等学校との協定により実施された「高大連携講座」を本学入学前に修了（ただし、協定により他科目での単位認定が取り決められている講座を除く）

(Ⅷ) 学科指定の課外活動 1～2単位

◆産業デザイン学科

(1) 各種デザインコンペでの受賞 2単位

(2) 企業実習への参加 2単位

単位認定および
評価の方法

(3) 学科内の各研究室が単独または合同で実施する調査研究，各種ゼミへの参加 2単位

(4) 自主的に行う国内・国外のデザイン見聞旅行の計画・実施 2単位

※事前に窓口にお問い合わせのこと。

◆生活デザイン学科

※事前に窓口にお問い合わせのこと。

◆経営コミュニケーション学科

(1) インターンシップ 実働40時間から80時間未満 1単位

(2) インターンシップ 実働80時間以上 2単位

(3) 学科が認める演習・実習 総実習時間合計30時間以上 1単位

(4) 学科が認める課外講義 総講義時間合計30時間以上，レポート提出 2単位

※事前に窓口にお問い合わせのこと。

(1) 単位認定は学生による自己申請に基づくことを原則とします。

(2) 申請は毎学期末（7月末，1月末）とします。

(3) 単位認定希望者は，次の書類を添付してポータルサイトからオンライン申請してください。（申請方法等の詳細については，別途ポータルサイト等でお知らせします。）

対象区分(I)の場合…資格取得，検定合格等を証明する書類

（但し，本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること）

対象区分(II)，(III)の場合

① 活動を証明するもの（但し，本人の名前が明示されているものの原本を提示すること）

② 課外活動における本人の位置付け，活動の内容，成果・業績等を記載したレポート（A4判，1000字程度）

③ 団体活動の場合は，個人の活動を証明する第三者（クラブ顧問，団体活動の指導者・担当教員等）の証明書類

対象区分(IV)，(V)，(VI)，(VII)の場合

① 活動を証明する書類（本人の名前が明示されている書類の原本を提示すること。ただし，IVの場合は写しでも可）

② 活動の動機，活動の内容，活動の成果，活動で得たこと等を記載したレポート（A4判，1,000字程度）

対象区分(VIII)の場合…修了証

(4) 単位認定の審査は教務委員会で行い，教務委員長が単位認定します。

なお，成績は“認定”扱いとし，GPAと平均点には算入しません。

(5) 認定基準

認定は次の3つの観点から行います。

- ・活動における自主性，能動性の度合い
- ・活動内容の充実度
- ・活動の成果の大きさ

窓口：学生サポートオフィス

・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）

・長町キャンパス事務室（4号館1階）

他大学等教養科目群（教養科目）・他大学開講科目群（専門科目）

<p>学都仙台単位互換ネットワーク</p>	<p>本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しています。本学学生は「特別聴講学生」として、ネットワークに参加している他大学の開講科目を履修することができ、各大学に通学して受講します。修得した単位は、所定の単位数まで、本学で履修した単位として認定できます。</p> <p>「学都仙台単位互換ネットワーク」は、仙台圏の国・公・私立の大学・短期大学・高等専門学校及び山形県の東北芸術工科大学の各大学間で、意欲ある学生に対し多様な学修機会を提供する事を目的として発足した制度です。各大学より文化、芸術、政治、経済、自然科学等、多くの学問分野にわたる科目が提供されています。</p> <p>検定料、入学料、授業料（但し、放送大学宮城学習センターを除く）を別途徴収されることはありません。</p> <p>学都仙台単位互換ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として他大学の提供科目を受講する場合は、本学で選考の上、受入大学に依頼を行い、受入大学から受入通知が来た時点で履修登録を行うこととなりますので、申し込みは通常の履修登録より早い時期に行われます。</p> <p>受講を希望する学生は、まず所属学科の教務委員やクラス担任と相談の上、本学の授業に差し支えないことを確認し、下記の要領に基づいて窓口で申請手続きを行ってください。</p>
<p>参加大学</p>	<p>1. 学都仙台単位互換ネットワーク参加大学 石巻専修大学、尚絅学院大学、仙台白百合女子大学、仙台大学、東北学院大学、東北芸術工科大学、東北工業大学、東北生活文化大学、東北大学、東北福祉大学、東北文化学園大学、東北医科薬科大学、宮城学院女子大学、宮城教育大学、宮城大学、聖和学園短期大学、東北生活文化大学短期大学部、仙台高等専門学校、放送大学、仙台青葉学院短期大学、宮城誠真短期大学（なお、年度により、募集を行わない大学もあるので事前に確認してください）</p>
<p>科目と対象</p>	<p>2. 他大学の募集要項、提供科目 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトで確認してください。</p> <p>3. 対象者 本学に在学する1年生（後期のみ）、2、3年生、4年生（前期のみ）</p> <p>4. 対象科目 原則として、自分の学年より上級学年対象の科目の受講は認められません。</p> <p>5. 進級、卒業単位に算入できる単位数 「他大学等教養科目群」または「他大学開講科目群」として進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なりますので、各学科の教育課程表を参照してください。</p>
<p>出願期限</p>	<p>6. 出願期限 出願期間は前期科目及び通年科目と後期科目で異なるほか、開講する大学によっても異なります。 「学都仙台コンソーシアム」のWebサイトに記載の出願期限とは別に学内期限があります。事前に窓口で確認してください。</p> <p>7. 諸注意 出願において、本学または受け入れ大学で履修を許可しない場合もあるので、事前にクラス担任、学科の教務委員と相談してください。 万一、途中で履修を取りやめるようなことがあると、受入大学に多大な迷惑をかけることとなりますので、無理のない履修計画を立ててください。 ほぼ全ての大学で、自家用車での通学を認めていませんので、通学にあたっては</p>

他学部教養科目
の履修

公共の交通機関を利用してください。

本学の他学部において教養科目として開講している科目を履修することができます。修得した単位は、「他大学等教養科目群」として認定されます。ただし、進級、卒業単位に算入できる単位数の上限は、学科によって異なりますので、各学科の教育課程表を参照してください。特別の届出用紙での履修登録が必要です。

(8ページを参照)。

※同一セメスターに開講される同一名称の科目の取り扱いは、この限りではありません。

窓口：学生サポートオフィス

・八木山キャンパス教務学生課（1号館1階）

・長町キャンパス事務室（4号館1階）

ライフデザイン学部

産業デザイン学科

専門教育科目

履修ガイダンス

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 段目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	分野	難易度+通し番号		
L	CD	SC	102		
LCD-SC-102					

※ライフデザイン学部産業デザイン学科「デザインセミナーⅡ」（2年次開講）の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目（学部区分）	
L	ライフデザイン学部

2 列目（学科・科目区分）	
CD	産業デザイン学科・専門教育科目
S	生活デザイン学科・専門教育科目
M	経営コミュニケーション学科・専門教育科目

3 段目（分野）		
TH	産業デザイン	理論・思想
TC		技術
AP		応用・統合
SC		社会・コミュニケーション
XX		その他
A	生活デザイン	地域計画学
B		福祉まちづくり系
C		住環境デザイン系
D		演習・実習・研修科目群
E		設計・造形科目群
F		キャリア形成科目群
A	経営コミュニケーション	経営
B		会計
C		経済
D		ヒューマンコミュニケーション
E		メディアコミュニケーション
F		ビジネスコミュニケーション
G		ICT
H		社会情報
I		地域創生
J		セミナー・研修
K		チャレンジアブロードプログラム
X	その他	

4・5・6 列目（難易度+通し番号）	
100 番台	入門レベル（大学1年次レベル）
200 番台	中級レベル（大学2年次レベル）
300 番台	上級レベル（大学3年次レベル）
400 番台	専門レベル（大学4年次レベル）
000 番台	その他（レベル分けができない科目、例：特別課外活動）

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
LCD-SC-101	デザインセミナーⅠ	2							
LCD-TH-101	デザイン論Ⅰ	2							
LCD-TH-102	デザイン史	2							
LCD-TC-101	アイデア基礎および同演習Ⅰ	4							
LCD-TC-102	表現技術および同演習Ⅰ	4							
LCD-SC-102	デザインセミナーⅡ		2						
LCD-TH-103	デザイン論Ⅱ		2						
LCD-TH-104	色彩論		2						
LCD-TC-103	アイデア基礎および同演習Ⅱ		4						
LCD-TC-104	表現技術および同演習Ⅱ		4						
LCD-SC-201	デザインセミナーⅢ			2					
LCD-TH-201	デザイン論Ⅲ			2					
LCD-TH-202	エディトリアルデザイン論			2					
LCD-TC-201	表現技術および同演習Ⅲ			6					
LCD-SC-202	デザインセミナーⅣ				2				
LCD-TH-204	情報デザイン論				2				
LCD-TH-205	材料学・生産技術				2				
LCD-AP-201	デザイン計画および同実習A				8				
LCD-SC-301	キャリアセミナーⅠ					2			
LCD-AP-301	デザイン計画および同実習B					8			
LCD-SC-302	キャリアセミナーⅡ						2		
LCD-AP-302	デザイン計画および同実習C						8		
LCD-AP-401	デザイン研修Ⅰ							6	
LCD-AP-402	デザイン研修Ⅱ								6
LCD-TH-203	インフォグラフィックス			2					
LCD-TC-202	デッサンおよび同演習			4					
LCD-TH-206	インタラクションデザイン論				2				
LCD-TH-207	エルゴノミクス				2				
LCD-TH-208	ユニバーサルデザイン				2				
LCD-TC-203	モデリングおよび同演習				4				
LCD-TH-301	音と動きのデザイン					2			
LCD-TH-302	広告論					2			
LCD-TH-303	美術史					2			
LCD-TH-304	インテリアデザイン					2			
LCD-TH-305	イラストレーション論					2			
LCD-TC-301	エキスパートデザイン計画および同実習A					4			
LCD-TH-306	地域産業論						2		
LCD-TH-307	ユーザーリサーチ論						2		
LCD-TH-308	デザインマーケティング論						2		
LCD-TH-309	ディスプレイデザイン論						2		
LCD-TH-310	ウェブデザイン論						2		
LCD-TC-302	エキスパートデザイン計画および同実習B						4		
LCD-TH-401	知的財産権							2	
LCD-TH-402	デザイン起業論							2	
LCD-TH-403	工芸学							2	
LCD-TH-404	デザイン特別講義							2	
LCD-TH-405	メディア論								2
LCD-TH-406	サステナブルデザイン論								2
LCD-XX-001	デザイン特別課外活動Ⅰ	…	…	…	…	…	…	…	…
LCD-XX-002	デザイン特別課外活動Ⅱ	…	…	…	…	…	…	…	…
LCD-XX-003	デザイン特別課外活動Ⅲ	…	…	…	…	…	…	…	…
LCD-XX-004	デザイン特別課外活動Ⅳ	…	…	…	…	…	…	…	…
LCD-XX-005	デザイン特別課外活動Ⅴ	…	…	…	…	…	…	…	…
LCD-XX-006	デザイン特別課外活動Ⅵ	…	…	…	…	…	…	…	…
LCD-XX-007	チャレンジアブロードプログラム	…	…	…	…	…	…	…	…
LCD-XX-008	他学科開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…
LCD-XX-009	他大学開講科目群	…	…	…	…	…	…	…	…

産業デザイン学科 専門教育科目の履修の流れ

産業デザイン学科 学習・教育目標

社会を快適にするためのアイデアを生み出し、それを暮らしの中で役立つ具体的なカタチにすることができる——幅広い分野でデザインを生かしたリーダーシップをとることができる人材を育成する。

必修科目

選択科目

科目群の学習・教育目標

理論・思想

①現代社会におけるデザインの意義・役割を理解する。
 ②これからのデザインの課題を考える視点を身につける。
 ③デザインに関連する分野の知識を幅広く習得する。

技術

①問題を解決するアイデアを効率よく発想するためのシステムティックな手法を身につける。
 ②アイデアを具体的な形にし、的確に他者へ伝えるために必要なアナログ・デジタル技術を身につける。
 ③より高度なデザイン技術を身につける。

応用・統合

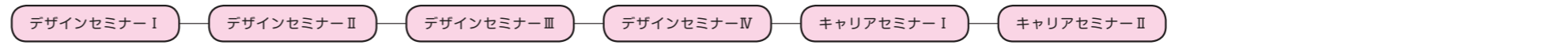
①「調査→問題点抽出→コンセプト立案→アイデア展開→デザイン提案」といった、一連のデザインプロセスを体得する。
 ②自分のアイデアやデザイン提案を他者に対し論理的にプレゼンテーションできるようにする。
 ③グループワークの中で自他の提案の価値を客観的に評価し、さらに質を高めることができるようになる。

社会・コミュニケーション

①実際の企業・組織活動の実態に触れ、その中でデザインの役割を理解する。
 ②グループワークの中で、よりよい成果に向けて建設的な貢献ができるようなコミュニケーション能力を身につける。
 ③自分の進路を考え、社会の一員となるために必要な基本的考え方、スキルを身につける。

その他

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期



チャレンジアプロードプログラム

《履修ガイダンス・教育課程表》

産業デザイン学科

デザインとは、私たちの社会を快適にするためのアイデアを生み出し、それを暮らしの中で役立つ具体的なかたちにするための知恵です。この知恵は、工業製品や出版物などの「モノ」を作る業界はもちろん、情報やサービスなどの「コト」を提供するさまざまな活動分野でも、今後ますます重要になっていきます。

産業デザイン学科では、そのような幅広い分野でデザインを生かしたリーダーシップをとれる、本当の意味での「デザインの専門家」を育成します。

1. カリキュラムの特徴

学科のカリキュラムは、「理論・思想」、「手法・技術」、「応用・統合」、「社会・コミュニケーション」の4つの柱で構成されています。

「理論・思想」の科目では、デザインを行う上で基礎となる考え方とともに、関連するさまざまな分野の知識を身につけます。

「手法・技術」の科目では、アイデアを発想する手法と、それを表現し伝えるために必要な技術を、演習課題を通して体得します。

「応用・統合」の科目である「デザイン計画および同実習」では、デザインの幅広い分野を体験し、実際に世の中の問題に対する具体的なデザイン提案を行います。この科目では、プロダクトデザイン、工芸、イラストレーション、グラフィックデザイン、映像、ウェブデザイン、アプリケーションデザイン、サウンドデザイン、服飾デザインといった様々な分野を対象とする課題の中から、自分の興味や目的に合ったものを選んで学ぶことができます。

「社会・コミュニケーション」の科目では、自分の進路を考えると同時に、社会の一員となるための基礎的な考え方やスキルを身につけます。

2. キャリアガイダンス

1・2年次の「デザインセミナーⅠ」「デザインセミナーⅡ」「デザインセミナーⅢ」「デザインセミナーⅣ」では、企業・組織活動の実態に触れ、職業としてのデザインに対する意識を高めるとともに、グループワークの中で建設的な貢献ができるようなコミュニケーション能力を身につけます。3年次の「キャリアセミナーⅠ」「キャリアセミナーⅡ」では、客観的な自己評価を行い、デザインの幅広い可能性をとらえながら、その中で自分の力を発揮できる具体的な進路を絞り込んでいきます。4年次の「デザイン起業論」では、起業や経営の基本的な知識を学び、社会が求める製品やサービスを考える力を身につけます。

3. 卒業研修について

「デザイン研修Ⅰ」「デザイン研修Ⅱ」は4年間の学びの総仕上げです。指導教員の研究室に所属し、個人または共同で特定のテーマに基づいた「作品」または「論文」をまとめます。この活動の中で、「目標設定→方法の検討→実行→結果の考察」という流れを主体的かつ論理的に行う方法を身につけます。また、研究成果を学内外で行う発表会、展示会で発表することで、研究・制作と社会とのつながりやその意義に対する理解を深めます。

なお、デザイン研修ⅠおよびⅡを履修するには、2年次から3年次に開講される必修科目、「デザイン計画および同実習A」「デザイン計画および同実習B」「デザイン計画および同実習C」を修得する必要があります。(P.114の進級条件を参照)

4. 履修のためのガイド

本学科では3年次から4年次に進級するための「進級条件」を設けています。制度上は3年次までは無条件で進級できることとなりますが、時間割が重複するため同時に受講できない科目があるので、少なくとも専門の必修科目については開講学年で確実に修得するようにしないと、3年次から4年次へ留年せずに進級することは事実上困難となります。また、3年次進級時点で次年度の4年次への進級不可が確定している(=CAP上限まで単位を修得しても進級条件の単位数に満たない)者は、「キャリアセミナーⅠ、Ⅱ」の受講と進路支援行事への参加は認められないので注意してください。

学年ごとの目標単位数(選択科目は「目標単位数/開講単位数」を示します)

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の 合計	1年次からの 累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	10	4 / 11	22	0 / 0	36 / 43	36 / 43
2年次	1	10 / 19	19	8 / 14	38 / 53	74 / 96
3年次	1	7 / 29	12	18 / 26	38 / 68	112 / 164
4年次	0	4 / 2	6	8 / 12	18 / 20	130 / 184
卒業までの 総合計	12	25 / 61	59	34 / 52	130 / 184	
	37 / 73		93 / 111			

5. 環境教育について

社会のためのデザインを考える際に、環境問題はひとつの大きなテーマとなります。本学科では、実習科目や研修で行う具体的なデザイン提案の課題の一部として、デザインによる環境問題への貢献について学びます。また、演習・実習科目ではさまざまな材料や道具を用いて作品の実制作をしますが、その作業の中で、省資源や省エネルギーなどについても実践的に学んでいきます。

6. 教職課程について

本学科では、高等学校の「工業」の教員免許状を取得するための科目を履修することができます。

7. 地域志向科目

本学科の開講科目の中で、地域社会におけるデザインのあり方を考えることを学習テーマとして含む以下の科目を、地域志向科目として指定しています。

- ・デザインセミナーⅠ～Ⅳ
- ・デザイン計画および同実習A～C
- ・デザインマーケティング論
- ・デザイン特別講義
- ・工芸学
- ・キャリアセミナーⅠ、Ⅱ
- ・地域産業論

教育課程表における進級・卒業条件

産業デザイン学科

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	30 単位以上 必修 10 単位を含むこと	
専門教育科目	69 単位以上 必修 49 単位以上を含むこと	デザイン計画および同実習 A, デザイン計画および同実習 B, デザイン計画および同実習 C, を含む
計	全体として 99 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	36 単位以上 必修 12 単位を含むこと	
専門教育科目	88 単位以上 必修 59 単位を含むこと	
計	124 単位	

教育課程表と学士力対応表

産業デザイン学科 教養教育科目

本学の「共通学士力」(本学の全学生が身に付けるべき学士力)	
共通学士力	学修成果(到達目標)
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

・単位数と学修時間(授業時間数及び自習時間数)

学修時間については学則第10条に以下の記載があります。(詳細はP.4“単位制と授業時間について”参照)

<p>第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。 ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。</p>
--

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題(予習・復習)」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習時間を取るよう努めてください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位(90時間)	1コマ/週(計30時間)	+	60時間/14週
演習・実習	1単位(45時間)	1コマ/週(計30時間)	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習(予習・復習)時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

教育課程表

産業デザイン学科 教養教育科目

科目区分	授業科目名	単位		各期の毎週時間数								備考	授業形態				共通学士力							
				1年		2年		3年		4年			講義	演習	実験実習	卒業研修	①	②	③	④	⑤			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期													
地域・文化・社会	1	キャリアデザインⅠ	1		2									○								●	●	
	2	キャリアデザインⅡ	1			2								○								●	●	
	3	キャリアデザインⅢ	1					2						○								●	●	
	4	人工知能総論	1		2									○								●	●	
	5	人工知能入門		1	2									○								●	●	
	6	人工知能基礎		2				2						○								●	●	
	7	人工知能応用		2					2					○								●	●	
	8	グリーンテクノロジー	1		2									○								●	●	
	9	サステナビリティ入門		2		2								○								●	●	
	10	地球環境と諸問題		2			2							○								●	●	
	11	東北文化史		2	2									○								●	●	
	12	メディア文化史		2	2									○								●	●	
	13	表象文化論		2		2								○								●	●	
	14	現代社会論		2		2								○								●	●	
	15	市民と法		2			2							○								●	●	
	16	暮らしと心理学		2			2							○								●	●	
	17	産業社会と心理学		2				2						○								●	●	
	18	産業社会と倫理		2				2						○								●	●	
	19	ビジネスマナー		2				2						○								●	●	
	20	科学思想史		2				2						○								●	●	
	21	日本国憲法		2				2						○								●	●	
	22a	職業指導（工業）		2				2						○								●	●	
	23	工業概論		2				2						○								●	●	
	24	コミュニティネットワーク論	2		2									○								●	●	
	25	ネットワーク・コンピュータ基礎	2		2									○								●	●	
	26	数学的思考法		2	2									○								●	●	
	27	情報社会の経済		2					2					○								●	●	
	28	フランスの文化と言葉		2					2					○								●	●	
	29	韓国の文化と言葉		2					2					○								●	●	
	30	中国の文化と言葉		2					2					○								●	●	
	31	異文化理解		2					2					○								●	●	
	32	現代の哲学		2						2				○								●	●	
言葉と表現	33	スタディスキル	1		2									○								●	●	
	34	英語ⅠA	1		2									○								●	●	
	35	英語ⅠB	1		2									○								●	●	
	36	英語ⅡA		1		2								○								●	●	
	37	英語ⅡB		1		2								○								●	●	
	38	英会話Ⅰ		1	2									○								●	●	
	39	英会話Ⅱ		1	2									○								●	●	
	40	英会話Ⅲ		1		2								○								●	●	
	41	英会話Ⅳ		1		2								○								●	●	
	42	資格英語Ⅰ		1		2								○								●	●	
	43	資格英語Ⅱ		1		2								○								●	●	
	44	資格英語Ⅲ		1			2							○								●	●	
心と体の健康	45	健康・運動科学実習Ⅰ		1	2									○								●	●	
	46	健康・運動科学実習Ⅱ		1	2									○								●	●	
	47	スポーツ科学実習		1		2								○								●	●	
学際	48	特別課外活動Ⅰ		1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	※1										
	49	特別課外活動Ⅱ		1	…	…	…	…	…	…	…	…	…											
	50	特別課外活動Ⅲ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	…											
	51	特別課外活動Ⅳ		2	…	…	…	…	…	…	…	…	…											
	52	他大学等教養科目群		4	…	…	…	…	…	…	…	…	…		※2									
小計（51科目）			12	71	16	16	16	12	20	12	2	0												

※1 あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入できる。

教育課程表と学士力対応表

産業デザイン学科 専門教育科目

産業デザイン学科の学位授与方針

ライフデザイン学部 産業デザイン学科は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（デザイン）」の学位を授与する。

本学の「共通学士力」（本学の全学生が身に付けるべき学士力）

共通学士力	学修成果（到達目標）
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

産業デザイン学科の「専門学士力」（産業デザイン学科の学生が身に付けるべき学士力）

専門学士力	学修成果（到達目標）
①デザイン知識・視点	デザインに関する分野の知識、これからのデザインの課題を考える視点を身に付け、デザインの社会的意義・役割を理解することができる。
②アイデア発想力	アイデアを効率よく発想するシステムティックな手法を身に付け、モノやサービスによる解決策を生み出すことができる。
③デザイン表現力	発想した概念を具体化するデザイン表現技術を身に付け、アイデアを的確に他者に伝えることができる。
④デザイン企画・計画力	一連のデザインプロセスを推進するノウハウを身に付け、デザイン提案として企画・計画・プレゼンすることができる。
⑤デザイン共創力	グループワークによるデザイン開発において、自分の提案を評価し他者の考えを理解する能力を身に付け、グループとしてのデザイン提案の質を高めることができる。

ライフデザイン学部

生活デザイン学科

専門教育科目

履修ガイダンス

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 列目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	分野	難易度+通し番号		
L	S	A	101		
LS-A-101					

※ライフデザイン学部生活デザイン学科「地域計画概論」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
L	ライフデザイン学部

2 列目 (学科・科目区分)	
CD	産業デザイン学科・専門教育科目
S	生活デザイン学科・専門教育科目
M	経営コミュニケーション学科・専門教育科目

3 段目 (分野)		
TH	産業デザイン	理論・思想
TC		技術
AP		応用・統合
SC		社会・コミュニケーション
XX		その他
A	生活デザイン	地域計画学
B		福祉まちづくり系
C		住環境デザイン系
D		演習・実習・研修科目群
E		設計・造形科目群
F		キャリア形成科目群
A	経営コミュニケーション	経営
B		会計
C		経済
D		ヒューマンコミュニケーション
E		メディアコミュニケーション
F		ビジネスコミュニケーション
G		ICT
H		社会情報
I		地域創生
J		セミナー・研修
K		チャレンジアブロードプログラム
X	その他	

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	学科基礎レベル (入門レベル)
200 番台	学科初級専門レベル
300 番台	学科中級専門レベル
400 番台	学科応用レベル
000 番台	その他

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
LS-A-101	地域計画概論	2							
LS-D-110	生活学演習		4						
LS-D-113	地域調査演習			4					
LS-D-401	くらしのデザイン実習 I				6				
LS-D-403	くらしのデザイン実習 II					6			
LS-D-402	住まいのデザイン実習 I					6			
LS-D-404	住まいのデザイン実習 II						6		
LS-D-407	研究・制作実習						6		
LS-D-409	卒業研修 I							6	
LS-D-410	卒業研修 II								6
LS-B-102	まちづくり論	2							
LS-B-103	心の理解とケア	2							
LS-C-104	住まいの計画	2							
LS-C-105	住まいの構造と材料	2							
LS-E-106	デザイン基礎演習	4							
LS-B-107	環境と素材		2						
LS-B-301	身体生理と医科学		2						
LS-C-108	住まいの造形意匠		2						
LS-C-109	住まいの力学基礎		2						
LS-E-201	設計基礎演習		4						
LS-A-111	地域防災論			2					
LS-B-202	デザイン史			2					
LS-A-203	福祉住環境			2					
LS-A-112	健康と生活支援			2					
LS-C-204	インテリアデザイン			2					
LS-C-205	住環境の基礎科学			2					
LS-C-206	住まいの構造力学			2					
LS-E-302	設計CAD演習 I			4					
LS-B-303	プロジェクトデザイン				2				
LS-A-207	ユニバーサルデザイン				2				
LS-B-208	地域看護論				2				
LS-C-209	住まいの文化史				2				
LS-C-304	住まいの環境工学				2				
LS-B-305	復旧復興まちづくり					2			
LS-A-210	ランドスケープデザイン					2			
LS-B-306	心理・行動と社会調査					2			
LS-C-307	都市計画					2			
LS-C-308	住まいの設備計画					2			
LS-C-211	住まいの材料実験 I					2			
LS-E-405	建築デザイン演習					4			
LS-A-309	公民と自治						2		
LS-A-310	地域産業論						2		
LS-A-311	社会福祉論						2		
LS-B-312	公衆衛生学						2		
LS-C-313	都市と住宅の法制度						2		
LS-C-406	地域環境の保全とエネルギー						2		
LS-C-212	住まいの材料実験 II						2		
LS-E-408	設計CAD演習 II						4		
LS-A-314	NPO 論							2	
LS-C-315	住まいの施工と積算							2	
LS-F-001	基礎セミナー I	2							
LS-F-002	基礎セミナー II		2						
LS-F-003	基礎セミナー III			2					
LS-F-004	キャリアセミナー I				2				
LS-F-005	キャリアセミナー II					2			
LS-F-006	キャリアセミナー III						2		
LS-D-007	生活デザイン特別課外活動 I
LS-D-008	生活デザイン特別課外活動 II
LS-D-009	生活デザイン特別課外活動 III
LS-D-010	生活デザイン特別課外活動 IV
LS-D-011	他学科開講科目群
LS-D-012	他大学開講科目群

生活デザイン学科 専門科目の履修の流れ

生活デザイン学科 学習・教育目標

これからの地域社会をみすえ、コミュニティや社会制度・産業経済のあり方を再考・共創する地域計画学（Community and Social Planning：C系）を共通基盤とする。
 そのうえで、福祉や自立・共助生活など、くらしのしきみを整える「福祉まちづくり（Welfare Community Design）」系と、住宅・インテリア・Quality of Placeなどの「住環境デザイン（Living Environment Design）」系のいずれかに軸足をおき、学習・探究を深めていく。

必修科目

選択必修科目

選択科目

科目群の学習・教育目標

地域計画学
 C: Community and Social Planning

これからの、とくに東北地方を見すえた地域計画の中心的なテーマとして、地域自治、共助、防災、景観・観光といった側面に関心をよせて基礎知識を身につけ、地域の成立と課題および解決手法について考える。

福祉まちづくり系
 W: Welfare Community Design

地域資源を活かし、経済社会を活性化させる産業計画分野と、多様な生活者の心身に寄り添い自立を促す社会福祉・生活科学分野からなる。くらしの安全・安心を成り立たせる「しきみ」を理解し、次世代のためこれらを再構成する力を養う。

住環境デザイン系
 L: Living Environment Design

インテリア・住宅・都市といった生活空間に関心をもち、地域住環境の改善や空間創出を図る住居デザイン学分野と、これらを成り立たせる建築工学分野からなる。地域に根ざした健やかで豊かな生活の場を創出するためのデザイン力、表現力を身につける。

演習・実習・研修科目群

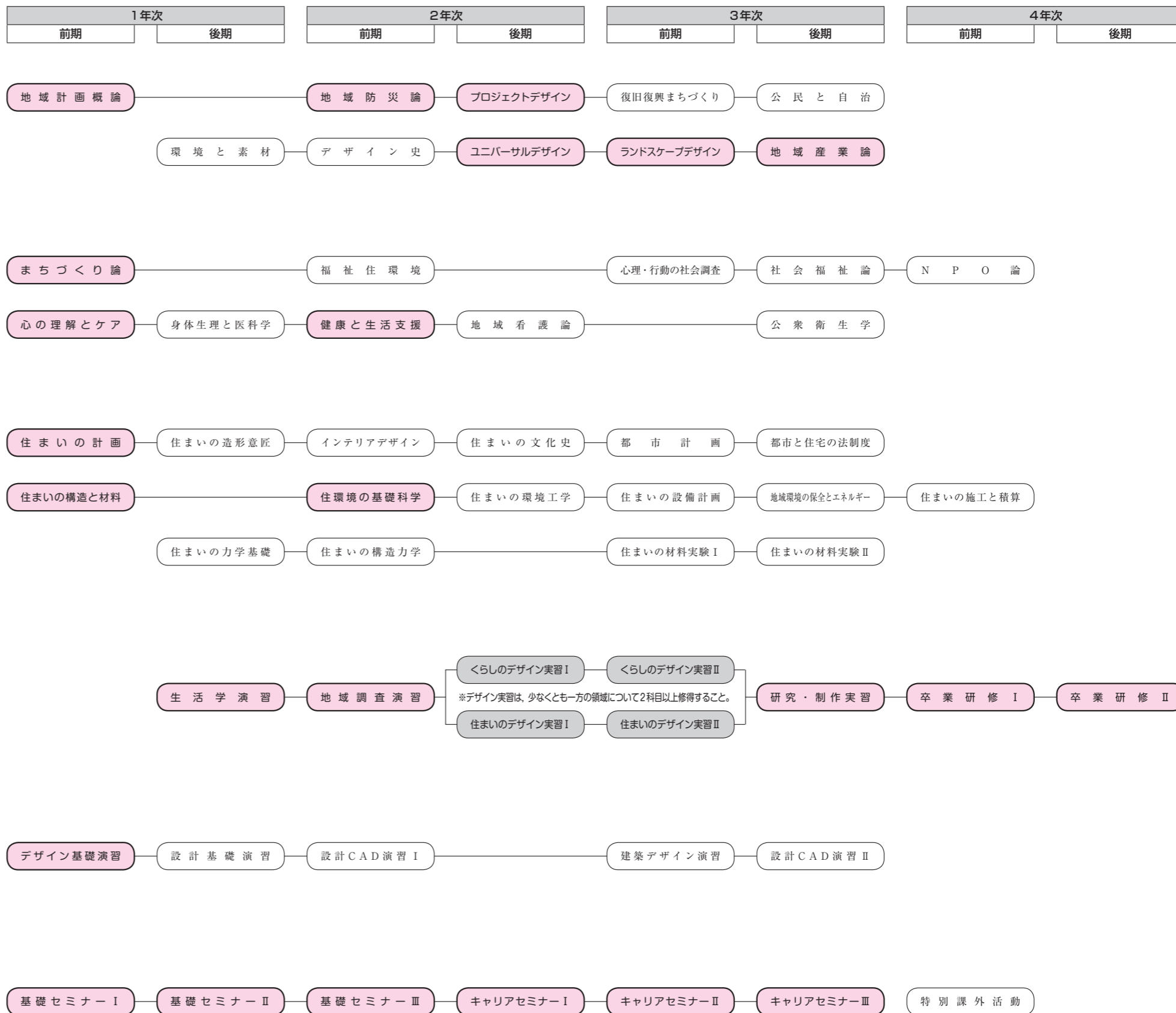
実践的な課題を通して、安全安心に資する生活作法、研究手法、表現手法を学び、具体的課題への実践的な状況改善デザインを探索する。

設計・造形科目群

住宅・中小規模地域施設等の建築環境設計に関する基礎的能力を涵養する。

キャリア形成科目群

社会で求められる基本的な学力・知識・解決力を養うとともに、より具体的な職場を想定し、専門家の講話や就職支援事業等への積極的な参画等を通して、就業に対するモチベーションを高め、適応力を身につける。



《履修ガイダンス・教育課程表》

生活デザイン学科

人口減少、度重なる災害、グローバル社会のなかで、地域の人材・資源や歴史・文化を活かし、新たな時代を創出するためには、広い視野を育みながらも、身の回りの地域社会に立脚した安全安心な生活を再構築することが必要です。

生活デザイン学科では、東北地方を主な具体例として、地域特性や福祉住環境を学ぶとともに、産業社会の創出や自立・共助生活といった「くらしのしくみ」から、住宅・インテリア・ランドスケープといった「住まいのかたち」まで、多彩な分野を学生個々の志向にあわせて統合的に学び、地域の課題解決に寄与する優れた技術者・デザイナー・コーディネーターをめざします。

1. カリキュラムの特徴

本学科の専門教育科目では、これからの地域社会を見据え、コミュニティや社会制度・産業経済のあり方を再考・共創する「地域計画学（Community and Social Planning：C系）」を共通基盤科目群に設定するとともに、福祉や自立、共助生活など、くらしのしくみを整える「福祉まちづくり（くらし系）」と、住宅・インテリア・Quality of Placeなどの「住環境デザイン（住まい系）」の2系を、それぞれ特色のある科目系統に設定しています。履修計画にあたっては、くらし系／住まい系の一方を選択しますが、それらは明確なコース制ではないため、他方の科目も総合的に履修することが可能となっています。

これらは、大きく次のような3ステップで履修するよう設定されています（1セメスター＝半期）。

ステップⅠ (計3セメスター) 1年次～2年前期	ステップⅡ (計2セメスター) 2年後期～3年前期	ステップⅢ (計3セメスター) 3年後期～4年次
関連領域全体をひろく学ぶ	専門内容を実践的に学ぶ	専門内容を深く探究する
講義科目では、地域計画、くらし、住まいの3系に属する専門基礎的内容をひろく学びます。 また演習科目では、調査研究や造形表現のための基礎的技術を学びます。	実習科目に主眼をおき、くらし／住まいのいずれかを選択し、実践的に学びます。 専門性の高い多様な講義に触れながら、それらを実践のもとで関連づけながら修得します。	課題の発見、手法の習得から、具体的な探究テーマの選択と実施まで、卒業研修を中心として深く探究します。 さらに、キャリア形成を見すえて専門知識を身につけます。

なお、専門科目のなかで「地域計画概論」（SD学科・1年前期）は、学科における共通ガイダンス的な専門基礎科目となっています。

2. キャリアガイダンス

科目名：「基礎セミナーⅠ，Ⅱ，Ⅲ」「キャリアセミナーⅠ，Ⅱ，Ⅲ」（1年前期～3年後期：必修）

少人数教育を基調に、大学生生活全般はもとより、就業意識の向上、社会人力の育成、就職活動を念頭においた試験対策や表現力の向上など、段階的にきめ細やかな指導・支援を行います。

- ・「基礎セミナーⅠ，Ⅱ」大学生生活の基礎、専門基礎力の充実化
- ・「基礎セミナーⅢ」コミュニケーション力、表現力の涵養。初歩的インターンへの参加。
- ・「キャリアセミナーⅠ，Ⅱ」各種業界研究や自己の適性把握、社会人力の涵養。インターンへの参加。
- ・「キャリアセミナーⅢ」就職活動実践力の強化、SD学科総合修得試験。

3. 卒業研修について

卒業研修は、大学教育における学びの総決算であり、3年次後期より3セメスターにわたって徐々に深めながら進めていきます。

- ・「研究・制作実習」（3年後期）：配属された研究室の指導に沿ってテーマを選び、研究や創作の手法を身につけます。その成果は1月頃の所定の時期にまとめ、「研究・制作実習報告会」にて報告します。
- ・「卒業研修Ⅰ」（4年前期）：選択した課題についての探究を深めていき、調査や分析、創作や表現を進展させます。進捗状況を「卒業研修Ⅰ報告会」にて報告します。
- ・「卒業研修Ⅱ」（4年後期）：これまでの研修内容を深めると同時に、学内外の他者へ成果を伝えることに主眼をおきます。このため、その到達度を12月の「予備審査」に審査し、合格者は翌1月頃の「卒業研修発表会」にて成果を報告します。さらに一定の評価を得たものは、2月頃に開催する学外発表会において報告・出展します。

なお、研究・制作実習から卒業研修Ⅰに進む過程において、特段の理由がある場合には配属研究室を変更することができますが、テーマの探究や研究手法修得において別途補講が必要となります。

4. 履修のためのガイド

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	10	8/11	16	6/9	40	40
2年次	1	8/19	14	15/19	38	78
3年次	1	11/29	9	21/27	42	120
4年次	－	2/2	6	4/4	12	132
卒業までの総合計	12	29/61	45	46/59	132	
	41/73		91/104			

なお、2級建築士その他の受験をめざす学生は、指定された科目をバランスよく履修する必要があります。詳しくは、後述の「卒業後の取得資格」（141ページ）に記してあります。必ず確認してください。

不明な点があれば、学科教務委員に問い合わせてください。

5. 環境教育について

- ・「コミュニティネットワーク論」（LD学部共通・1年前期）
- ・「住環境の基礎科学」（2年前期）、「住まいの環境工学」（2年後期）、「住まいの設備計画」（3年前期）および「地域環境の保全とエネルギー」（3年後期）では、エコロジカルデザイン、省エネルギー技術、サステイナブル住環境等の諸相について学びます。
- ・「生活学演習」（1年後期）や「くらしのデザイン実習Ⅰ、Ⅱ／住まいのデザイン実習Ⅰ、Ⅱ」（2年後期・3年前期）では、地域生活におけるエネルギーや利用環境配慮について具体的に考察します。

6. 教職課程について

生活デザイン学科では、高等学校の「工業」教育教員免許状を取得するための科目を履修することができます。

7. 地域志向科目

本学科では、専門科目の多くにおいて地域志向の内容を有しています。また、教養科目においても地域と社会、自然と技術といった領域から地域の諸相に関わる科目を履修することができます。

なお教養科目のなかで「コミュニティネットワーク論」(LD学部共通・1年前期)は、ライフデザイン学部における関連の代表的科目であり、共通ガイダンス的な内容を兼ねています。

教育課程表における進級・卒業条件

生活デザイン学科

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	28 単位以上 必修 12 単位を含むこと	
専門教育科目	72 単位以上 必修 37 単位（研究・制作実習含む）および選択 必修 6 単位を含むこと（備考参照）。	選択科目のうち次の 2 系統から 同一系統の 2 科目 6 単位を必ず 修得すること（選択必修）。 (1) 暮らし系統：「暮らしのデザ イン実習Ⅰ」, 「暮らしのデザ イン実習Ⅱ」 (2) 住まい系統：「住まいのデザ イン実習Ⅰ」, 「住まいのデザ イン実習Ⅱ」
計	全体として 100 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	34 単位 必修 12 単位を含むこと	
専門教育科目	90 単位 必修 45 単位を含むこと	
計	124 単位	

教育課程表と学士力対応表

生活デザイン学科 教養教育科目

本学の「共通学士力」(本学の全学生が身に付けるべき学士力)	
共通学士力	学修成果 (到達目標)
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

・単位数と学修時間 (授業時間数及び自習時間数)

学修時間については学則第10条に以下の記載があります。(詳細はP.4 “単位制と授業時間について” 参照)

<p>第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。 ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。</p>
--

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題(予習・復習)」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習時間を取るよう努めてください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位(90時間)	1コマ/週(計30時間)	+	60時間/14週
演習・実習	1単位(45時間)	1コマ/週(計30時間)	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習(予習・復習)時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

教育課程表

生活デザイン学科 教養教育科目

科目区分	単位	授業科目名	各期の毎週時間数								備考	授業形態				共通学士力					
			1年		2年		3年		4年			講義	演習	実験実習	卒業研修	①	②	③	④	⑤	
			必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期											前期
地域・文化・社会	1	キャリアデザインⅠ	1		2								○						●	●	
	2	キャリアデザインⅡ	1			2							○						●	●	
	3	キャリアデザインⅢ	1					2					○						●	●	
	4	人工知能総論	1		2								○			●	●				
	5	人工知能入門	1		2								○			●	●	●			
	6	人工知能基礎	2					2					○			●	●	●	●	●	
	7	人工知能応用	2						2				○			●	●	●	●	●	
	8	グリーンテクノロジー	1		2								○								
	9	サステナビリティ入門	2			2							○								
	10	地球環境と諸問題	2				2						○								
	11	東北文化史	2		2								○			●	●	●			
	12	メディア文化史	2		2								○			●	●	●			
	13	表象文化論	2		2								○			●	●				
	14	現代社会論	2		2								○			●	●				
	15	市民と法	2				2						○			●	●	●			
	16	暮らしと心理学	2				2						○			●	●	●			
	17	産業社会と心理学	2						2				○			●	●	●			
	18	産業社会と倫理	2						2				○			●	●	●			
	19	ビジネスマナー	2						2				○						●	●	
	20	科学思想史	2						2				○			●	●				
	21	日本国憲法	2						2				○			●	●	●			
	22a	職業指導（工業）	2						2				○			●	●				●
	23	工業概論	2						2				○			●	●	●			
	24	コミュニティネットワーク論	2		2								○			●	●			●	
	25	ネットワーク・コンピュータ基礎	2		2								○			●					
	26	数学的思考法	2		2								○			●	●	●			
	27	情報社会の経済	2							2			○			●	●	●			
	28	フランスの文化と言葉	2							2			○							●	
	29	韓国の文化と言葉	2							2			○							●	
	30	中国の文化と言葉	2							2			○							●	
	31	異文化理解	2							2			○							●	
	32	現代の哲学	2								2		○			●	●				
言葉と表現	33	スタディスキル	1		2								○						●	●	
	34	英語ⅠA	1		2								○						●		
	35	英語ⅠB	1		2								○						●		
	36	英語ⅡA	1			2							○						●		
	37	英語ⅡB	1				2						○						●		
	38	英会話Ⅰ	1	2									○						●		
	39	英会話Ⅱ	1	2									○						●		
	40	英会話Ⅲ	1			2							○						●		
	41	英会話Ⅳ	1				2						○						●		
	42	資格英語Ⅰ	1			2							○						●		
	43	資格英語Ⅱ	1				2						○						●		
	44	資格英語Ⅲ	1					2					○						●		
心と体の健康	45	健康・運動科学実習Ⅰ	1	2									○		●		●	●			
	46	健康・運動科学実習Ⅱ	1	2									○		●		●	●			
	47	スポーツ科学実習	1			2								○	●		●	●			
学際	48	特別課外活動Ⅰ	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…							
	49	特別課外活動Ⅱ	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…							
	50	特別課外活動Ⅲ	2	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…							
	51	特別課外活動Ⅳ	2	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…							
	52	他大学等教養科目群	4	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…							
小計（51科目）			12	71	16	16	16	12	20	12	2	0									

※1 あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる。
 ※2 他大学等教養科目群については、4単位までを進級および卒業に要する単位に算入できる。

教育課程表と学士力対応表

生活デザイン学科 専門教育科目

生活デザイン学科の学位授与方針

ライフデザイン学部 生活デザイン学科は、全学の学位授与方針（G1ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（ライフデザイン）」の学位を授与する。

本学の「共通学士力」（本学の全学生が身に付けるべき学士力）

共通学士力	学修成果（到達目標）
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

生活デザイン学科の「専門学士力」（生活デザイン学科の学生が身に付けるべき学士力）

専門学士力	学修成果（到達目標）
①生活・地域の基礎知識	人間の心身と健康な生活、これを取りまく地域に関する基礎知識を身に付け、学びや技術の立脚点に位置づけることができる。
②コミュニティ活用能力	福祉や防災など、持続可能なまちづくりの課題を解決する基盤としてのコミュニティを理解し、その活かし方を構想することができる。
③空間デザイン力	住まいから公共の場まで、空間的な可能性や課題を見定め、価値向上や解決のための具体的方法をデザインすることができる。
④フィールド科学応用力	フィールド（現場）に着目して研究対象をとらえ、社会・産業・環境などの面から科学的に理解し、応用につなげることができる。
⑤図解・造形・表現力	分析、構想した内容を図解、造形するとともに、多世代・多様な人々に伝わるよう、適切に表現・伝達することができる。
⑥生活デザイン実践・総合力	生活デザインに関わる課題解決や価値向上への目標をもち、主体的・計画的・実践的に探求し、知識・技術を総合化することができる。

教育課程表

生活デザイン学科 専門教育科目

科目区分	授業科目名	単位 必修 選択	各期の毎週時間数								備考	授業形態				共通学士力					専門学士力					
			1年		2年		3年		4年			講義	演習	実験 実習	卒業 研修	①	②	③	④	⑤	①	②	③	④	⑤	⑥
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期																
1	地域計画概論	2		2								○			●	●				●	●		●			
2	生活学演習	2			4							○			●					●	●					
3	地域調査演習	2				4						○			●	●	●			●	●	●	●	●	●	
4	くらしのデザイン実習Ⅰ	3					6						○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
5	くらしのデザイン実習Ⅱ	3						6					○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
6	住まいのデザイン実習Ⅰ	3						6					○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
7	住まいのデザイン実習Ⅱ	3							6				○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
8	研究・制作実習	3							6					○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
9	卒業研修Ⅰ	3								6				○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
10	卒業研修Ⅱ	3									6			○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
11	まちづくり論	2		2								○			●	●				●	●					
12	心の理解とケア	2		2								○			●	●				●	●					
13	住まいの計画	2		2								○			●	●				●	●					
14	住まいの構造と材料	2		2								○			●	●				●	●					
15	デザイン基礎演習	2		4									○		●	●				●	●					
16	環境と素材	2		2								○			●	●				●	●					
17	身体生理と医科学	2		2								○			●	●				●	●					
18	住まいの造形意匠	2		2								○			●	●				●	●					
19	住まいの力学基礎	1		2								○			●	●				●	●					
20	設計基礎演習	2		4									○		●	●	●			●	●					
21	地域防災論	2			2							○			●	●				●	●					
22	デザイン史	2			2							○			●	●				●	●					
23	福祉住環境	2			2							○			●	●				●	●					
24	健康と生活支援	2			2							○			●	●				●	●					
25	インテリアデザイン	2			2							○			●	●				●	●					
26	住環境の基礎科学	2			2							○			●	●				●	●					
27	住まいの構造力学	2			2							○			●	●				●	●					
28	設計CAD演習Ⅰ	2			4								○		●	●	●			●	●					
29	プロジェクトデザイン	2				2						○			●	●				●	●					
30	ユニバーサルデザイン	2				2						○			●	●				●	●					
31	地域看護論	2				2						○			●	●				●	●					
32	住まいの文化史	2				2						○			●	●				●	●					
33	住まいの環境工学	2				2						○			●	●				●	●					
34	復旧復興まちづくり	2					2					○			●	●				●	●					
35	ランドスケープデザイン	2					2					○			●	●				●	●					
36	心理・行動と社会調査	2					2					○			●	●				●	●					
37	都市計画	2					2					○			●	●				●	●					
38	住まいの設備計画	2					2					○			●	●				●	●					
39	住まいの材料実験Ⅰ	1					2						○		●	●				●	●					
40	建築デザイン演習	2					4						○		●	●	●			●	●					
41	公民と自治	2						2				○			●	●				●	●					
42	地域産業論	2						2				○			●	●				●	●					
43	社会福祉論	2						2				○			●	●				●	●					
44	公衆衛生学	2						2				○			●	●				●	●					
45	都市と住宅の法制度	2						2				○			●	●				●	●					
46	地域環境の保全とエネルギー	2						2				○			●	●				●	●					
47	住まいの材料実験Ⅱ	1						2					○		●	●				●	●					
48	設計CAD演習Ⅱ	2							4				○		●	●	●			●	●					
49	NPO論	2								2		○			●	●				●	●					
50	住まいの施工と積算	2							2			○			●	●				●	●					
51	基礎セミナーⅠ	1		2									○		●	●				●	●					
52	基礎セミナーⅡ	1			2								○		●	●				●	●					
53	基礎セミナーⅢ	1				2							○		●	●				●	●					
54	キャリアセミナーⅠ	1					2						○		●	●				●	●					
55	キャリアセミナーⅡ	1						2					○		●	●				●	●					
56	キャリアセミナーⅢ	1							2				○		●	●				●	●					
57	生活デザイン特別課外活動Ⅰ	1	…	…	…	…	…	…	…				○		●	●				●	●					
58	生活デザイン特別課外活動Ⅱ	1	…	…	…	…	…	…	…				○		●	●				●	●					
59	生活デザイン特別課外活動Ⅲ	2	…	…	…	…	…	…	…				○		●	●				●	●					
60	生活デザイン特別課外活動Ⅳ	2	…	…	…	…	…	…	…				○		●	●				●	●					
61	他学科開講科目群	6	…	…	…	…	…	…	…				○		●	●				●	●					
62	他大学開講科目群	4	…	…	…	…	…	…	…				○		●	●				●	●					
小計(62科目)		45:81	16:18	24:24	30:26	10:6																				

※1 選択科目のうち次の2領域から同一領域の2科目6単位を必ず修得すること(選択必修)。

- (1) くらしのデザイン実習Ⅰ,Ⅱ
- (2) 住まいのデザイン実習Ⅰ,Ⅱ

※2 あわせて4単位までを進級および卒業に要する単位として算入できる

ライフデザイン学部

経営コミュニケーション学科

専門教育科目

履修ガイダンス

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 列目	2 列目	3 段目	4 列目	5 列目	6 列目
学部区分	学科区分	分野	難易度+通し番号		
L	M	D	102		
LM-D-102					

※ライフデザイン学部経営コミュニケーション学科「コミュニケーション入門」(1年次開講)の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 列目 (学部区分)	
L	ライフデザイン学部

2 列目 (学科・科目区分)	
CD	産業デザイン学科・専門教育科目
S	生活デザイン学科・専門教育科目
M	経営コミュニケーション学科・専門教育科目

3 段目 (分野)		
TH	産業デザイン	理論・思想
TC		技術
AP		応用・統合
SC		社会・コミュニケーション
XX		その他
A	生活デザイン	地域計画学
B		福祉まちづくり系
C		住環境デザイン系
D		演習・実習・研修科目群
E		設計・造形科目群
F		キャリア形成科目群
A	経営コミュニケーション	経営
B		会計
C		経済
D		ヒューマンコミュニケーション
E		メディアコミュニケーション
F		ビジネスコミュニケーション
G		ICT
H		社会情報
I		地域創生
J		セミナー・研修
K		チャレンジアブロードプログラム
X		その他

4・5・6 列目 (難易度+通し番号)	
100 番台	入門レベル
200 番台	中級レベル
300 番台	上級レベル
400 番台	専門レベル
000 番台	その他 (レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科目名	各期の毎週時間数							
		1年		2年		3年		4年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
LM-A-101	経営学入門	2							
LM-B-101	会計学入門	2							
LM-C-101	数学基礎	2							
LM-D-101	心理学入門	2							
LM-D-102	コミュニケーション入門	2							
LM-F-101	英文法基礎	2							
LM-J-101	経営コミュニケーションセミナー I	2							
LM-A-102	組織心理学		2						
LM-C-102	経済学入門		2						
LM-D-203	対人コミュニケーション		2						
LM-E-101	メディアコミュニケーション入門		2						
LM-F-204	ドキュメントコミュニケーション		2						
LM-F-103	クリティカルシンキング		2						
LM-H-101	統計学入門		2						
LM-I-102	経営コミュニケーションセミナー II		2						
LM-B-202	簿記論		2						
LM-A-203	経営管理論			2					
LM-A-204	マーケティング論			2					
LM-D-204	キャリアプランニング			2					
LM-F-102	イングリッシュコミュニケーション			2					
LM-G-101	ICT入門			2					
LM-I-101	地域創生論			2					
LM-J-203	経営コミュニケーションセミナー III			2					
LM-B-303	財務会計論			2					
LM-C-203	ミクロ経済学			2					
LM-H-202	データ分析			2					
LM-H-203	社会調査 I			2					
LM-A-206	イノベーション政策論				2				
LM-I-202	経営コミュニケーション学総合演習 I				2				
LM-J-204	経営コミュニケーションセミナー IV				2				
LM-A-205	経営組織論				2				
LM-B-304	財務管理論				2				
LM-C-204	マクロ経済学				2				
LM-C-305	環境経済学				2				
LM-E-202	映像・イメージ学				2				
LM-F-205	パブリックスピーチ				2				
LM-H-304	社会調査 II				2				
LM-G-202	ネットワークとビジネス				2				
LM-I-203	経営コミュニケーション学総合演習 II					2			
LM-J-305	経営コミュニケーション概論 I					2			
LM-D-309	経営コミュニケーションキャリアセミナー I					2			
LM-A-307	経営戦略論					2			
LM-C-306	日本経済論					2			
LM-B-405	中小企業会計論					2			
LM-D-306	異文化コミュニケーション					2			
LM-F-306	ビジネスイングリッシュ					2			
LM-D-305	映像心理学					2			
LM-G-203	データベースと経営					2			
LM-E-303	映像制作実習 I					6			
LM-J-306	経営コミュニケーション概論 II						2		
LM-D-310	経営コミュニケーションキャリアセミナー II						2		
LM-A-308	人的資源管理論						2		
LM-C-307	国際経済論						2		
LM-C-308	組織の経済学						2		
LM-D-307	メンタルヘルスケア						2		
LM-D-308	交渉学						2		
LM-E-304	映像制作実習 II						6		
LM-G-304	情報システム学						2		
LM-J-407	経営コミュニケーション研修 I							4	
LM-A-409	ビジネスロールプレイング							2	
LM-C-309	法と経済学							2	
LM-D-409	身体表現研究							2	
LM-D-410	コーチング							2	
LM-J-408	経営コミュニケーション研修 II								8
LM-G-405	ICTビジネススキル								2
LM-K-001	チャレンジアブロードプログラム
LM-X-001	経営コミュニケーション特論
LM-X-002	経営コミュニケーション特別課外活動
LM-X-003	経営コミュニケーション特別課外活動
LM-X-004	経営コミュニケーション特別課外活動
LM-X-005	他学科開講科目群
LM-X-006	他大学開講科目群

経営コミュニケーション学科 専門科目の履修の流れ

経営コミュニケーション学科 学習・教育目標	
新しい経営スタイルを身につけた経営者や起業家等を目指せるように、経営、ICT（情報コミュニケーション技術）、社会情報、コミュニケーションの各側面から実践的な知識とスキルを身に付けさせる。	

必修科目 選択科目

科目群の学習・教育目標		
-------------	--	--

経営・経済科目群	経営	経営についての基本的な知識に始まり、組織を動かす人間の心理や組織をマネジメントするための体系的な知識を学ぶ。さらにこれらを踏まえて、組織論やマーケティング、戦略論といった、より専門的な科目について理解を深め、実践的な経験を積む。
	会計	組織をマネジメントする上で不可欠な会計学に関する概念について学ぶ。基本的な知識に続き、帳簿を作成するための技術を学んだ上で、それらを実際の企業経営に生かすための方法を体系的に修得し、同時に日商簿記の資格取得も視野に入れる。
	経済	経済学の理論面と実証分析面をバランスよく学ぶ。必要な数学的知識は「数学基礎」によりカバーするとともに、導入科目として経済学入門を開講し、各専門分野の学習に入りやすくした。社会現象を論理的に分析できるようになることを目指す。

コミュニケーション・心理科目群	ヒューマンコミュニケーション	人間の心理状況やその際の様々な行動特性との関係やコミュニケーション特性の知識をより深く学ぶことで、日常コミュニケーション領域でスキルを身に付ける。
	メディアコミュニケーション	メディアを通して伝わりやすいメッセージの作成と的確に伝える方法を学ぶだけでなく、実際に映像を作成することでメディアを通じて発信できるノウハウを身に付ける。
	ビジネスコミュニケーション	ビジネスでのコミュニケーションには、仕事が円滑化し成果を得るための「伝える（話す）能力」と「受け取る（聴く）能力」の2つが必要となる。それらを英語および日本語によって学び、国際人としてビジネス社会で活躍できる人材を目指す。

ICT・社会情報科目群	ICT	ビジネスに必要な情報処理についての知識とスキルを学習し、ICTを用いたコミュニケーション能力を身に付け、社会で即戦力として活躍できる人材を目指す。
	社会情報	経営コースとコミュニケーションコースに共通する課題発見とその解決能力、経営目標達成のための情報調査・情報処理能力を修得する。

地域志向・グローバル科目	地域志向	現況を理解した上で問題点を見出し自らその解決法を考え出す能力を身に付け、地域社会で即戦力として活躍できる人材を目指す。
	グローバル	「チャレンジ・アプロード・プログラム」による事前研修と現地研修を通じ、異文化理解を深め、コミュニケーション能力の向上をはかり、国際人としての自覚を持つ。

セミナー・研修科目群	セミナー・研修	個別の研修室でのセミナーおよび全体セミナーを通して、大学での生活を充実したものにする支援を受けるだけでなく、その学習を通して必要な社会人基礎力を身に付ける。さらに、卒業研修を通して4年間の学びを集大成する。
------------	---------	---

キャリア科目群	キャリアデザイン	一人一人の社会的・職業的自立に向け、基盤となる能力や態度を身に付けることを通じて、キャリア発達を目指す。
---------	----------	--

1年次		2年次		3年次		4年次	
前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
経営学入門	組織心理学 クリティカルシンキング	経営管理論 マーケティング論	経営組織論 イノベーション政策論	経営戦略論	人的資源管理論	ビジネスロールプレイング	
会計学入門	簿記論	財務会計論	財務管理論	中小企業会計論			
数学基礎	経済学入門	ミクロ経済学	環境経済学 マクロ経済学	日本経済論	組織の経済学 国際経済論	法と経済学	
コミュニケーション入門 心理学入門	対人コミュニケーション			異文化コミュニケーション 映像心理学	メンタルヘルスクア	身体表現研究	
英文法基礎	ドキュメントコミュニケーション	イングリッシュコミュニケーション	映像・イメージ学 パブリックスピーチ	映像制作実習Ⅰ ビジネスイングリッシュ	映像制作実習Ⅱ	交渉学	コーチング
		ICT入門	ネットワークとビジネス	データベースと経営	情報システム学	ICTビジネススキル	
		データ分析 社会調査Ⅰ	社会調査Ⅱ				
		地域創生論	経営コミュニケーション学 総合演習Ⅰ(地域連携科目)	経営コミュニケーション学 総合演習Ⅱ(地域連携科目)			
チャレンジアプロードプログラム							
経営コミュニケーションセミナーⅠ	経営コミュニケーションセミナーⅡ	経営コミュニケーションセミナーⅢ	経営コミュニケーションセミナーⅣ	経営コミュニケーション概論Ⅰ	経営コミュニケーション概論Ⅱ	経営コミュニケーション研修Ⅰ	経営コミュニケーション研修Ⅱ
				キャリアプランニング	経営コミュニケーションキャリアセミナーⅠ	経営コミュニケーションキャリアセミナーⅡ	

《履修ガイダンス・教育課程表》

経営コミュニケーション学科

・前文

企業や社会で活躍するためには、経営の知識は一つの武器になりますが、それだけでは不十分です。多くの人と関わりながら社会生活やビジネスを進めていくためにも周りの人と円滑なコミュニケーションを取れる能力が必要になります。

経営コミュニケーション学科では、経営に必要な知識（経済学・会計学などの周辺領域を含む）を学びながら、コミュニケーション能力（ヒューマンコミュニケーション・メディアコミュニケーション・ビジネスコミュニケーション）を養い、地域社会に貢献できる人材を育成することを目指しています。

1. カリキュラムの特徴

情報に関する基本的な素養を身につけた上で、経営学およびコミュニケーションの知識とスキルを学びます。本学科は、経営学についての学びを深める経営コースと、コミュニケーションについての学びを深めるコミュニケーションコースの2コースを設けています。1年次には、両コース共通の基盤となる情報、経営、コミュニケーションの入門科目を学習し、2年次に各コースに分かれます。

経営コース	コミュニケーションコース
事業に対する経営力と構想力に加え、経営目標達成のための判断力と情報調査・処理能力を養成します。	経営目標達成のための判断力と情報調査・処理能力に加え、組織と環境をマネジメントできるコミュニケーション能力を養成します。

2. キャリアガイダンス

本学科では、生きるための力を涵養する目的で、職業教育や就職支援を中心としたキャリアガイダンスを行います。具体的には、全体セミナー及び少人数セミナーで、しっかりした職業観、豊かな人間性、コミュニケーション能力を養います。

キャリアガイダンスの体系は以下の通りです。

- ・経営コミュニケーションセミナーⅠ・Ⅱ：大学生活の基礎力、学習スキル
- ・経営コミュニケーションセミナーⅢ・Ⅳ：自己理解、将来のイメージ
- ・経営コミュニケーションキャリアセミナーⅠ・Ⅱ：具体的な進路指導、就職試験対策
- ・経営コミュニケーション卒業研修Ⅰ・Ⅱ：大学で学んできたことの集大成、卒業後のキャリアの準備

3. 卒業研修について

本学科は卒業研修として、4年次前期に「経営コミュニケーション研修Ⅰ」、後期に「経営コミュニケーション研修Ⅱ」を設けています。「経営コミュニケーション研修Ⅰ」ではそれぞれの問題意識に従い、卒業研修の題目、目的、方法等の構想をまとめる段階まで実施します。「経営コミュニケーション研修Ⅱ」では、「経営コミュニケーション研修Ⅰ」でまとめた構想に基づき、それぞれの分野で研究を進め、その成果をまとめます。

4. 履修のためのガイド

3年次から4年次へ進級するときに進級条件があり、これを充足しないと進級できません。しかし、この進級条件は進級するための必要最小限の条件で、実際に修得できる単位数より低めに設定されているので、少し余裕を持った単位数修得をするよう心がける必要があります。単位数修得に関しては、以下の「学年毎の目標単位数」を参考にして履修計画を立ててください。

学年ごとの目標単位数（選択科目は「目標単位数／開講単位数」を示します）

	教養教育科目		専門教育科目		各学年の合計	1年次からの累計
	必修	選択	必修	選択		
1年次	10	6/11	24	2以上	42	42
2年次	1	7/19	10	22以上	40	82
3年次	1	8/29	4	26以上	39	121
4年次	－	－/2	6	4以上	10	131
卒業までの 総合計	12	21/61	44	54以上	131以上	
	33/73		98以上			

5. 環境教育について

1年次前期の「経営コミュニケーションセミナーⅠ」の中で、ISOに関する説明他、学科におけるISO14001に関する取り組みや専門分野との関わり等を講義します。

6. 教職課程について

経営コミュニケーション学科では、高等学校の「商業」の教育職員免許状を取得するための科目を履修することができます。

7. 地域志向科目

本学科では、地域社会で即戦力として活躍できる人材になるための能力を身に付けるために、2年次から3年次にかけて地域志向科目を開講します。この科目では、地域を活性化するための知識を学ぶだけでなく、プロジェクトを通して学んだことを実践することが可能になっています。

教育課程表における進級・卒業条件

経営コミュニケーション学科

◎4年次への進級条件

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	22 単位以上 必修 9 単位以上を含むこと	
専門教育科目	76 単位以上 必修 32 単位以上を含むこと	
計	全体として 98 単位以上	

◎卒業に要する最低修得単位数

区 分	内 容	備 考
教養教育科目	26 単位以上 必修 12 単位を含むこと	
専門教育科目	98 単位以上 必修 44 単位を含むこと	
計	124 単位	

教育課程表と学士力対応表

経営コミュニケーション学科 教養教育科目

本学の「共通学士力」(本学の全学生が身に付けるべき学士力)	
共通学士力	学修成果(到達目標)
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

・単位数と学修時間(授業時間数及び自習時間数)

学修時間については学則第10条に以下の記載があります。(詳細はP.4“単位制と授業時間について”参照)

<p>第10条 教育課程表に示す各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算する。</p> <p>(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。</p> <p>ただし、個人指導による実技の授業については、別に定める時間の授業をもって1単位とする。</p> <p>2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学習の成果を評価して単位を与える。単位数はこれらに必要な学修等を考慮して定める。</p>

1単位あたり45時間の学修時間が求められるため、概ね下表の通り「授業時間外」での予習・復習等の「自習時間」が必要となります。予習・復習等の自習に要する標準時間は、シラバスの「授業計画」内にある「授業方法及び学習課題(予習・復習)」欄に記載してありますので、各授業科目の教員の指導に沿い、必要な自主学習時間を取るよう努めてください。

【単位数と授業時間数・自習時間数】

授業形態	単位数	週授業時間数		自習時間数
講義	2単位(90時間)	1コマ/週(計30時間)	+	60時間/14週
演習・実習	1単位(45時間)	1コマ/週(計30時間)	+	15時間/14週

授業は、1講時100分の授業が半期14週で行われます。時間の計算は、45分の授業を1時間相当とみなし計算しますので、100分授業の授業時間は2.2時間相当とみなします。従いまして、講義2単位の科目は、教室で30時間分の授業と60時間の自習(予習・復習)時間が必要となりますので、週当たりの学修時間は、おおよそ6時間30分となります。

教育課程表と学士力対応表

経営コミュニケーション学科 専門教育科目

経営コミュニケーション学科の学位授与方針

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本学科の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（経営コミュニケーション）」の学位を授与する。

本学の「共通学士力」（本学の全学生が身に付けるべき学士力）

共通学士力	学修成果（到達目標）
①情報収集・分析力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
②論理的思考力	
③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

経営コミュニケーション学科の「専門学士力」（経営コミュニケーション学科の学生が身に付けるべき学士力）

専門学士力	学修成果（到達目標）
①経営学的理解・分析力	経営・組織マネジメント・マーケティングなどの専門的な知識を身に付け、組織を作りマネジメントすることができる。
②会計学的理解・分析力	会計学についての知識と技術を身に付け、会計情報の作成プロセスを理解して、適正な意思決定ができる。
③経済学的理解・分析力	理論・実証・歴史の側面から経済学を学び、社会現象を論理的に把握し、分析することができる。
④ヒューマン コミュニケーション能力	心理学と対人コミュニケーションの専門知識を身に付け、良好な対人関係を構築し、周囲の人々と共生できる。
⑤ビジネス コミュニケーション能力	ロジカルシンキングの知識とスキルを身に付け、論理的なメッセージを構築して、発信できる。
⑥メディア コミュニケーション能力	情報技術を用いたメッセージの作成と伝達手法の知識を身に付け、メディアを通して、メッセージを発信することができる。
⑦ICTを用いた調査分析能力	情報を収集し、処理する能力を身に付け、経営目標達成のための判断ができる。

ライフデザイン学部

卒業後等の取得資格

○卒業後等の取得資格

※受験資格や試験免除条件が変更となる場合がありますので、最新の情報を各種資格のホームページで確認して下さい。

ライフデザイン学部 生活デザイン学科

【大学卒業で受験資格が得られる】

◦ 二級建築士，木造建築士

令和2年度以降に入学した学生で、別表1-1の指定科目を修得した者は、実務経験なしで受験資格が得られる。但し、「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」の発行を大学に申し込まなければならない。

【大学卒業後の実務経験で得られる受験資格】

◦ 1・2級建築施工管理技士

令和2年度以降に入学した学生は、建築施工の実務経験（1級3年以上，2級1年以上）により受験資格が得られる。

なお、実務経験の内容によっては、建設機械，土木，電気工事，造園の各施工管理技士の受験資格を得ることが可能である。

【在学中でも得られる資格試験及び一部免除】

◦ 商業施設士補

（公益社団法人）商業施設技術団体連合会から本資格の認定校に指定されており，学科の3年次前期までの専門科目を修得した時点において，指定された講習を受講することで，本資格を取得できる。

◦ 商業施設士

3年次に商業施設士補の資格を取得した場合，最短で4年次に受験資格が得られる。商業施設士補の資格保有者は，商業施設士試験の学科試験が免除される。また，一・二級建築士，木造建築士を資格保有者は，学科試験『施設と設計』の科目が免除される。商業施設士補の資格を取得していない場合は，課程を修め，実務に1年以上従事したのちに，受験資格を取得できる。

別表1-1 令和2年度以降入学生二級建築士・木造建築士の受験に必要な生活デザイン学科の授業科目

指定科目の分類 (指定単位数)	対応する生活デザイン学科の授業科目			
二級・木造	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
①建築設計製図 実務0～2年：5単位以上 実務3～5年：3単位以上	設計基礎演習	1後	選択	2
	設計CAD演習Ⅰ	2前	選択	2
	住まいのデザイン実習Ⅰ	2後	選択必修	3
	住まいのデザイン実習Ⅱ	3前	選択必修	3
	建築デザイン演習	3前	選択	2
	設計CAD演習Ⅱ	3後	選択	2
単位数小計 14				
②建築計画 ③建築環境工学 ④建築設備 実務0～2年：7単位以上 実務3～5年：2単位以上	住まいの計画	1前	必修	2
	住まいの造形意匠	1後	選択	2
	インテリアデザイン	2前	選択	2
	ユニバーサルデザイン	2後	必修	2
	住まいの文化史	2後	選択	2
	住環境の基礎科学	2前	必修	2
	住まいの環境工学	2後	選択	2
	住まいの設備計画	3前	選択	2
単位数小計 16				
⑤構造力学 ⑥建築一般構造 ⑦建築材料 実務0～2年：6単位以上 実務3～5年：3単位以上	住まいの構造と材料	1前	必修	2
	住まいの力学基礎	1後	選択	1
	住まいの構造力学	2前	選択	2
	住まいの材料実験Ⅰ	3前	選択	1
	住まいの材料実験Ⅱ	3後	選択	1
単位数小計 7				
⑧建築生産（1単位以上）	住まいの施工と積算	4前	選択	2
単位数小計 2				
⑨建築法規（1単位以上）	都市と住宅の法制度	3後	選択	2
単位数小計 2				
⑩その他（適宜）	地域計画概論	1前	必修	2
	デザイン基礎演習	1前	必修	2
	生活学演習	1後	必修	2
	地域防災論	2前	必修	2
	ランドスケープデザイン	3前	必修	2
	福祉住環境	2前	選択	2
	都市計画	3前	選択	2
単位数小計 14				
41	①～⑨の単位数合計			
55	総単位数（①～⑩の単位数合計）			

全学部共通

教育職員課程

東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程

第1条 学則第42条の規定に基づく教育職員免許状の取得に要する授業科目の履修に関しては、この規程の定めるところによる。

第2条 本学で取得できる免許状の種類及び免許教科は学則第42条に定めるとおりであるが、その修得に関する授業科目及び単位については次のとおりである。

令和5年度入学生から適用

全学部 教育の基礎的理解に関する科目等及びその他の関連科目

「工業」・「情報」・「商業」の免許状取得に必要な科目

区 分	授 業 科 目	単 位		各期の毎週授業時間数									
				1 年		2 年		3 年		4 年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	2		2									
	教育心理学	2		2									
	教育制度論	2			2								
	特別支援教育	1			1								
	教育課程論	2				2							
	教育原理	2				2							
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導・教育相談に関する科目	生徒・進路指導論	2			2								
	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	2				2							
	教育相談	2				2							
	教育の方法及び技術（情報通信技術の活用含む）	2				2							
教育実践に関する科目	教育実習	2									6		
	教育実習事前・事後指導 *1	1									2		
	教職実践演習（高）	2										2	
その他の関連科目	日本国憲法	2						2					
	健康・運動科学実習Ⅰ	1		2									
	健康・運動科学実習Ⅱ	1			2								
	英語ⅠA	1		2									
	英語ⅠB	1			2								
	プログラミングⅠ（電気電子）	2		2									
	プログラミング入門（情報通信）	3		4									
	CE コンピュータ基礎（都市マネジメント）	1		2									
	CE-CAD（都市マネジメント） *2	1			2								
	情報リテラシー（環境応用化学）	2		2									
建築CAD（建築）	2			2									
ネットワーク・コンピュータ基礎（ライフデザイン学部）	2		2										

*1 教育実習事前・事後指導は、3年後期から4年にかけて実施する。

*2 の科目については当該学部・学科の科目を2単位以上修得のこと。

教科及び教科の指導法に関する科目のうち、各教科の指導法

「工業」・「情報」・「商業」の免許状取得に必要な科目

区 分	授 業 科 目	単 位		各期の毎週授業時間数									
				1 年		2 年		3 年		4 年			
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	工業科教育法A（「工業」免許必修）	2						2					
	工業科教育法B（「工業」免許必修）	2							2				
	情報科教育法A（「情報」免許必修）	2						2					
	情報科教育法B（「情報」免許必修）	2							2				
	商業科教育法A（「商業」免許必修）	2						2					
	商業科教育法B（「商業」免許必修）	2								2			

工学部 電気電子工学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2	教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2	「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと	
		電気回路Ⅰ及び同演習	3			工業科教育法B	2		
		電気回路Ⅱ及び同演習	3						
		電磁気学Ⅰ	2						
		電気回路Ⅲ	2						
		電磁気学Ⅱ	2						
		固体電子工学Ⅰ	2						
		電気電子計測	2						
		電子回路Ⅰ	2						
		電気電子工学実験Ⅱ	3						
		電気回路Ⅳ	2						
		固体電子工学Ⅱ	2						
		電子回路Ⅱ	2						
		電力工学概論	2						
		電気機械工学	2						
		電気電子材料	2						
		バイオ・光エレクトロニクス	2						
		電気法規	2						
	職業指導	職業指導(工業) *	2						

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

「情報」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	情報社会 (職業に関する 内容を含む。) ・情報倫理	情報社会とモラル *	2	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的 事項	情報通信 ネットワーク	コンピュータネットワーク *	2	「情報科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと	
		コンピュータアーキテクチャⅢA	2			電気電子工学実験Ⅲ	3			
		コンピュータアーキテクチャⅢB	2							
		情報と職業 *	2							
		産業社会と倫理	2							
	コンピュータ ・情報処理	デジタル回路	2			いずれか1科目 選択必修	マルチメディア 表現 ・ マルチメディア 技術	マルチメディアシステム *		2
		プログラミングⅠ	2					アルゴリズム基礎		2
		プログラミングⅡ	2					数値計算法		2
		コンピュータアーキテクチャⅡA	2					CAD製図		1
		コンピュータアーキテクチャⅡB	2							
	情報システム	電気電子工学実験Ⅰ	3			いずれか1科目 選択必修	各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)	情報科教育法A		2
		センサ工学	2					情報科教育法B		2
		制御工学	2							
		ロボティクス	2							

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「情報」の免許状取得希望者は必修科目です。

工学部 情報通信工学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2	選択科目のうち いずれか4単位 選択必修	各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)	工業科教育法A	2	「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと	
		情報リテラシーⅠ	1			工業科教育法B	2		
		電気回路入門	2						
		電気数学	2						
		電磁気学Ⅰ	2						
		情報通信工学実験Ⅰ	3						
		電気回路Ⅱ及び同演習	3						
		電磁気学Ⅱ	2						
		情報通信工学実験Ⅱ	3						
		電子回路Ⅰ及び同演習	3						
		通信システムⅠ	2						
		半導体デバイス	2						
		電子回路Ⅱ	2						
		音響工学	2						
		光通信工学	2						
職業指導	職業指導(工業) *	2							

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

「情報」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考		
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択			
教科及び教科の指導法に関する科目	情報社会 (職業に関する 内容を含む。) ・情報倫理	情報社会とモラル *	2	教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)	コンピュータネットワークⅠ	2	「情報科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと			
		情報と職業 *	2			情報通信ネットワーク	通信システムⅡ		2		
		産業社会と倫理	2				情報通信工学実験Ⅲ		3		
		コンピュータ ・ 情報処理	情報工学入門			2			マルチメディア 表現 ・ マルチメディア 技術	コンピュータグラフィックス技術 *	2
			論理回路			2				アプリケーション開発	2
			アルゴリズムとデータ構造及び同演習			3				コンピュータ数値解析	2
			計算機工学Ⅰ			2					
			組込みシステム設計			2					
			計算機工学Ⅱ			2					
			ソフトウェア設計			2					
		情報システム	情報リテラシーⅡ			2				情報科教育法A	2
			データベース *			2				情報科教育法B	2
			情報理論			2					

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「情報」の免許状取得希望者は必修科目です。

工学部 都市マネジメント学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2		教科及び教科の指導法に関する科目	
		空間測量Ⅰ	2			工業科教育法B	2			
		空間測量実習	2							
		環境・防災工学	2							
		コンクリート	2							
		構造力学基礎Ⅰ	2							
		鉄筋コンクリートⅠ	2							
		水理学基礎Ⅰ	2							
		基礎地盤工学	2							
		水理学基礎Ⅱ	2							
		鉄筋コンクリートⅡ		2						
		応用地盤工学		2						
		数理的計画論		2						
		都市計画		2						
		CE実験Ⅰ	2							
		交通計画		2						
		社会基盤マネジメント	2							
空間測量Ⅱ	2									
職業指導	職業指導 (工業) *	2		「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと						

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

工学部 環境応用化学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2	選択科目のうち いずれか4単位 選択必修	各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)	工業科教育法A	2	「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと	
		物理化学 I	2			工業科教育法B	2		
		有機化学	2						
		分析化学 I	2						
		化学工学	2						
		無機化学	2						
		分析化学 II	2						
		循環型社会形成論	2						
		環境マネジメント	2						
		地球環境科学基礎	2						
		大気環境工学	2						
		環境化学	2						
		表面化学	2						
		熱力学	2						
		地域環境調査法及び同演習	3						
		水環境工学	2						
		計測工学	2						
		土壌環境工学	2						
		電気化学	2						
	機能材料	2							
緑地環境工学	2								
資源循環とライフサイクルアセスメント	2								
職業指導	職業指導 (工業) *	2							

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

建築学部 建築学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2	教科及び教科の指導法に関する科目	
		建築入門	2			工業科教育法B	2		
		建築表現	1						
		建築設計 I	2						
		建築材料 I	2						
		建築環境工学概論	2						
		建築CAD	2						
		建築計画 I	2						
		ヨーロッパ建築史	2						
		建築材料 II	2						
		骨組の力学 I	2						
		日本建築史	2						
		建築材料実験 I	1						
		熱・空気環境	2						
		骨組の力学 II	2						
		建築計画 III	2						
		建築法規及び同演習	3						
		建築設備システム及び同演習	3						
		建築プロフェッショナル論	2						
	都市計画	2							
職業指導	職業指導 (工業) *	2		「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと					

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

ライフデザイン学部 産業デザイン学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2		教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2	「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと
		デザイン論Ⅰ	2				工業科教育法B	2	
		デザイン史	2						
		デザイン論Ⅱ	2						
		色彩論	2						
		デザイン論Ⅲ	2						
		エディトリアルデザイン論	2						
		情報デザイン論	2						
		材料学・生産技術	2						
		インタラクションデザイン論 *	2						
		エルゴノミクス *	2						
		ユニバーサルデザイン *	2						
		音と動きのデザイン *	2						
		デザインマーケティング論 *	2						
		工芸学 *	2						
	職業指導	職業指導 (工業) *	2						

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

ライフデザイン学部 生活デザイン学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「工業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		
教科及び教科の指導法に関する科目	工業の 関係科目	工業概論 *	2		各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	工業科教育法A	2		教科及び教科の指導法に関する科目	
		地域計画概論	2			工業科教育法B	2			
		地域防災論	2							
		福祉住環境		2						
		ユニバーサルデザイン	2							
		地域産業論	2							
		住まいの計画	2							
		住まいの構造と材料	2							
		住環境の基礎科学	2							
		生活学演習	2							
		地域調査演習	2							
		デザイン基礎演習	2							
		復旧復興まちづくり		2						
		NPO 論		2						
		住まいの造形意匠		2						
		インテリアデザイン		2						
		住まいの文化史		2						
		住まいの施工と積算		2						
		住まいの環境工学		2						
		地域環境の保全とエネルギー		2						
設計 CAD 演習 I		2								
設計 CAD 演習 II		2								
職業指導	職業指導 (工業) *	2		「職業指導」「工業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと						

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「工業」の免許状取得希望者は必修科目です。

ライフデザイン学部 経営コミュニケーション学科

教科及び教科の指導法に関する科目

「商業」の免許状取得に必要な科目及び教職課程履修者の単位数

※下線科目：一般的包括的科目

施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考	施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		備 考
科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択		科目区分	各科目に含めることが必要な事項	授 業 科 目	単位数 必修 選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	商業の 関係科目	経営学入門	2	選択科目のうち いずれか4単位 選択必修	各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)	商業科教育法A	2	「職業指導」「商業科教育法A・B」を含め、36単位以上修得のこと	
		会計学入門	2			商業科教育法B	2		
		経済学入門	2						
		統計学入門	2						
		簿記論	2						
		経営管理論	2						
		マーケティング論	2						
		ドキュメントコミュニケーション	2						
		財務会計論	2						
		ミクロ経済学	2						
		データ分析	2						
		社会調査I	2						
		イノベーション政策論	2						
		財務管理論	2						
		マクロ経済学	2						
		ネットワークとビジネス	2						
		ビジネスイングリッシュ	2						
		データベースと経営	2						
ビジネスロールプレイング	2								
職業指導	職業指導(商業) *	2							

注意：*の科目は学科では選択科目ですが、「商業」の免許状取得希望者は必修科目です。

◇科目ナンバリングについて

1. 科目ナンバリングの配列

1 段目		2 段目		3 段目	
部科区分	科目区分	-	分野	-	学習進度+通し番号
F	Z	-	Z	-	201
FZ-Z-201					

※全学部「教育制度論」（1 年次後期開講）の例

2. 科目ナンバリングの凡例

1 段目 (部科区分)	
F	工学部／建築学部／ライフデザイン学部
EACS	工学部全学科／建築学部 産業デザイン学科／生活デザイン学科
ET	電気電子工学科／情報通信工学科
MC	経営コミュニケーション学科
(科目区分)	
Z	教職科目

2 段目 (分野)	
Z	教職科目

3 段目 (学習進度+通し番号)	
100 番台	開講セメスター 1 クラスレベル
200 番台	開講セメスター 2 クラスレベル
300 番台	開講セメスター 3 クラスレベル
400 番台	開講セメスター 4 クラスレベル
500 番台	開講セメスター 5 クラスレベル
600 番台	開講セメスター 6 クラスレベル
700 番台	開講セメスター 7 クラスレベル
800 番台	開講セメスター 8 クラスレベル
000 番台	その他 (レベル分けができない科目, 例:特別課外活動)

本学では、授業科目に適切な番号を付し分類する「科目ナンバリング」を導入しています。

学部・学科ごとに授業科目の難易度に基づく学習の段階や順序を整理していますので、履修科目を選択する際などに利用してください。

3. 各科目の科目ナンバリング

科目 No.	科 目 名	各期の毎週時間数							
		1 年		2 年		3 年		4 年	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
FZ-Z-101	教職概論	2							
FZ-Z-102	教育心理学	2							
FZ-Z-201	教育制度論		2						
FZ-Z-202	特別支援教育		1						
FZ-Z-301	教育課程論			2					
FZ-Z-302	教育原理			2					
FZ-Z-303	生徒・進路指導論			2					
FZ-Z-401	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法				2				
FZ-Z-402	教育相談				2				
FZ-Z-403	教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)				2				
EACSZ-Z-501	工業科教育法 A					2			
ETZ-Z-502	情報科教育法 A					2			
MCZ-Z-501	商業科教育法 A					2			
EACSZ-Z-601	工業科教育法 B						2		
ETZ-Z-602	情報科教育法 B						2		
MCZ-Z-601	商業科教育法 B						2		
FZ-Z-701	教育実習							6	
FZ-Z-702	教育実習事前・事後指導							2	
FZ-Z-801	教職実践演習 (高)							2	

教職課程の履修要項

教育職員免許状を取得するためには、教育職員免許法および教育職員免許法施行規則に基づき、東北工業大学学則第42条、並びに教育職員免許状取得に関する履修規程によって設置された教職課程について、所定の単位を修得する必要があります。

教職を希望する学生は、以下に示す教職課程の履修要項を熟読の上、間違いのないよう十分に注意することが必要です。

I. 本学において取得できる免許状の種類および免許教科は次のとおりです。

免許状の種類	免許教科の種類	学 科
高等学校教諭一種免許状	工 業	電気電子工学科 情報通信工学科 都市マネジメント学科 環境応用化学科 建築学 産業デザイン学科 生活デザイン学科
	情 報	電気電子工学科 情報通信工学科
	商 業	経営コミュニケーション学科

II. 上記の免許状を取得するには、東北工業大学教育職員免許状の取得に関する履修規程に定める授業科目を履修し、所定の単位を修得する必要があります。

III. 「教育実習」について

教育実習は、教職に携わることを望む学生が、大学の授業を通しては容易に得ることのできない教職の専門性に関する能力、とりわけ教科授業に関する指導法を、直接教育の現場において、生徒に対する具体的な指導を通して体験的・総合的に理解し、集中的に身につけ、教員になるための能力や適性を考えるとともに課題を自覚することを目的として実施される科目です。教育実習は4年次に課せられており、これまでの教職課程の学修を生かして行うものです。

① 教育実習は、次の要件を充足し、履修適格者と認定された者だけが対象となります。

(i) 3年次後期終了時までにより下記の科目をすべて修得する必要があります。

・教育の基礎的理解に関する科目等及びその他の関連科目

区分	教育の基礎的理解に関する科目
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導・教育相談に関する科目

・教科及び教科の指導法に関する科目

区分	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）
----	------------------------

(ii) 次の成績要件を充足する必要があります。

2年次後期終了時までの全履修科目の累積GPA値※が2.30以上であること。

※この要件は、令和5年度入学生より適用されます。

令和4年度以前入学生は入学時に配付された学生便覧を確認してください。

※GPAについて…

『GPA (Grade Point Average)』とは、成績を5段階で評価した値の平均値であり、以下の式により計算します。なお、詳細については、本学生便覧の15ページを参照してください。

【成績5段階評価の区分】

成績	Grade	Grade Point
90～100点	A	4.00
80～89点	B	3.00
70～79点	C	2.00
60～69点	D	1.00
不可・不適	F	0.00

【GPAの計算式】

$$GPA = \frac{(4 \times A \text{の修得単位数}) + (3 \times B \text{の修得単位数}) + (2 \times C \text{の修得単位数}) + (1 \times D \text{の修得単位数})}{\text{履修登録科目の単位数 (Fの科目も含む)}}$$

- ② ①の履修要件を満たし、教育実習の履修を希望する場合、3年次の6月までに、教育実習予備登録(実習希望校調査)の手続きをしてください。
- ③ 教育実習の実習内諾を得るまでの交渉は本人が行いません。
実習内諾を得るための高校訪問等は、高校に連絡のうえ、できるだけ3年次の早い時期に行なってください。
- ④ 教育実習は、都道府県教育委員会、当該高等学校の協力を得て行なわれます。当初の予定を変更した場合、これら関係機関に多大の迷惑をかけることになりますので、実習申込み後の自己の都合や履修状況による実習辞退は極力回避するよう努めてください。万が一、予定を変更せざるをえない場合には、総合教育センター(教職担当)に直ちに相談してください。

IV. 教育職員免許状の申請手続きと授与

教育実習を修了し、取得しようとする免許種の必要単位を充足し、免許状の出願をすることによって、卒業時に免許状が授与されます。

教育職員免許状の申請手続きについては、別途、学生サポートオフィス(教務学生課)より案内をします。

V. 教職に関する相談について

教職に関する事務的事項については学生サポートオフィス(教務学生課)および総合教育センター(教職担当)が行い、学生に対する諸連絡はポータルサイトや、てくポ等において指示しますので常に注意してください。

教育職員免許状の取得、教育実習、その他教職に関する相談については、教職科目担当教員が、随時対応しています。

《教職課程年間スケジュール》

実施時期	説明会および手続き	対象学年
4月上旬	オリエンテーション (教職課程の説明…所属学科・総合教育センター(教職担当))	1学年
4月中旬	履修登録	全学年
4月中旬 ～5月	教育実習ガイダンス, 事前指導 次年度実習希望者は, 実習希望校を訪問し, 内諾を得る	4学年 3学年
5月上旬 ～10月下旬	教育実習(2週間または3週間)	4学年
6月中旬 ～7月下旬	次年度教育実習希望者に対し, 実習希望校への本学からの依頼状交付	3学年
9月下旬～ 10月上旬	履修登録	全学年
11月～	教職課程のための学習ポートフォリオの作成	1～4学年
12月上旬	教育職員免許状申請書類を学生サポートオフィス(教務学生課)に提出	4学年
3月初旬	免許状申請書類を大学がとりまとめ, 一括して, 宮城県教育委員会に提出	4学年
3月中旬	教育職員免許状交付	4学年
3月下旬	教育実習履修者決定	3学年

* 諸行事への欠席, あるいは提出書類が遅れる場合は, 必ず事前に学生サポートオフィス(教務学生課)あるいは総合教育センター(教職担当)に申し出て指示を受けてください。

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

電気電子工学科の教員養成の目標
工業・情報の領域の確かな基礎を持ち、新しい技術に柔軟に対応でき、コミュニケーション能力を備えた教員の養成を目標とする。

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教育の基礎的理解に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学	特別支援教育	教育原理	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法				
教育実践に関する科目			生徒・進路指導論	教育相談				
				教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

教科専門科目(工業)	工業科教育法 A		工業科教育法 B					
	各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 教科に関する専門的事項 職業指導	電気回路Ⅰ及び同演習	電気回路Ⅱ及び同演習	電気回路Ⅲ	電子回路Ⅰ			
		電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電子回路Ⅱ				
		固体電子工学Ⅰ	固体電子工学Ⅱ	電気機械工学				
		電気電子計測	電気電子工学実験Ⅱ	電気電子材料				
			電力工学概論	バイオ・光エレクトロニクス				
			工業概論*	電気法規				
			職業指導(工業)*					
教員養成の計画	後期は、電気電子分野の基本となる直流回路および交流回路の基礎知識を講義と演習を通じて習得する。		前期は、実際の交流回路の解析法を習得するとともに、電磁気学の考え方とベクトル解析手法を身につける。後期は、二端子対回路および過渡現象の解析法を習得するとともに、変動する電磁場の基礎、および、量子力学の概念を理解する。		前期は、電子デバイスの基本動作を理解するとともに、計測機器を用いた実験により電気・電子回路について理解を深め、さらに結果の整理・報告を通じて文章作成能力を養う。後期は、電子機器の基本的な動作原理を理解する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は、専門性の高い科目および電気法規について学ぶと共に、研修実験を通して問題解決能力を身につける。後期は、研修論文のまとめを通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけ、4年間の学習を統合する。	

教科専門科目(情報)	情報科教育法 A		情報科教育法 B					
	各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 情報社会(職業に関する内容)・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術	プログラミングⅠ	プログラミングⅡ	コンピュータアーキテクチャⅡ A/B	デジタル回路			
	※その他の関連科目	コンピュータアーキテクチャⅡ A/B	コンピュータネットワーク*	電気電子工学実験Ⅰ				
		アルゴリズム基礎	数値計算法	制御工学				
				センサ工学				
				電気電子工学実験Ⅲ				
				マルチメディアシステム*				
				CAD製図				
				ロボティクス				
教員養成の計画	前期は、コンピュータ・情報処理の分野で必要となるプログラム文法の基礎知識を習得する。後期は、デバッグ手法の学習によりプログラム開発能力を身につけるとともに、システムソフトウェアの基礎知識を修得する。		前期は、情報システムにおける経営および技術マネジメントの考え方を理解する。後期は、デジタル回路で必要となる数体系と論理代数、および、コンピュータネットワークの仕組みを理解するとともに、演習や実験によって技能の習得に努める。		前期は、デジタル技術に基礎をおくマルチメディアの概念を理解するとともに、日本工業規格に基づく製図の知識を習得する。後期は、実験によって講義内容の理解を深め、さらに結果の整理・報告を通じて文章作成能力を養う。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		専門性の高い科目について学ぶと共に、研修実験を通して問題解決能力を身につける。後期は、研修論文のまとめを通じて、コミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を身につけ、4年間の学習を統合する。	

大学の教員養成の目標	情報通信工学科の教員養成の目標
<p>東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力を行うことができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。 	<p>工業・情報の領域の確かな基礎を持ち、幅広い視野と高い倫理観を持った、情報処理に秀でた教員の養成を目標とする。</p>

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目 教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 教育実践に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)			教育実習 事前・事後指導 教育実習	教職実践演習(高)
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

教科専門科目(工業) 各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 教科に関する専門的事項 職業指導	情報リテラシー I		電気回路入門		電気数学		電磁気学 I		電磁気学 II		音響工学	
	教員養成の計画	前期は情報リテラシーとプログラミング技術についての知識と技能を習得する。後期は、電気回路の基礎について学ぶ。		前期は電気現象の数学的扱いについて学ぶ。後期は、電気回路及び電子回路の基礎知識を学ぶと同時に、演習や実験を通じて回路設計の技能を習得し、講義内容の理解を深める。		前期は、通信技術や半導体の基礎を学ぶと同時に、実験を通じて結果を整理・報告する能力の涵養を図る。後期は、電子回路の設計理論について理解を深める。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は、専門性の高い各論として光通信工学や音響工学等について学ぶ。それと合わせて前期・後期を通して、卒業研修を実施することで、問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を習得し、4年間の学習を統合する。				

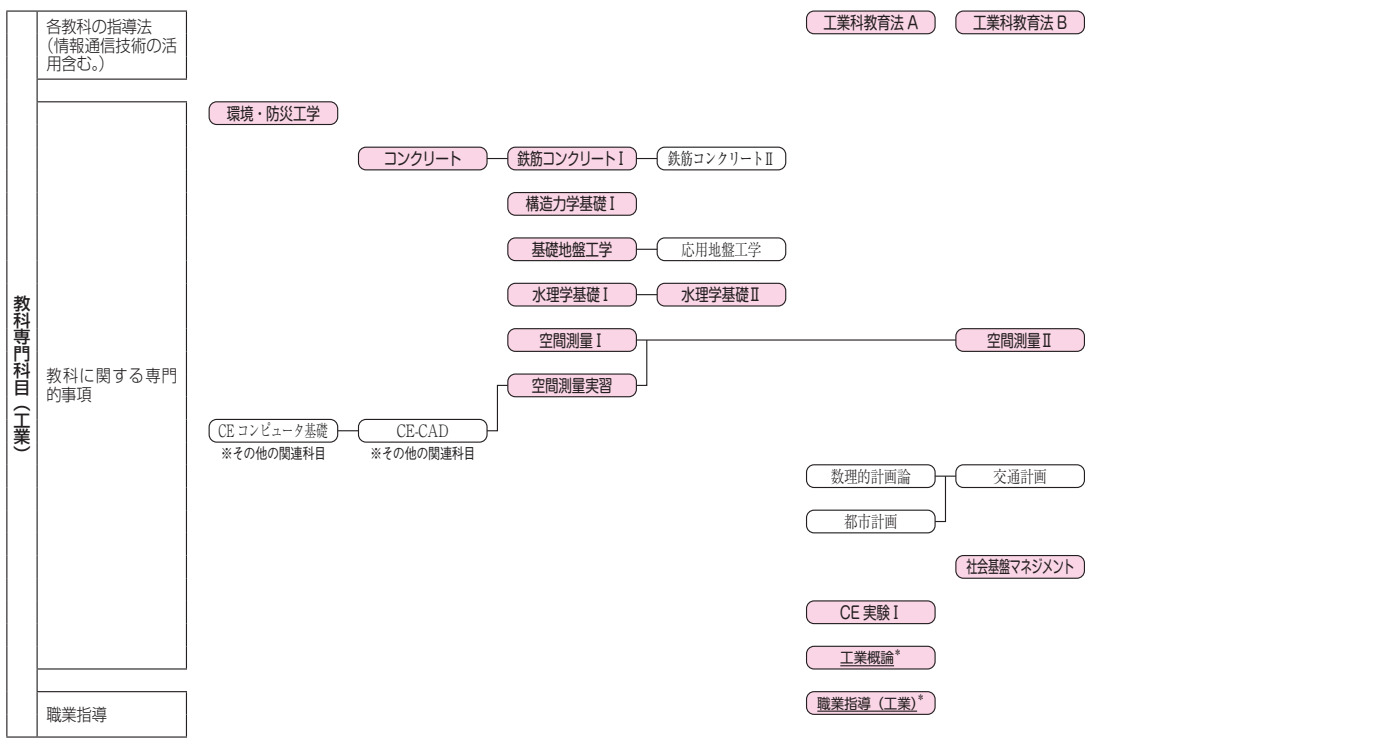
教科専門科目(情報) 各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 情報社会(職業に関する内容)・情報倫理 コンピュータ・情報処理 情報システム 情報通信ネットワーク マルチメディア表現・マルチメディア技術	情報工学入門		論理回路		ソフトウェア設計		情報科教育法 A		情報科教育法 B		情報社会とモラル*	
	教員養成の計画	前期は、情報工学の基礎として、コンピュータにおける情報の表現について学ぶ。後期は、コンピュータハードウェアとプログラミングの基礎を学び、それを基にコンピュータネットワークを構築するための知識と技能を習得する。		前期は、情報を構造化するデータベースの基礎について学ぶ。後期は、ソフトウェアの設計手法ならびに数値データの解析技術について知識と技能を習得する。		前期は、コンピュータグラフィックスの作成やアプリケーション開発に関する技術等を学ぶ。後期は、情報理論や通信システムで扱う情報の伝送方法について学ぶ。前期と後期を通して、計算機や組み込みシステムの設計理論を学び、それと合わせて教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期・後期を通して、卒業研修を実施することで、問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を習得し、4年間の学習を統合する。				

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。	
1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。	
2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	
3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。	
4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

都市マネジメント学科の教員養成の目標	
工業の領域の確かな基礎を持ち、高い良識と倫理観を持った、都市や地域社会のマネジメントに関わる高度な知識と能力を有する教員の養成を目標とする。	

〔必修科目〕 〔選択科目〕 ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育制度論	教育課程論	教育原理				
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学 特別支援教育	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談				
	教育実践に関する科目			教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			教育実習 事前・事後指導	教職実践演習(高)
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



教員養成の計画	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
専門科目にかかわる工業・情報の領域の基礎を築くために、前期は、環境と防災分野の基礎と、情報の基礎的なリテラシーを学ぶ。後期は、材料の基礎と、設計に必要な CAD 技術を学ぶ。		各専門分野の基礎を築くために、前期は、材料力学および構造力学、地盤工学、水理学、測量学の基礎を学ぶと共に、空間測量実習により具体的な技術を習得する。後期は、水理学の基礎に加えて、材料力学と地盤工学の応用分野についても理解を深める。	前期は、都市や交通の計画論の基礎および工業概論と工業科の職業指導について学ぶとともに、実験により専門分野を実践的に学ぶ。後期は、交通の計画論とマネジメント論に加えて測量学の応用について理解を深める。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期と後期を通じて、研修への取り組みを通して専門分野に係る現実の社会問題を把握し、それを契機として自己啓発や相互理解と協力を努め卒業論文をまとめることにより、4年間の学習を統合する。

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

環境応用化学科の教員養成の目標	
持続可能な社会の構築に向け、応用化学の発展と地球環境保全の調和をめざす高度の解析処理能力を基盤とした視野の広い工業教育を行う教員を養成することを目標とする。	

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理	生徒・進路指導論 特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)			
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目							
	教育実践に関する科目						教育実習 事前・事後指導 教育実習	教職実践演習(高)
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

区分	工業科教育法 A		工業科教育法 B	
	各教科の指導法(情報通信技術の活用含む)			
教科に関する専門的事項	物理化学 I	有機化学	分析化学 I	分析化学 II
	化学工学			
教科専門科目(工業)	環境化学	表面化学	熱力学	計測工学
	電気化学	機能材料		
	無機化学			
	循環型社会形成論	環境マネジメント	地球環境科学基礎	地域環境調査法及び同演習
	大気環境工学	水環境工学	土壌環境工学	緑地環境工学
	資源循環とライフサイクルアセスメント			
	情報リテラシー ※その他の関連科目			
	工業概論*			
	職業指導(工業)*			
	職業指導			

教員養成の計画	前期は、工学・工業の社会における役割と問題点を、応用化学と環境学の基礎講義を通して理解する。後期は、科学技術者としての倫理観を学び化学物質の社会に与える影響を理解し、持続可能な社会のために必要な仕組みを理解する。	前期は、分析化学の科目を通して分析機器の原理を理解し、物質や環境を分析する基礎知識を習得する。後期は地域環境調査法の科目を通して環境調査の手法を学び、実技分野に必要な基礎知識を身につける。また、専門的な内容を誰にでもわかり易くする説明する能力と論理的な受け答えをする能力を身につける。	前期は、計測に関連する科目を通して多角的に化学的現象を理解・解釈する能力と理解した物事の記述やまとめを行う能力を身につける。後期は、材料に関連する科目を通して材料や化学関連技術が環境・エネルギー問題の解決や持続可能な社会を支える必要要素であることを学び、応用化学技術者を育成する責任の重要性を理解する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は、科目の総まとめを踏まえて、研修に取り組み、バランスのとれた実践力を身につける。また、学会や科学イベントなどへの参加により、地域との繋がりを実感するとともに化学の魅力を高中生や中学生に伝える方法を身につける。後期は、研修のとりまとめを通して問題の発見と解決による自発的な課題への取り組みを実践し、4年間の学習を統合する。
---------	--	--	--	---

大学の教員養成の目標	建築学科の教員養成の目標
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	工業の領域の確かな基礎を持ち、総合的な視野と高い倫理観を備えた、建築に秀でた教員の養成を目標とする。

必修科目
選択科目
 ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目 教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 教育実践に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			教育実習 事前・事後指導 教育実習	教職実践演習(高)
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

教科専門科目(工業) 各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 教科に関する専門的事項 職業指導	工業科教育法 A		工業科教育法 B	
	建築入門 建築設計 I 建築計画 I 建築表現 建築材料 I 骨組の力学 I 建築環境工学概論	建築設計 II 建築 CAD ヨーロッパ建築史 建築材料 II 骨組の力学 II 熱・空気環境	建築法規及び同演習 建築計画 II ※その他の関連科目 日本建築史 建築材料実験 I	建築プロフェッショナル論 都市計画 建築設備システム及び同演習 工業概論* 職業指導(工業)*

教員養成の計画	前期は、建築入門を通して建築学が包含する広く深い世界に触れながら、設計・製図に必要な基礎的な知識を修得し、平面と立体をイメージして表現する技術を身につける。また、構造材料に関する基礎的な知識を修得する。後期は、計画、歴史、材料、構造、環境に関する基礎を学び、住宅など身近な建物の設計のための知識と技術を修得する。	前期は、歴史、材料、構造、環境に関する基礎を学ぶと共に、演習や実験によって講義内容の理解を深める。後期は、公共施設、商業施設、地域施設などの設計のための知識と技術を修得する。また、関連する法規の基礎を学び、社会に適用できる実践的な力を身につける。	前期は、より広い視点での社会貢献を目指して都市計画、地域計画を学び、また、設備システムを実践的に理解する。さらに現役実務者の講義により、専門技術を活用できる職域を理解し、地域社会に貢献するための基本的、実践的知識を修得する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	専門性の高い計画、構造等の各論について学ぶと共に、少人数による卒業研修を通して企画力、提案力、分析力、表現力などの力を養い、広く社会に通用する人間力を育み、社会に貢献するための確かな自信を身につける。
----------------	--	---	---	--

大学の教員養成の目標	産業デザイン学科の教員養成の目標
<p>東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。 	<p>工業の領域の確かな基礎を持ち、幅広い視野と高い倫理観を持った、問題把握力とその解決のための具体的な提案力に秀でた教員の養成を目標とする。</p>

必修科目 (選択科目) ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

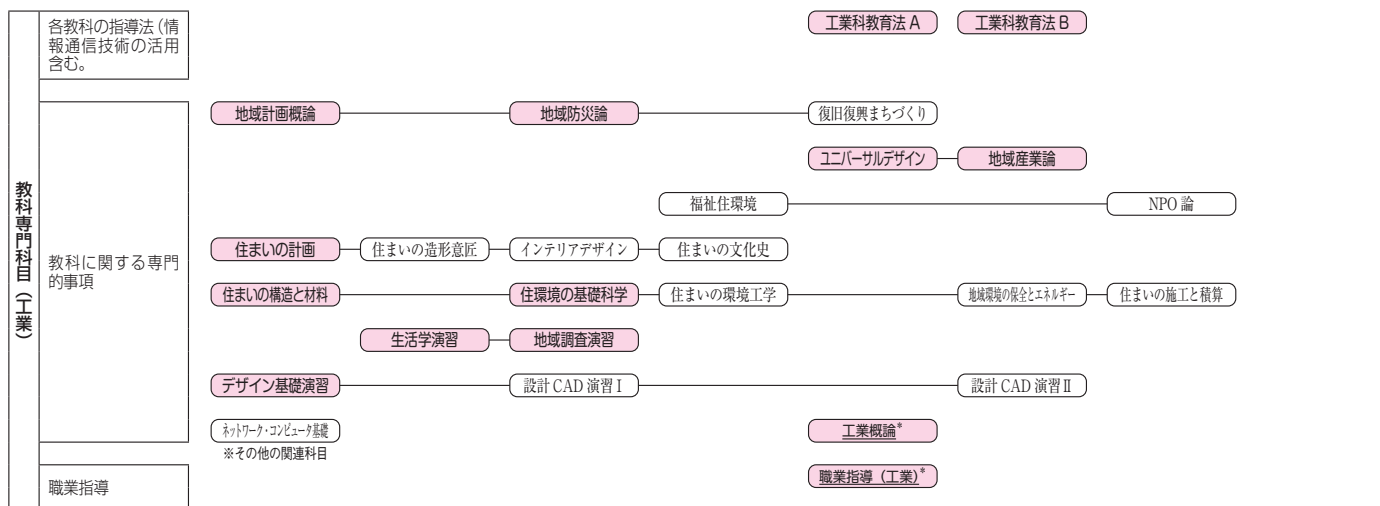
区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職概論 教育制度論	教育課程論	教育原理				
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育心理学 特別支援教育	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談				
	教育実践に関する科目			教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)			教育実習 事前・事後指導	教職実践演習(高)
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通じて、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教科専門科目(工業)	各教科の指導法(情報通信技術の活用含む)				工業科教育法 A	工業科教育法 B		
	教科に関する専門的事項	デザイン論Ⅰ デザイン史	デザイン論Ⅱ 色彩論	デザイン論Ⅲ エディトリアルデザイン論	情報デザイン論 材料学・生産技術 インタラクティブデザイン論 エルゴノミクス ユニバーサルデザイン	音と動きのデザイン デザインマーケティング論	工業学	
	職業指導	ネットワーク・コンピュータ基礎 ※その他の関連科目			工業概論* 職業指導(工業)*			
教員養成の計画	前期は、デザインを行う上で最低限必要な教養としてのデザインの歴史を学ぶ。後期は、色彩や配色の基礎を学び色彩の心理的効果等を重視し、適切にコーディネートできる能力を習得する。前期と後期を通して多岐にわたるデザインの対象を包括的に学びその幅広さと、現代社会でのデザインの有効性、意義を理解する。コンピュータの基本的な使用方法を習得する。		前期は、紙面の基本的な設計方法を習得すると共に、産業とデザイン分野との関係を理解し、現代産業におけるデザインの役割、意義を理解する。後期は、生活の中で使われる様々な工業製品の素材の特性についての知識、人々の活動と情報の関係を理解する。		前期は、人間が感じる「動き」や「音」の特性を理解し、そのデザインの方法を修得する。後期は、デザインとビジネスの関係をデザインの視点から理解し、ビジネスに不可欠なマーケティングという理論や手法を習得する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は、工業論の理解にとどまらず、現代の我々が抱える工業の課題、クラウドデザインについて考える。前期と後期を通して、必修科目である研修を通して、デザインの実践力、応用力、プレゼンテーション力を高める。	

大学の教員養成の目標	生活デザイン学科の教員養成の目標
<p>東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。 	<p>環境工学・建築学・保健衛生・福祉学・文化学などの諸領域を中心に、工学・工業に関わる確かな基礎知識と統合力・デザイン力を持ち、幅広い視野と高い倫理観を有する教員を養成することを目標とする。</p>

〔必修科目〕 〔選択科目〕 ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教職専門科目 教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 教育実践に関する科目	教職概論 教育心理学	教育制度論 特別支援教育	教育課程論 教育原理 生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法 教育相談 教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)			教育実習 事前・事後指導 教育実習	教職実践演習(高)
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				前期は、3年次までに培った知識及び技能を基に、「教育実習事前・事後指導」において指導案に基づく模擬授業を行い、その上で教育実習を行う。後期は、教育実習を通して、教員になる上での自らの課題を自覚し、「教職実践演習(高)」において、その課題を克服する。	



教員養成の計画	前期は生活デザインの基盤である「地域(空間及び社会)」について学ぶと共に、デザインと製図についての知識と技能を習得する。後期はデザインと製図について引き続き知識と技能を習得する。	前期は環境工学・建築学・保健衛生・福祉学・文化学などの基礎を横断的に学ぶと同時に、演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。後期も同様に同分野について行う。	前期は横断的に学んできた環境工学・建築学・保健衛生・福祉学・文化学等について専門的に学び、演習によって講義内容の理解を深めると共に技能の習得に努め、ならびに結果の整理・報告・発表を通じてコミュニケーション能力の涵養を図る。後期も同様に同分野について行う。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。	前期は専門性の高い各論として生活デザインについて学ぶのと平行して、前期と後期を通して、問題の発見と解決による自発的な知識獲得能力を、研修を通して4年間の学習を統合する。
----------------	---	---	--	--

大学の教員養成の目標	
東北工業大学の建学の精神や教育理念に則し、教員に共通して必要な資質・能力と高度の技術者としての専門的知識と技能を併せ持った教員を育成することを大学の教員養成の目的とする。そして、次の資質・能力を持った教員の養成を目標とする。 1. 学校教育や子どもについての基礎的な知識を理解している。 2. 他者との連携や協力をすることができ、円滑なコミュニケーションを図ることができる。 3. 教科についての専門的な知識や技能を修得している。 4. 以上のことを踏まえて、適切な教育実践を行うことができる。	

経営コミュニケーション学科の教員養成の目標	
商業の領域の確かな基礎を持ち、幅広い経営に関する知識とコミュニケーションに関する実践力を持った教員の養成を目標とする。	

必修科目
選択科目
 ※下線科目：一般的包括的科目、*は学科では選択科目ですが免許状取得希望者は必修科目

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
教職専門科目 教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目 教育実践に関する科目	教職概論	教育制度論	教育課程論						
	教育心理学	特別支援教育	教育原理	生徒・進路指導論	特別活動及び総合的な探究の時間の指導法	教育相談			
					教育の方法及び技術 (情報通信技術の活用含む)				
教員養成の計画	前期は、教職の意義及び教員の役割・職務内容と生徒の心身の発達及び学習の過程に関する基礎的な事項を理解する。後期は、教育に関する社会的・制度的・経営的事項と特別の支援を必要とする生徒に対する理解に関する基礎的な事項を理解する。		前期は、教育課程の意義及び編成の方法と教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する基礎的な事項を理解する。また、生徒指導と進路指導の理論及び方法を修得する。後期は、特別活動及び総合的な探究の時間の指導の方法、教育相談の理論と方法、そして情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を修得する。				教育実習 事前・事後指導 教職実践演習(高) 教育実習		

区分	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教科専門科目(工業) 各教科の指導法(情報通信技術の活用含む) 教科に関する専門的事項 職業指導	経営学入門		経営管理論					
	会計学入門	簿記論	マーケティング論	イノベーション政策論			ビジネスロールプレイング	
	ネットワーク・コンピュータ基礎 ※その他の関連科目	経済学入門	簿記論	財務会計論	財務管理論	ビジネスイングリッシュ	データベースと経営	
教員養成の計画	前期は、基礎を学び、経済の仕組みを支えるビジネスの意義を理解する。後期は、経済事象に対する主体性を養い、これらをプレゼンテーションやレポートの形でまとめることで、ビジネス事象に関わるデータの収集・分析力やコミュニケーション能力の涵養をも図る。		前期は、ビジネス上の課題を設定し、理論を用いて計画的に解決する手法を理解する。また、ビジネスの現場で必要となる ICT (情報通信技術) 利用に関する手法を学び、情報の的確な処理能力とともに経済事象の分析を通じた課題解決能力を涵養する。後期は、ビジネスの実践について学ぶ。		前期は、ビジネスの現場にとって必要な広範囲にわたる経営に関する知識や英語を含むコミュニケーション能力を深化させ、現場での適応能力を涵養する。前期と後期を通して、教職専門科目と教科専門科目で学んだ知識と技能を基に、教科教育法において科目の指導案の作成と模擬授業を行う。		前期は、ビジネスの現場を想定した実践的テーマに基づいたシミュレーションを行うことで現場での適応能力をブラッシュアップする。問題発見から解決方法までのビジネスモデルを、迅速かつ確実な情報処理能力によって、現実社会に即して構築することを目標にこれまで4年間の教科で得た技術・知識・経験を統合する。	

発行日 令和6年4月1日

発行 **東北工業大学**

編集 教務委員会

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35番1号

email gakusapo@tohtech.ac.jp

